

国立国語研究所学術情報リポジトリ
全国方言談話データベース 日本のふるさとことば
集成：第11巻 京都・滋賀

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002251

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第11巻 京都・滋賀

国立国語研究所資料集 13-11

国立国語研究所
2001

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8~12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけます。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成13年11月

国立国語研究所長 甲斐 瞳朗

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子、CD-ROM、CD）には、以下のものを収録しています。

	冊子	CD - ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

京都府京都市1983

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【年末年始の行事】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

滋賀県甲賀郡甲賀町1981

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【昔の食生活】			
文字化・共通語訳	<input type="radio"/>		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		<input type="radio"/>	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		<input type="radio"/>	
文字化 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
共通語訳 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
方言音声 (談話全体)			<input type="radio"/>
注記	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	<input type="radio"/>		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	<input type="radio"/>		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査実施要領	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査の実施について	<input type="radio"/>		
調査実施上の留意事項について	<input type="radio"/>		
「全国方言談話データベース」について	<input type="radio"/>		

Adobe Acrobat Reader		<input type="radio"/>	
----------------------	--	-----------------------	--

なお、CD-ROM は、CD プレイヤーに入れないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子, CD-ROM, CDに収録されているデータは, どのような目的においても, また, どのような媒体(紙, 電子メディア, インターネットを含む)によっても, 他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子, CD-ROM, CDに収録されているデータは, 教育・研究目的に限り, 自由に利用してけっこうです。ただし, 商業・営利目的での使用はできません。
- (4) この冊子, CD-ROM, CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は,
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように, 明記してください。
あわせて, 成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合, あるいは, 利用について不明な点がある場合は, 国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先: 〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX: 03-3906-3530

4. 付記

データの電子化, CD-ROM, CD の作成については, 「全国方言談話資料データベース」として, 平成9(1997)~13(2001)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)の交付を受けています。

国立国語研究所 13-11

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第11巻 京都・滋賀

目次

刊行のことば

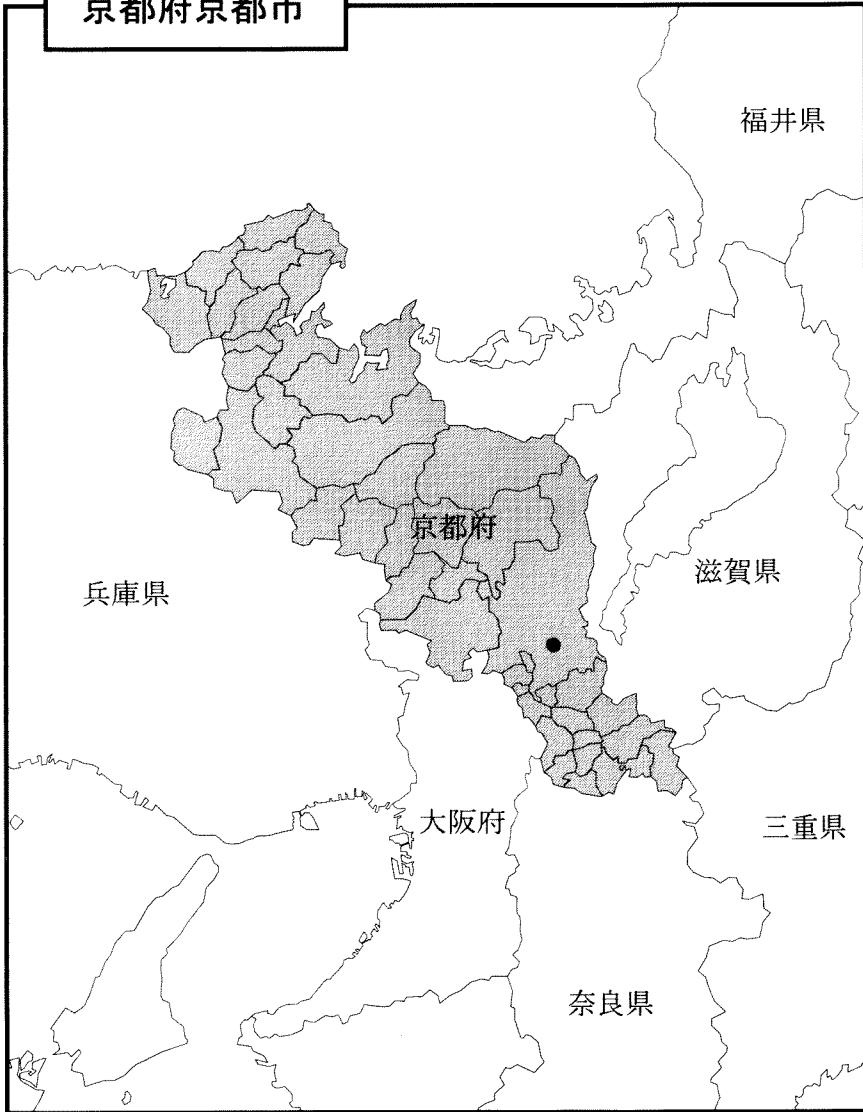
利用にあたって

I. 京都府京都市1983	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	22
談話	27
【年末年始の行事】	28
注記	98
II. 滋賀県甲賀郡甲賀町1981	101
地図	102
話者・担当者	103
解説	104
凡例	112
談話	117
【昔の食生活】	118
注記	200
作成・公開の経緯	203
「各地方言収集緊急調査」について	205

「各地方言収集緊急調査」 地点一覧	209
「各地方言収集緊急調査」 地点地図	214
各地方言収集緊急調査補助全体計画	215
各地方言収集緊急調査国庫補助要項	216
各地方言収集緊急調査実施要領	217
各地方言収集緊急調査の実施について	220
調査実施上の留意事項について	222
「全国方言談話データベース」について	228

I . 京都府京都市
1983

京都府京都市



京都府京都市1983話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	熊谷順子
	小嶋勇太郎
	秦與兵衛
	渡辺伊一
	渡辺文子
収録担当者	寺島浩子
文字化担当者	寺島浩子
解説担当者	井之口有一 寺島浩子

(敬称略　項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一
	江川清
	田原広史
	井上文子
校正担当者	高木千恵

京都府京都市1983解説

収録地点名 京都府京都市中京区

収録地点の概観

位置

中京区は、京都市の中央に位置し、面積は7.24 km²で、京都市の12%を占めている。おおよそ、東は鴨川、西は西大路通り、南は四条通り（一部は五条通りまで）、北は丸太町通りに囲まれた地域である。

交通

1981(昭和56)年に、京都駅・北大路間に開通した地下鉄丸太町線が中京区の真中を通っていて、四条駅・御池駅・丸太町駅が区内にある。1982(昭和57)年現在、中京区の各地下鉄からの一日の乗車数は、約47,000人である。

また、区内の主な市バス停留所は、次のとおりである。

河原町三条・四条河原町・四条烏丸・四条大宮・西大路四条

主要な通りには、南北の通りとして、河原町通り・烏丸通り・堀川通り・千本通り・西大路通りなどがあり、東西の通りとしては、丸太町通り・御池通り・四条通りなどがある。

地勢

地形はおおむね平坦で、南西方面へゆるく傾斜している。東には鴨川・高瀬川、中央に堀川、西には天神川・西高瀬川が流れている。京都盆地に属するため、降水量は少なく、夏はむし暑く、冬は寒い内陸性気候で、「京の底びえ」といわれるよう、寒さが厳しい。

行政区画

中京区堂之前町には、聖徳太子によって創建されたといいう、六角堂がある。794(延暦13)年に平安遷都。863(貞觀5)年に、神泉苑で御靈会が営まれる。1467(応仁1)年に勃発した応仁の乱の後、著しく衰微した。江戸時代になり大いに復興した。1819(文政2)年に成立した町組の自治最高機関「大仲」（2名ずつの各町組代表と年寄五人組からなる自治最高機関で、上京・下京の大仲が成立）が、1868(明治1)年に改編され、「番組」が設置される。1869(明治2)年、町組

が改編され、三条通りを境に、上京33、下京32計65番組が成立する。1879(明治12)年に上京・下京両区が成立。1929(昭和4)年に上京・下京両区の分区により、左京・東山とともに中京区が成立した。なお、区内には、祇園祭りの山鉾そのままの町名が多く見られる。

戸数・人口

1985(昭和60)年10月1日現在、世帯数36,251戸、人口10,015人で、人口は京都市の人口1,479,218人の6.8%にあたる。京都市の人口は増加している中で、市の中心に位置する中京区の人口は、いわゆるドーナツ化現象によつて、1955(昭和30)年をピークとして、減少してきていると言える。中京区の人口が減少している中で、老人人口(65歳以上)の割合は、1955(昭和30)年の4.4%から昭和60年の16.6%へと、急増している。

産業

1986(昭和61)年7月1日現在、中京区の事業所数は、京都市の各区の中で一番多く、京都市全体の15.3%、従業員数は、中京区の人口より多い数字を示す。上京区・北区など小規模工場の多い区と、南区・右京区など大工場の多い区の中間的な様相を示す。なお、1983(昭和58)年12月31日現在、製造事業所のうち、織維関係の工場が58.8%を占めている。

1982(昭和57)年6月現在、河原町・新京極・木屋町・先斗町など、市内有数の繁華街や錦・夷川などを有する中京区の商店数は、市内各区のうちのトップで、飲食店数は、京都市15,073戸のうち19.3%を占めている。

収録地点の方言の特色

中京区のことばは、京ことば・京都市方言の中心的存在で、古都のことばらしく優雅で、柔らかく、女性的で、敬語表現がよく発達し、婉曲表現に富み、女房詞が残存している。

音韻

狭義の音韻は、おおむね共通語と同様であるが、母音が強く子音が弱い。中京のことばの音声は、柔らか味があり、東京語よりは歯切れがよくない。

- (1) 母音ウは、東京語より唇を丸めて発音する。それで柔らかい感じを与える。

- (2) 母音が東京語より長い。これは談話の速度が東京語より遅いことも一因であろう。
- (3) 1音節語を長呼する。これは京阪アクセント（甲種アクセント）地帯の一般的傾向である。壯年層以下では長呼とそうしないものが併用されている。

コ <small>ー</small> (子)	ナ <small>ー</small> (名)	ヒ <small>ー</small> (火)
コーガ <small>ー</small>	ナーガ <small>ー</small>	ヒーガ <small>ー</small>
ジ <small>ー</small> (字)	ワ <small>ー</small> 上手ヤケド	エ <small>ー</small> (絵) ワ <small>ー</small> 下手ヤ。

- (4) 東京語にみられるような母音の無声化は起こらない。「ソーデス」の「ス」を無声化しない。
- (5) 語中の鼻濁音 [ŋ] は、80歳前後の話者は使うが、若年層は破裂音の [g] を使う。
- (6) 「言うたの」の「の」、「あるので」の「る」などは撥音化して、「ユータン」「アンノデ」となる。
- (7) /s/ > /h/ が多く見られる。
- (8) 連母音 [ai] などの融合は認められない。

アクセント

中京ことばのアクセントは典型的な京都アクセント（甲種アクセント）で、東京アクセント（乙種アクセント）とは、次のように反対になっているような感じさえ与える。

「橋」は中京でハシー、東京でハシー、「箸」は中京でハシー、東京でハシー、「端」は中京でハシー、東京でハシーとなる。

1 音節名詞	第1類	コ <small>ー</small> (子)	チ <small>ー</small> (血)
	第2類	ナ <small>ー</small> (名)	ハ <small>ー</small> (葉)
	第3類	エ <small>ー</small> (絵)	キ <small>ー</small> (木)
2 音節名詞	第1類	ウシ <small>ー</small> (牛)	ハシ <small>ー</small> (端)
	第2類	イシ <small>ー</small> (石)	ハシ <small>ー</small> (橋)
	第3類	アシ <small>ー</small> (足)	イケ <small>ー</small> (池)
	第4類	イト <small>ー</small> (糸)	ハシ <small>ー</small> (箸)
	第5類	アメ <small>ー</small> (雨)	サル <small>ー</small> (猿)

3 音節名詞	第1類	<u>カタチ</u> (形)	<u>サ克拉</u> (桜)
	第2類	<u>アズキ</u> (小豆)	<u>ヒガシ</u> (東)
	第3類	<u>ハタチ</u> (二十歳)	
	第4類	<u>オンナ</u> (女)	<u>コトバ</u> (言葉)
	第5類	<u>アサヒ</u> (朝日)	<u>イノチ</u> (命)
	第6類	<u>ウサギ</u> (兎)	<u>スズメ</u> (雀)
	第7類	<u>クスリ</u> (薬)	<u>タヨリ</u> (便)
2 音節動詞	第1類	<u>オク</u> (置く)	<u>キル</u> (着る)
	第2類	<u>トル</u> (取る)	<u>ミル</u> (見る)
3 音節動詞	第1類	<u>アタル</u> (当たる)	<u>ステル</u> (捨てる)
	第2類	<u>ウゴク</u> (動く)	<u>タテル</u> (建てる)
	第3類	<u>アルヶ</u> (歩く)	
2 音節形容詞		<u>ナイ</u> (無い)	<u>ヨイ</u> (良い)
3 音節形容詞	第1類	<u>アカイ</u> (赤い)	<u>オモイ</u> (重い)
	第2類	<u>アツイ</u> (暑い)	<u>シロイ</u> (白い)

2 音節名詞第 5 類の京都アクセントは、高い音節の真中に滝がある。また、世代によって、異なるアクセントもある。「琴」は、老年層でコト一（2 音節名詞第 5 類）であるのに、中年層・若年層はコトとなっている。奥村三雄氏は、新しい傾向として、3 拍語の●●○型が稀であること、3 拍形容詞や3 拍五段式動詞がそれぞれ、●○○型一型、●●●型一型をとること、3 拍一段式動詞2 類が、○○●型をとことなどを指摘された。

語法

中京ことばは、敬語表現がよく発達しているので、ここでは、主として、～ハル・オ～ヤス・～ドス、オとサンなどを取りあげる。

(1) 敬語助動詞

① ～ハル (～ヤハル)

「書かハります」「見ヤハります」のように用いる。ハルは、動詞の未然形に付いて、動作主を高めたり、口調を丁寧にする敬語助動詞である。「見る」「来る」など語幹が1 音節の語には、ヤハルが接続するが、この場合にもハルが接続することもある。また、「テハル」「テヤハル」のように「テ」

にも付く。敬意の度合はあまり高くない。ハルはナサル→ナハル→ハルと転じたもので、ハラ（ハロ）・ハリ（ハツ）・ハル・ハル・〔ハツ（たら）〕・ハレと活用する。

② オ～ヤス

「この着物賣うてオクレヤス。」「賣うトクレヤス。」のように、高い敬意を表すのに、主として老人層で使用される。～ハルより敬意度が高い。「だんなはん、どうぞ、オ出デヤシトクレヤス。」と重ねて、さらに敬意度を高めることもある。「オイデヤス。」「オ帰リヤス。」のように、あいさつ語にも使う。なお、ヤスはヤリマス→ヤリンス→ヤンス→ヤスと転じたもので、ヤサ・ヤシ・ヤス・ヤス・〔ヤシ（たら）〕・ヤスと活用する。ヤスは単独では用いず、必ずオ～ヤスの形をとる。

③ ～ドス

「そうドス。」「自由ドスわなー。」のように、主として老年層で使う丁寧な断定の助動詞。大阪語の「ダス」、共通語の「です」に当たる。ドスは「デオス」の転。「〇・ドシ・ドス・ドス・(ドシ（たら）)・〇」と活用する。なお、常体の断定の助動詞には、「ヤ」を使う。

④ ～マス

「書キマヒヨー（マホ）か。（「書きましょうか」の意）」のように、丁寧語のマスは未然形「マヒヨ」「マホ」に特徴がある。

(2) その他の敬語表現

① オス

「お兄さんと呼ぶこともオスけど」、「オヘンなー」のように使う。「ござります」の意の尊敬動詞。大阪語の「オマス」に担当する。

「頭イトオス。」のように使うのは、「ござります」の意の丁寧の補助動詞。

② ナハル

「あんさんがナハッたんどすか。」のように使う。「する」の尊敬動詞。

③ ～サン

町方で使うサン（ヤヤサン（赤ン坊の意））と女房詞系の最高敬称のサン（皇后サン・明治サン）とがある。サマ（様）は使わない。

④ オとサン

オ豆サン・オ芋サンのように、美化語のオとサンを女性は多用する。

(3) その他

① 連用命令法

「書キー（ナ）」「見ー（ナ）」のように、連用形を「書きなさい（な）」「見なさい（な）」の意に使う。「ナ」「ヤ」を添えることが多い。ただし、連用命令法とせず、近世の上方資料にあらわれる四段動詞の上一段活用化形の「命令形」とする説もある。

② オ行キル形

「オ行キル形」は、五段活用動詞が上一段活用化したものに「オ」を冠した形で、だいたい目下に用いる敬意の低い表現である。

ハヨー オカエリント アカンエ。

③ ウ音便

ウ音便は、コータ（買った）・ハローーテ・ハロテ（払って）・モータンヤ（貰ったのだ）・タコーナル・タコナル（高くなる）のように、ワ行五段動詞や形容詞の連用形に現れる。なお、ウ音便は平安時代以後現れ、関西方言には見られるが、現代東京語には「ございます」「存じます」が続く以外は見られない。

④ ～ヨル

「ユーテキヨッタ」のように、第三者の動作を軽く扱ってぞんざいにいう男性語的助動詞である。

(4) 人称代名詞

京ことばの人称代名詞は他地方よりも豊富である。しかし、近世後期よりもその数は減少している。次にこれを例示する。

① 一人称代名詞

単数には、ウチ（多）・ワタクシ・ワタシ・アタシ（女）を、複数には、ウチラ（多）・ワタクシタチ・ワタシラ（ワタシタチ）・アタシラ（女）などを使う。

② 二人称代名詞

単数には、アンタハン（多）・アンタ・アンサン・アナタ・オウチ（少）

を、複数には、アンタラ（多）・アンタガタ・アンタハンヤラ・アンサンガタなどを使う。

(5) その他の表現

① 語感

京ことばの持つ魅力、微妙なニュアンスの表現は、とりわけ助詞・助動詞や感動詞などの選択によってかもし出される。「待ってくれ」「待ってて」というよりも、「待ッテテヤ」と「ヤ」を添えることによって柔かくなる。

② 婉曲表現

京ことばは、直示性を避け、間接的婉曲的な言いまわしをすることが多い。「傘を預ってください。」の代わりに、「傘預ってモラエマヘンヤロカ。」のようにいう。

③ 疊語表現

「お上りヤシテオクレヤス」「承りマシテゴザイマスデゴザイマス」のように、疊語的構成によって、敬意を強める表現法がある。また、「アツアツなる」「キツキツ言う」のような形容詞の語幹を重ねる女性的表現法もある。

④ ぞんざいな表現

「ソーヤンケ」「エーヤンケ」「イニマッサ」(帰りますわ)「ソーヤンカイサ」(そうではないか)のような形は、現在ではぞんざい感が薄れている。

語彙

京ことば語彙の全般については、『京都語辞典』を参照のこと。京都語には東京語と全く別系統の語形は少ない。アカイを赤・明の両義に、ミズクサイ・タクなどには用法上の差が認められる。

「茎漬け」をオクモジというように、女房詞が中京区の町家で現用されていることは、京ことばの特徴である。次のようなものがある。

オナカ（ごはん） ムシ（味噌） オマワリ（おさい）

オマナ（うお） スモジ（鮓） カラカラ（鰹）

オナマ（なます） オイタ（かまぼこ） オヒヤ（水）

オハマ（蛤） カチン（餅） クモジ（くき）

オアシ（錢） オマン（饅頭） オシャモジ（杓子）

オハギ（ぼたもち） オイシイ（うまい） ムラサキ（醤油）

なお、女房詞のうちには、シャモジ・オイシイのように、一般語化したものもある。

参考文献

井之口有一 (1965) 「尼門跡使用の御所ことばと『蠶藻屑』」近代語学会編『近代語研究1』 武蔵野書院

井之口有一、堀井令以知 (1972) 「人称代名詞の調査」『京都語位相の調査研究』東京堂出版

井之口有一、堀井令以知共編 (1975) 『京都語辞典』 東京堂出版

模垣実 (1946) 『京都双書5 京言葉』 京都高桐書院

奥村三雄 (1979) 「京都方言」 平山輝男編著『全国方言基礎語彙の研究序説』明治書院

久野真 (1984) 「京都方言の音韻」 平山輝男博士古希記念会編『現代方言学の課題2』 明治書院

寺島浩子 (1983) 「『京言葉』記述の試み」『橘女子大学研究紀要』10 橘女子大學

寺島浩子 (1984) 「京言葉の待遇表現の特質」 国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究5』 和泉書院

(以上の解説は、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『京都府の方言—京都府方言収集緊急調査報告書—』(京都府教育委員会、1987年)による。)

京都府京都市1983凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位に切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるよう、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「一」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者番号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X 1, X 2, X 3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X 1, X 2, X 3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名についても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うこととした。

記号

。 (句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンデス ヨソレデ ワタシガ イッタンデス

 そうなんですよ。 それで 私が 行ったんです。

、 (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連續して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

* * * 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼー／＼ モジナンデスナ、

／＼／＼／ 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意訳であることを示す。

例：イマ ュー

今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して |

[] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある**再生**の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「京都 01-1」はCD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「京都 01-1」「京都 01-2」……「京都 01-6/02-1」……「京都 12-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

[↑01], **[01↑02]**, ……**[11↑12]**, **[12↑]** のように表示される。

第11巻のCD(64分21秒)には、京都府京都市の談話【年末年始の行事】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ, 行	終了ページ, 行	時間:分:秒
01	p.28,1.1	p.33,1.7	0:01:53
02	p.33,1.9	p.40,1.3	0:02:10
03	p.40,1.3	p.45,1.11	0:01:45
04	p.45,1.11	p.52,1.1	0:01:56
05	p.52,1.1	p.58,1.7	0:02:24
06	p.58,1.9	p.64,1.3	0:02:02
07	p.64,1.3	p.70,1.11	0:02:10
08	p.70,1.11	p.76,1.1	0:01:59
09	p.76,1.3	p.82,1.7	0:01:58
10	p.82,1.7	p.88,1.15	0:02:07
11	p.88,1.17	p.94,1.3	0:02:09
12	p.94,1.3	p.97,1.17	0:01:46
計			0:24:19

京都府京都市 1983 談話

収録地点	京都府京都市中京区
収録日時	1983(昭和58)年12月21日
収録場所	京都府京都市東山区祇園町 八坂神社境内 八坂斎館
話題	年末年始の行事
話者	A 男 昭和2年生(収録時56歳) 医薬品製造業 B 男 昭和37年生(収録時79歳) 商業 C 男 昭和14年生(収録時58歳) 商業 D 女 昭和9年生(収録時49歳) 婦人服仕立 E 女 大正1年生(収録時69歳) 茶道師範
調査員	F 女 大学教員 G 男 京都府教育委員会文化財保護課技官

収録時間 (CD) 24分19秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、京都府教育委員会によって『京都府の方言—京都府方言収集緊急調査報告書—』(京都府教育委員会編集・発行 1987(昭和62)年3月31日)が作成されている。

【年末年始の行事】

話し手

- A 男 昭和2年生 (収録時56歳)
- B 男 明治37年生 (収録時79歳)
- C 男 大正14年生 (収録時58歳)
- D 女 昭和9年生 (収録時49歳)
- E 女 大正1年生 (収録時69歳)
- F (調査員)
- G (調査員)

1E：ホシツキサンノオモチ [1] チューノ (A エー) ナニニ
ほしつきさんのお餅 というの [は] (A ええ) 何に

↑01

オソナエシタンドフネ [2]。 (A アノー ネー) ホシツキサンネー
お供えしたんです [か]。 (A あの ねえ) ほしつきさんねえ、

ワタシラ コンナニ タクサン。
私たち [は] こんなに たくさん [作りました]。

2A：モー ホント ツ ツクラハリ [3] マスカ？
もう、 本当 [に]、 × 作られますか？

3E：ハイ。 イマー チガウ*、 (A ア) モー
はい。 今 [=現在] [は] 違いま [す]、 (A あ) もう、

ムカシノイエデ。 (A エー) モー イマ ワタクシモ
昔の家で。 (A ええ) もう 今 [は] 私も

ヒトリデスサカイネ モー ホーットニ オハズカシー ナンニモ
独りですからね、 もう、 本当に お恥ずかしい、 何も

京都 01-2

シマセンサケ モ、 (A ハー) アノー ナンデシタデスケドネ。
しませんから もう、 (A はあ) あの、 あれでしたんですけどね。

4A：トシトク [4] ワー ホシツキサンテナ ワタシトコワ イマデモ
歳徳 [神] は ほしつきさんというの、私 [の] 家では 今でも

シテマシテネー。 (E ソーザンショ [5] ネー。 オモチワ)
していましてねえ。 (E そうでございましょうねえ。 お餅は)

コレワー ネー ダイコクサンデストカネー。 (E ヘー)
これは、 ねえ、大黒さんですとかねえ。 (E ヘえ)

ダイコクサン ソレカラ イナリサン (E ヘー) ソレカラ イマノ
大黒さん、 それから お稻荷さん。 (E ええ) それから 今の、

ソノー ヘビノ アノー エー ベンテンサンデスカ。 (B フン)
その、 蛇の、 あの、 ええ 弁天さんですか。 (B ふん)

ソレカラ コレワ モー シンブツコンゴーヤケドモ オハカ。
それから これは、 もう 神仏混合だけれども、 お墓、

ナンカ ホシツキサン モッティキマスネー。 (E ンー)
なんか [に] ほしつきさん [を] 持っていきますねえ。 (E んー)

5B：マー ツマリ アレー アノ ホシツキ ッチューノワ
まあ、 つまり あれは、 あの ほしつき というの、

ケッキョクワ アノ カガミモチノ カンタンニー (A ソーデスナ)
結局は あの、 鏡餅の、 簡単に (A そうですね)

ツマリ ショーリヤクシタモノデスワナー。
つまり 省略したものですよねえ。

6A：ソーデスワ。 ソーデスワ。 (B ヘー。 パット ウエカラ)
そうですよ。 そうですよ。 (B ええ。 ぱっと 上から)

アレヤトネー ウエー ミカン ノセラレシマセンネン。
あれだとねえ 上に みかん [を] 乗せられやしないんです。

(B あー。 アレワ ノセラレヘン) モー ホシツキダケデスワ。
(B ああ。 あれは 乗せられない) もう ほしつきだけですよ。

コロント。
ころんと。

7B：{咳払い} ホラー Cサントコモ、 ネンマツワ
{咳払い} それは Cさん [の] ところも 年末は

オイソガシオスサカイネー。
お忙しいですからねえ。

8C：エー。 モー ネンマツワ モー。 (A ソラー イソガシーデスワナ)
ええ。 もう 年末は もう。 (A それは 忙しいですよね)

9B：ショーガツノコシラエ チュナモンワ。 ワシラ
正月の準備 というようなものは。 私たち [は]

コドモノジブンニ ヨー オジー、 (C ア サヨカ {笑})
子供の時分に よく、 ××× (C あ、 そう [です] か {笑})

京都 01-4

オジーサンニ カイニヤラサレテ {笑} イツモ ナランデ。 {笑}
お祖父さんに 買いにやらされて。 {笑} いつも 並んで。 {笑}

{お茶をする音} Cハンノニマメ [6] チュタラ モー キョート
{お茶をする音} Cさんの煮豆 といつたら もう 京都 [で]、

10A : ユーメーヤ。

有名だ。

11C : イエ イエ。 {笑}

いえ いえ。 {笑}

12E : テラマチノ、 ナンデスカ。 (B ソー)

寺町の、 あれですか。 (B そう)

13C : ソー ソー。

そう そう。

14A : ソーデス。 ブッコージノ。

そうです。 仏光寺の。

15B : へー。

ええ。

16E : ヤマモ、 アノ、 {笑} アノ、 X1サンネ。 オチャズケヤサン。

××× あの、 {笑} あの、 X1さんね。 お茶漬け屋さん。

(C へー へー へー、 オチャヤサン。 オチャズケノ*) ハー

(C ええ ええ ええ、 お茶屋さん。 お茶漬けの*) はあ

ワタシ オチャカンケイデネ。 (C アー ソーデスカ) ハー
私 お茶関係でね。 (C ああ そうですか) はあ、

アノ オジーサン イマモーネー (C ウン チョット)
あの おじいさん、 今もねえ (C うん ちょっと)

ヤッテルンデスケド (C ハー) アノー シッテオリマス。
やっているんですけど (C ええ) あの、 知っております。

(C アー ソーデスカ) ワタシ トミノヨージノマツワラサガルニ
(C ああ そうですか) 私、 富小路の松原下ルに

オリマシテネ。 (C ハー) X 2 テ アノ
[住んで] おりましてね。 (C はあ) X 2 といって あの

キンランデ (C アー ソーデスカ) ハー X 2 ッテ アノ
金欄で (C ああ そうですか) はあ、 X 2 って あの、

シテマス。 (C アー) モー センゼン ズット、
知っています [か]。 (C ああ) もう 戰前 [は] ずっと、

アノー シテマシテネ シュジン モー ナクナ、 モー
あの、 していましてね、 主人 [は] もう ××× もう

ナンジューネン マエニ ナクナリマシタサカイ モー ナンデスケドネ。
何十年 [も] 前に 亡くなりましたから、 もう あれですけどね。

ホンデ アノヘン ヨー シッテ、 カイチヤラ
それで あの辺 [は] よく 知って [いて]、 開智だとか

ユーリン [7] ヤラ (C ソーデスネ) ヘー。
有隣だとか (C そうですね) ええ。

17C : ホナ オクサントコ ユーリンデシタ。
それでは 奥さん [の] 所 [は] 有隣でした [か]。

18E : ハイ。 ユーリンデゴザイマシタ。 ゴジョードーリヤラネー。
はい。 有隣でございました。 五条通りだとかねえ。

(C ハイ) モー アノー。
(C はい) もう あのー。

[01↑02]

19B : イマ ホーエンロージンクラブノ アノ サドーブノ (E {笑})
今 豊園老人クラブの あの、 茶道部の (E {笑})

(C アー サヨカ) センセオ シテイルン。
(C ああ そう [です] か) 先生を しているん [です]。

(C ヘー) (D ソーデスカ)
(C へえ) (D そうですか)

20E : {笑} アソビデ。 {笑} (B ヘー)
{笑} 遊びで。 {笑} (B へえ)

21A : ソラ ケッコーデスナー。
それは けっこうですねえ。

22D : ケッコーデスネ。 {笑}
けっこうですね。 {笑}

京都 02-2

23E : ホンデ アノ ユーリンヤラネー カイチャラ、
それで あの 有隣だとかねえ 開智だとか、

ナツカシゴザイマスネ。
なつかしゅうございますね。

24C : ワタシワ モー ジ、 モージキ [8] ヤケド。 イヤ
私は もう × もうすぐだけど。 いや、

ハイリマヘンケドネ。 (B・D {笑})
[老人クラブの茶道部には] 入りませんけどね。 (B・D {笑})

25A : {笑} モージキデッカ シカシー。
{笑} もうじきですか、しかし [=それにしても]。

26C : モージキデ。 モー ニネンデ。 (D モー マモナク)
もうすぐで。 もう 2年で。 (D もう 間もなく)

ケ、 ケ、 ケ、 ケン**。 (A アー ソーヤッタカナー)
× × × × ××**。 (A ああ そうだったかな)

27E : ヨー、 ジョチューサンヤラ オタクノマメーネ カイニ イキマシタ。
よく、 女中さんとか [が]、 お宅の豆 [を] ね、 買いに 行きました。

(C ア ソーデスカ) エー。 モー オカシ。 {笑}
(C あ そうですか) ええ。 もう 可笑しい。 {笑}

(A デマヘンヤロ) アソコノシカ コドモガ
(A 出ませんでしょう) あそこの [もの] しか 子供が

イタダキマセンデシタ。
いただきませんでした。

- 28A : Cサン。 スンマヘン。 ソノー チョット (C ハイ ハイ)
Cさん。 すみません。 その、 ちょっと (C はい はい)
- ドビン。 ソー ソー (C ハイッ) アノホーガ ヨロシ
急須 [を]。 そう そう (C はい) あの方が よろしい
- (B ナンースカ) アノホーガ ヨロシ。 (C ハイッ)
(B 何ですか) あの方が よろしい。 (C はい)

- 29E : イマー アノ ゴショノチカクニ オリマスンデスケドネ。 モー **
今 あの 御所の近くに おりますんですけどねえ。 もう **
- (C アー ソーデスカ) ヘー。 モ ヒトリデゴザイマスケド。
(C ああ そうですか) ええ。 もう 独りでございますけど。

- 30B : ソヤケド コレー アノー ベンジョニ アノー
だけど [=それにしても] これ あの、 便所に あの、
- オカガミサンオ オソナエスル ッテナコト
お鏡 [餅] さんを お供えする というようなこと [は]
- キヨートドクトクチャウ [9] ヤロカ ドコデモ ャッテルヤロカ。
京都独特ではないだろうか。 どこでも やっているだろうか。
- (A ドーヤロネー) ネー。 (C ドーデショナー) ヘー。
(A どうだろうねえ) ねえ。 (C どうでしょうねえ) ええ。

アノ、

あの、

31A：ワタシトコナンカネー ベンジヨ フロバー

私 [の] ところなど [は] ねえ、 便所、 風呂場、

(B フン) イドーナンチュノワネー (B フン)

(B ふん) 井戸などというのはねえ、 (B ふん)

ワカザリ [10] チューマシテネー (C ハー) (B フン一)

「輪飾り」 といいましてねえ、 (C はあ) (B ふん)

シメナワーデスケド、 アノー ドクトクナー ミジカイ

しめなわんですけど、 あの 独特の 短い

ミジカイシメナワ クット ワーニ シマスネン。 (C エー エー)

短いしめなわ [を] くっと 輪に するんです。 (C ええ ええ)

(E ソーデス。 アレデネエ) ネ。 アレデスネー。 ソースット

(E そうです。 あれでねえ) ね。 あれですねえ。 そうすると

ピント ツノガ デル。

ピンと 角が 出る。

32C：ナ、 ナン チューノ？ (D ツルビエ) ツ ツルビエ ユーノ。

× なん というの？ (D //) × // [と]いうの。

33E：アレデ ミナ ウラエ デマシタトコトカネ。

あれで 皆 [=全部] 裏へ 出ました所とかね。

京都 02-5

(A ソーデス。 ウラグチトカ) カッテグチトカ
(A そうです。 裏口とか) 勝手口とか

(D ウン、 ソーヤネー) モー タクサンネー。
(D うん、 そうだねえ) もう たくさんねえ。

(A イッパイ カサゲテ) ハー。
(A いっぱい 束ねて) はあ。

34D：オフロパートカ。

お風呂場とか。

35A：オフロバー。 ソーデスネー。

お風呂場。 そうですねえ。

36C：ウチモ コレ、 コレグライノネー カミサンダナー、 ネー
うちも これ、 これくらいのねえ 神棚、 ねえ。

(A ウン) ボソット アッタンスワ。 (A ハー) エー。
(A うん) ぼそっと あつたん [で] すよ。 (A はあ) ええ。

(A フーン)
(A ふーん)

37E：ユズリハ [11] ヤラオネ、 (A ン) チャント アノー
ゆずり葉だとか [を] ね、 (A うん) きちんと あの

(A ウラジロ [12] ト ツケマシテ) (C エ) ウラジロニー
(A 裏白と [を] つけまして) (C え) 裏白に

京都 02-6

ミズヒキデ ククッテ (A ソーデス) (B {笑}) アノジブンノ
水引きで 結んで (A そうです) (B {笑}) あの時分の

ワタシラノ アノー スル、 ナンデゴザイマシタ コノ、 (D ネー
私たちの あの、 する、 あれでございました この、 (D ねえ、

シゴトデシタネ。 {笑}) ソシテ ジョチューサント イッショニ
仕事でしたね。 {笑}) そして 女中さんと 一緒に、

クライノデネ。 (A チョット、 クライサカイ
暗いのでね。 (A ちょっと、 暗いから

ツイテキテモローテ [13]) アノー ハー、 アンドンデ アノー コー
ついてきてもらって) あの、 はあ、 行燈で あの、 こう

(A アー) ガントー チューノ アリマスネー (B {笑})
(A ああ) 「がん燈」 というの [が] ありますねえ、 (B {笑})

コー パート テラス。 (A エー。 {笑})
こう ばあっと 照らす。 (A ええ。 {笑})

アンナン モッテッテワ シュット カケテモラッタリ。
あんなの [を] 持って行っては シュッと 掛けてもらったり。

{笑} (A アー {笑}) コドモノジブンデスケド。
{笑} (A アー {笑}) 子供の時分ですけど。

38A : Dサントコモ アレデスカ。 ャッパリー (D ゾ)
Dさん [の] ところも あれですか。 やはり (D ×)

オーミソカ ユータラー イロイロ アリマスカ。
大晦日 [と] いつたら いろいろ ありますか。

39D：ソーデスネ アノ、チチガ イキテタトキワ、(A ハ) ャッパリ
そうですね、あの、父が 生きていた時は、(A は) やはり

アノ、{咳} サンジューイチンチノ ヒルカラグライ、カラネ?
あの、{咳} 31日の 昼からくらい、からね?

(A ハ) オカガミサン [14] トカ ソノ (A ン一 エー) イマ
(A は) お鏡 [餅] さんとか その (A ん一 ええ) 今

ユ一 ホシツキサントカ (A ハ) デ
いう [=今話題にあがつた] 「ほしつきさん」とか (A は) で

アノ サンボーサン [15] ワネー (A ハ) アノ コー ミツツー
あの 三宝さんはね (A は) あの こう 三つ

(A ハ ミツツ。ハ) オカガミサンニ、ソンナンオ コー
(A はあ、三つ。は) お鏡 [餅] さんに そんなものを こう

ズット ミンナー アノー {咳} ソナエツケニネ、(A ン)
ずっと みんな あの、{咳} 供えつけにね、(A ん)

コー、マワリマスニヤ、ソレオ オボンノウエニ、ノセテネ、
こう、回るんですよ。それを お盆の上に、乗せてね、

(A ハイ) ズート、チチノアトオネ {笑}
(A はい) ずうっと、父の後をね {笑}

(A ア モッテ) ツイテ {笑} フーン。
(A あ、 持って) ついて {笑} ふん。

40A：ア一 ソーデスカ ソーデスカ。 (B {咳}) アレ アノー
ああ そうですか。 そうですか。 (B {咳}) あれ あの、

[02↑03]

イマノワカザリオ ソーユー、 ソノ、 ウラトカ、 クラノマエトカ、
今の輪飾りを そういう、 その、 裏とか、 倉の前とか、

ユートコエ サゲー、 サゲマシテネー。 ワタシ
[そう] いう所へ 下げ、 下げましてねえ。 私、

コドモノジブンニ、 アノー チョット ク クライノデ チョット
子供の時分に、 あのー ちょっと × 暗いので ちょっと

コワイサカイー (E {笑}) アノー アンマリ
恐いから (E {笑}) あの、 あんまり

イカレヘンノーッスワ。
行くことができないんですよ。

(E {笑}) ホントニネー。 ヨー アッター) デー
(E {笑}) 本当にねえ。 よく あった) で

オショーガツニ ナッテカラ イクト トンデモナイトコニ ゾレ
お正月に なってから 行くと とんでもないところに それ [が]

カケタールンデスネー。 (E エー) オ、 コンナトコエ ダレガ
掛けであるんですねえ。 (E ええ) お、 こんなところへ 誰が

京都 03-2

カケタンヤロー ト オ オモウヨーナトコニネー
掛けたんだろう と × 思うような所にねえ。

(E ソードフネー {笑}) チョット カケタールンデスナー。
(E そうですねえ {笑}) ちょいと かけてあるんですねえ。

(E ソーデス)
(E そうです)

41B：コンブヤ ダイダイノ アノ イワレワ ワカルケレドモ
昆布や 橙のあの、 いわれは わかるけれども

(E タークサン ツクリマシタワー) アノー ウラジロ ッテ
(E たくさん 作りましたよ) あの、 裏白 と

ユーモノワ アレ ドーユーイミ、カラ、
いうものは あれ [は] どういう意味から、

(A イヤー ドーユーイミナンカナー)
(A いやあ、 どういう意味なのかなあ)

ヒクヨーニナッタンヤロネー アレー。 {笑}
敷くようになったんだろうねえ。 あれ [は]。 {笑}

42A：アレワ ドーユーイミデス アレ。
あれは どういう意味です [か]、 あれ。

43B：ナニカ イワレガ。 ナー。
何か いわれが。 ねえ。

京都 03-3

44A：ナニカ アルンドッセー キット。 ソレニ ユズリハーネ。
何か あるんですよ、きっと。 それに 謙り葉ね。

45B：へー。
ええ。

46E：ユズリハトネー。
謙り葉とねえ。

47A：ハー。 (E ソーデスネ)
はあ。 (E そうですね)

48G：マー ユズリハノバーイワ モー メーショーカラ キタ ヨツギノ。
まあ 謙り葉の場合は もう 名称から きた 世継の。

49B：フーン。
ふーん。

50A：アー。 (E ユズル?) (G ハー) フーン。
ああ。 (E 「謙る」?) (G はあ) ふーん。
(E ネ ユズル?)
(E ね 「謙る」?)

51G：ヨースルニ イエオ ツグ ト ュー、(E ヘー ソーデッシャロネー)
要するに 家を 繰ぐ と いう、(E ええ そうでしょうねえ)

52A：アー ユズル。 (G ハイ) アー ソーデスカ。
ああ 「謙る」。 (G はい) ああ そうですか。

京都 03-4

53E : へー。 ユズリハ ト ユー ワタシモ ソーユーニ
ええ。 「譲り葉」 と いう 私も そういう [ふう] に
キー テオリマスケドネー。
聞いておりますけどねえ。

54A : フーン。
ふうん。

55B : マー スベテ、 ツマリ、 ダイダイ、 エーダイニ サカエルヨーニ ト
まあ 全て、 つまり、 代々、 永代に 栄えるように と
(A フーン) ユーイミヤネー。
(A ふーん) いう意味だねえ。

56A : ケッキョク ソラ モー スベテ ソーユー (B エアー)
結局 それは もう 全て そういう (B ええ)

コトデッシャロケドナー。
ことでしうけどねえ。

57B : スベテー、 ソッカラ デテンニヤロケド。
全て、 そこから 出ているんだろうけど。

(A フン) ユズリハガ (A ボク) ナンデー アレオ、
(A ふん) 譲り葉が、 (A 僕) なんで あれを
ウラジロ、 (A ウラジロネー) ウラジロ、
裏白、 (A 裏白ねえ) 裏白、

58D：ウラジロ ホデ、 アレ、 (B ウン) ウラムケー、 テ
裏白 それで、 あれ、 (B うん) 裏向け、 と

ユーンデスカ？ (B エー、 ヘー) ネエ アノ、
いうんですか？ (B ええ、 ヘえ) ねえ あの、

(A ハ、 ハ) (E ソーデス) シロイホーオネー
(A は、 は) (E そうです) 白い方をねえ

(E ヘー) ウエニ シテー、 ネ。
(E ええ) 上に して、 ね。

59B：エー エー アレオ、 アレオ ダシマフナー。 (D ハー) エー。
ええ ええ あれを、 あれを 出しますねえ。 (D はあ) ええ。

60A：ソーデス ソーデス。
そうです そうです。

61B：ソーユートコロニ ナンカ インガ アンニヤロ [16] ト
そういう所に 何か 意味が あるんだろう と

(A フーン) オモウネケドネー。
(A ふーむ) 思うんだけどねえ。

62E：ユ ユズリハノホーオ オモテ ムケテネ。 (B エー) ソシテー
× 譲り葉の方を 表 [に] 向けてね。 (B ええ) そして
ヨー アノー、 ニマイ、 ワタクシラ ニマイ シマシタデスケド。
こう あのー、 2枚、 私たち [は] 2枚 しましたんですけど。

63A : アー ソーデスナ。 (E ウン ネー アレ) コー (E へー)
ああ そうですね。 (E うん ねえ あれ) こう (E ええ)

コーヨーニ。 (E へー) ハー。
このように。 (E ええ) はあ。

64E : ソシテー ミズヒキデ ムスンデ。 (D ククッテ) (A へー)
そして 水引で 結んで。 (D 括って) (A へえ)

アノ タクサン ツクリマシテネ。 {笑} アノ、
あの たくさん 作りましてねえ。 {笑} あの、

65B : ソレニ クシガキオ ソエテネ。 (A ウン、 クシガキ)
それに くし柿を そえてね。 (A うん、 くし柿)

(E オイ ンー) {笑} (A コナイ)
(E ×× んー) {笑} (A こんなに)

[03↑04]

(E デ ムカシワ) (A ウン) (E アノ) (A ドーゾ)
(E で 昔は) (A うん) (E あの) (A どうぞ)

コラ シカシ イマ、 ゲンザイモ ドコモ
これは しかし 今、 現在も どこでも

ヤッテハリマスワナ。
やってらっしゃいますよね。

66E : アノー オモテ シメナ、 シメカザリ シマスネー¹
あの、 表 [玄関] [に] ××× しめ飾り [を] しますねえ、

京都 04-2

(B フン一) アノ、 モンオ。 (B フン一) (A エ一)
(B ふん) あの、 門を。 (B ふん) (A ええ)

アレオ ヨー トラレマシタンワ ドーユーコトデオマッシャロ。
あれを よく とられましたのは どういうことでございますでしょう。

(A ハー ア) アノー (A ヤッパリ ゲン [17] デッシャロ)
(A はあ あ) あの、 (A やはり 縁起かつぎでしよう)

リッパナンホドネ、 (A フン) アノー、 トラレマス。
立派なものほどね、 (A ふん) あの、 盗られます。

ワタシトコ (A フン) ヨー トラレマシテネ。
私 [の] 家 [は] (A ふん) よく 盗られましてね。

(A アー ソーデスカ) ハー、 ビックリシテタコトガ アリマス。
(A ああ そうですか) はあ、 びっくりしていたことが あります。

(A ヘーエ) コー ネッテ オーキーノガ アリマスネー、
(A へえ) こう ねじって 大きいのが ありますねえ、

(A エー エー エー) アレノネー、
(A ええ ええ ええ) あれのねえ、

(A ゴンボー チュヤツデスナ) (B {笑}) ワタシトコワ
(A 棍棒 というやつですね) (B {笑}) 私 [の] ところは

ツクラナインデスケドネ、 (A ハー) マー イナカカラ
作らないんですけどね。 (A はあ) まあ、 田舎から

京都 04-3

モッチキハリマフネ。 (A ハー ハー ハー) シ ソレオネー、
持って来られるんです。 (A はあ はあ はあ) × それをねえ、

ミッカカンノアイダニ、 アノ、 ナクナリマス。 (A ホー)
3日間の間に、 あの、 なくなります。 (A ほう)

ソーユー、 ソーユーコトガ ゴザイマス。 (A フンー) エー。
そういう、 そういうことが ございます。 (A ふん) ええ。

ナンカ ヤッパリ エンギノ、 アレデッシャロネー。
何か やはり 縁起のあれでしようねえ。

67A：マ エンギトチガイマスカ。
まあ、 縁起 [かつぎ] じゃないですか？

68E：エー。 ソーデッシャロネー。
ええ。 そうでしようねえ。

69A：アノー、 ヒヨーサツ モッティイクノト イッショデー。
あのー 表札 [を] 持っていくのと 同じで。

70E：ハイ ハイ ハイ、 ソーカモワカリマセンネー。 (A ネー)
はい はい はい、 そうかもわかりませんねえ。 (A ねえ)

イヤー チューナコトデネー。
「あらー」 というようなことでねえ [=盗られて驚いていた]。

71A：ンナラ コマリマスナー。 (E {笑}) (B {笑}) アレー
それじゃあ 困りますねえ。 (E {笑}) (B {笑}) あれ

京都 04-4

ジューゴンチマデ オイトカナイケマセンデッシャロー?
15日まで 置いておかないといけませんでしよう?

72E : ソーデフネ、 へー、 ンー。
そうなんです、 ええ、 んー。

73B : ジューゴンチマデ ドーシテモ オカンナラン。
15日まで どうしても 置かなくてはならない。

74E : ジューゴンチニネー (A ンー) モヤシマスワネー。
15日にねえ (A んー) 燃やしますよねえ。

75A : ソーデス。
そうです。

76B : マー、 Eサンノワ リッパナハカイ モー ウチ コトシ
まあ、 Eさんは 立派だから もう 私 [は] 今年
カワント Eサンノ モロトクワ、 {笑}
[しめなわを] 買わないで Eさんの [を] もらっておくよ {笑}
(E {笑}) (A・C {笑})
(E {笑}) (A・C {笑})

77A : フタツ ツクットカナイキマセンナー {笑}
二つ 作っておかないといけませんねえ {笑}

78E : コドモノジブン ナツカシュオスワ ヤッパリ ネー (A アー)
子供の時分 [が] なつかしいですよ、 やはり ねえ、 (A ああ)

京都 04-5

ソーユー (B シー) イロイロノコト、 オショーガツノコト
そういう、 (B んー) いろいろのこと、 お正月のこと [を]

スルノガネー (A ネー) タノシーテ。
するのがねえ、 (A ねえ) 楽しくて。

79D : コノゴロ シハルトコガネー、 (E ネー) ダンダン
この頃、 されるところがねえ、 (E ねえ) だんだん

スクナナッテクルシ。
少なくなってくるし。

80E : {笑} モー コノゴロワ ワスレテ、 ウチラノマゴナンカ ナンニモ
{笑} もう この頃は、 忘れて、 私たちの孫なんか [は] 何にも

シリマセンワ。
知りませんよ。

81C : ソーデスネー モー、 モチツキモ ヤランヨーニ
そうですねえ もう、 餅つきも やらないように

ナリマシタカラネー。
なりましたからねえ。

82E : ネー。 ソーデス。
ねえ。 そうです。

83A : ワタシトコ イマダニネー、 モチ ツイテマスネ
私 [の] 家 [では] いまだにねえ、 餅 [を] ついているんです、

イエデ。

家で。

84C：ア一。 ツ ツカハルンスカ。

はあ。 × [ご自分で] つかれるん [で] すか。

85A：ツ ツ ボクワ コノ ウスドリ シマンネ。 (C ハー)

× × 僕は この、 白取り [を] するんです。 (C はあ)

(E エー) モ ウス シンドイサカイ ツクノワ。

(E ええ) もう 白 [は] 疲れるから、 つくのは。

(C アー モー ネ) ムスコガ一 ツカシテ ワシ

(C ああ もう ね) 息子が [=息子に] つかせて 私は

ウスドリオ シマシテネー。 (E ネー、 タノシーモンデスワネ)

白取りを しましてねえ。 (E ねえ、 楽しいものですよね)

(C フン一) デ ソレガ カナイマセンノワネー、

(C うん) で それが 敵いません [=たまらない] のはねえ、

ナンデー ソノ モチ、 ツク チュート ソノ一

なぜ、 その、 餅 [を] つく [か] というと その、

オカガミサンオ ツクランナランデスワ。 (D {笑}) イマ

お鏡 [餅] さんを 作らないといけないんですよ。 (D {笑}) 今

サッキ ヨータヨーニ ゼンブ オカガミサン

さっき いったように 全部 お鏡 [餅] さん [が]

京都 04-7

アリマッシャロ。 (C ヘー エー) ソレデ ゼンブ オーキサモ
ありますでしょう。 (C ええ ええ) それで 全部 大きさも

カタチモ チガイマスネ。 (C フン) カズモ。 ソヤカラ
形も 違うんです。 (C ふん) 数も。 だから

ソレ ジブンデ センナラン。 デ ウスドリ
それ [を] 自分で しないといけない。 で 曰取り [を]

シマシテネー、 チョット ミズオ スクナイメニネ、 (D ハイ)
しましてねえ、 ちょっと 水を 少なめにね (D はい)

ヤッティキマスネ。 (C フーン) ヘヤナイト コー ダラット
やっていくんです。 (C ふうん) そうでないと こう ダラッと

ダレマスネ。 (B エー) (E アー ソーデス ソーデス)
垂れるんです。 (B ええ) (E ああ そうです そうです)

デー、 チョット アツイケド ガマンシナガラ コー、
で、 ちょっと 熱いけど 我慢しながら こう、

(C エー) ホンデ コンドワ ヤッタヤツオ
(C ええ) それで 今度は やったやつを [=杵でついたものを]

ボイット ソノ モチブタエ アゲタラネ？ コンド
ぽいっと その、 もち蓋へ 上げたらね、 今度 [は]

ウエオ ジブンデ トビアガッテ コレ オカガミサン
上を [=上に] 自分で 跳び上がって これ お鏡さん [に]

シンナランデスワ。 (C ハー) テガ一

しないと [=作らないと] いけないんですよ。 (C はあ) 手が

[04↑05]

アツナッテマッシャロー、 (C ウン) (B シー) ウスドリ
熱くなっていますでしょう、 (C うん) (B んー) 曰取り

シ、 シタアトデスサカイニ。 (B シー) (C シー)

× した後ですから。 (B んー) (C んー)

ソラ アツツイ アツイ アレ モツノガネー、 ソラ

それは 热い 热い あれ [を] 持つのがねえ、 それは

ホンマニ アレ モー {笑} ジゴクデッセ アレー。 {笑}

本当に あれ [は] もう {笑} 地獄ですよ、 あれは。 {笑}

(B フーン) デ オーキーヤツワネー、 アレデスワ。

(B ふうん) で 大きいやつはねえ、 あれですよ。

イチバンシタガネー、 デ、 イッショー、 (C イッショ)

一番下がねえ、 × 1升、 (C 1升)

サンゴーグライナンデス。 (C ハー。 コレグライデスカ) イヤー

3合ぐらいなんです。 (C はあ。 これぐらいですか) いや、

モー (C モット アリマスカネ) コノグライ アリマッセ。

もう (C もっと ありますかね) このぐらい [は] ありますよ。

ネ。 ソエカラ ソノウエガネー、 (C ハー)

ね。 それから その上がねえ、 (C はあ)

京都 05-2

ハチゴーグライデスカネ。 (C ハー) デ ソノ
8合ぐらいですかね。 (C はあ) で その、

イチバンシタノ、 オーキーヤツデストネー アノー シ
一番下の、 大きいやつですとねえ、あの、 ×

シトツノウスデワ、 デケシマセンネン。 (C ンー) デ
一つの臼では できやしないんです。 (C んー) で、

ツイトイテ ヨコ オイトイテ フキン、 ヌレブキン
ついておいて 横 [へ] 置いておいて ふきん、 濡れぶきん [を]

カケトイテ モー イッパツ ツイテー、 (C ンー) ンデ
かけておいて もう 一発 ついてー、 (C んー) それで

ツギノヤツノ スコシ キッタヤツオ シギノナカエ ブチコンデー コー。
次のやつの 少し 切ったやつを しげの中へ ぶち込んで こう。

アーナッタ ワンリョクデスナ。 (C ハー) フン。 デ
ああなったら 腕力ですねえ。 (C はあ) うん。 で

コー ギャギャギャート クルット ヒックリカエシテ コー ギャート
こう ギャギャギャーと クルッと ひっくり返して こう ギャーと

マワシマッシャロ。 (C ソー ソー ソー ソー)
回しますでしょう。 (C そう そう そう そう)

コーンナヤツオネ。 (C エー) ソレオー (B {咳})
こんな [大きさの] やつをね。 (C ええ) それを (B {咳})

京都 05-3

ソラ ホンマニ ヨーケ ツクリマスニヤー。 (C アー)
それは 本当に たくさん 作るんですよ。 (C ああ)

タイシサンノマエモ オカンナランシネー。
太子さんの前 [に] も 置かないといけないしねえ。

(B フーン。 フン フン) ワリニ オーキーヤツ。 (B フン)
(B ふうん。 うん うん) わりに 大きいやつ [を]。 (B うん)

ンデ オテラエ モッティキマスシネー。 (C アー)
それで お寺へ 持っていきますしねえ。 (C ああ)

ホヤケニ、 ホトンド、 ツイタモチ、 ホトンド
だから、 ほとんど、 ついた餅 [は]、 ほとんど [が]

オカガミサンデス。
お鏡さん [用] です。

86C : イマ、 コトシモ?
今、 今年も?

87A : ツキ、 ツキマス (C ハー) ニジュークニチニ。 デ
×× つきます。 (C はあ) 29日に。 で

アトワ モ コモチ チュナモノワネ、
あとは もう 小餅 というようなものはね、

ショーガツノゾーニヨーグライデスワ。
正月の雑煮用ぐらいですよ。

京都 05-4

(C アー。 アー サヨカ) ハー。 デ ワタシワ

(C ああ。 ああ そう [です] か) はあ。 で 私は

ゾノー タベルヤツワー アノー ウルーモチ[18]ガ スキデネ。
その 食べるやつ[=餅]は あの 糠餅が 好きでねえ。

(C ハー)

(C はあ)

88D：フン。 コーバシー テネー ヤカハッタラ オイシーデスネ。

うん。 芳しくてねえ。 焼かれたら おいしいですね。

89A：エー アレネー。 (B {笑}) エー。

ええ、 あれねえ。 (B {笑}) ええ。

90C：ウチワーノガックワネー モー ネー、 ガッコードネー

私×の学区はね もう ねえ、 学校でねえ、

ショーネンホドーガネー、 (A ア ガッコード ヤラハリマスカ?)

少年補導がねえ、 (A あ 学校で やられますか?)

ヤリマフネン。 (B アー ホーデッカ) ホ ホーデ

やるんです。 (B ああ そうですか) × それで

コドモガ モー、 ツイテン ツクー ッチューノーネー

子供が、 もう、 ×××× [餅を] つく というのをねえ

(A フン) シリマセンシネー? (A フン) ダカラ コドモニ

(A ふん) 知りませんしねえ。 (A ふん) だから 子供に

イッカイズツ ツカスンデスケドネー。 マ キネ
1回ずつ つかせるんですけどねえ。 まあ 丼 [を]

ヨー モタシマヘンワ (B {笑}) コノゴロノコー。
持てやしませんよ。 (B {笑}) この頃の子 [は]。

(A ハー。 ソーヤナー) エー、 ワタシモ ウスドリ
(A はあ。 そうだなあ) ええ、 私も 白取り [を]

ヤルンデスケドネー。 (A ハー) ソラネー、 コー アゲヨッテ
やるんですけどねえ。 (A はあ) それはねえ、 こう 上げて

コーナルンデス。 (A ハー ソラ アキマセン。 アラ アブナイ)
こうなるんです。 (A はあ それは いけません。 あれは 危ない)

ウン。 アブナイデスワー。 (A フン) ヒトリ、 ヒトリ コトシモ
うん。 危ないですよ。 (A ふん) 一人、 一人 今年も

ヒトリ コー {腕を手のひらで叩く音} (A イカレ[19]マシタカ?)
一人 こう {腕を手のひらで叩く音} (A 怪我をしましたか?)

ウスデ イカレ、 テネー。 (A アー) (B フン)
白で 怪我をしてねえ。 (A ああ) (B ふん)

91B : ンラー アンマリ ヤラセマヘンナー。 (C エー) (D エ)
それは あんまり やらせ [られ] ませんねえ。 (C ええ) (D え)

* * テモネー。 {咳}
* * てもねえ。 {咳}

京都 05-6

92G：マ イマンートコ ソノー オウチデ オモチオ ツカレル ト ュー
まあ 今のところ、 その、 お家で お餅を、 つかれる と いう

(A エー) コトニ ナリマスト。 オクドサン [20]、 マ
(A ええ) ことに なりますと、 おくどさんは まあ

イマワ モー、 ナクナッテ。 (A オクドサン、 アリマス)
今は もう、 なくなって、 (A おくどさん、 あります)

ソノバーイニー、 (A エー) ドノオクドサンオ ツカイマスカ?
その場合に、 (A ええ) どのおくどさんを 使いますか?

93A：ソレワネー。 コノ、 ソレガネー。 マエノオクドサンワ モー コレ
それはねえ。 この、 それがねえ。 前のおくどさんは もう これ

モー ザンネンナガラ、 トリハライマシテネー。 (G ムカシ)
もう 残念ながら、 取り扱いましてねえ。 (G 昔)

マエワ イクトモ アッタンデス。 マエワネー、 ミツツ
前は 幾つも あったんです。 前はねえ、 三つ

アリマシテネー。 ソレデ アノー、 コレワ ニタキヨーノヤツワ
ありましてねえ。 それであの、 これは、 煮炊き用のものは

チョット アサインデス。 (D ソーデス) ソーデスネー。
ちょっと 浅いんです。 (D そうです) そうですねえ。

チョット アサイデスネー。 (D コーユーカッコデネ)
ちょっと 浅いですねえ。 (D こういう形でねえ)

テツノナベガ カカッテマシタネー。 (E へ) ソレガ フターツ
鉄の鍋が かかってましたねえ。 (E え) それが 二つ

アッテ、 ゴハンヨーノオーキイヤツガ、 (C フン) (E フン)
あって、 ご飯用の大きいものが、 (C ふん) (E ふん)

フカイヤツガ ヒトツ アッテ、 (D エー) ソコデ、 セーロデ、
深いものが 一つ あって、 (D ええ) そこで、 蒸籠で、

ムカシワ ムセタンデスワ。

昔は 蒸せたんですよ。

[05↑06]

94D：フチベニ アワシテネ セーロガ コシラエテネ。
縁べに [を] 合わせてね 蒸籠が 作って [あって] ね。

95E：アノ チョット コー、 ネ タカクナッテマシテ。 (A ソーデス。
あの ちょっと こう、 ね 高くなっています。 (A そうです。

ソーデス) ソコデー アノ モー、 コンナ オカマネー。
そうです) そこで あの もう、 こんな お釜 [で] ねえ。

(A オーキナカマガ) オユー オユオ ワカシテター、 オカマ。
(A 大きな釜が) お湯 お湯を 沸かしていた、 お釜。

(A ソーデスナ) へー。 ソレカラ ツギー、 ン チョット
(A そうですね) ええ。 それから 次 [は]、 × ちょっと

サガッテ、 コノグライノガ フタツ
下がって、 このぐらいの [もの] が 二つ

京都 06-2

アル、 ソレガ一 マ、 カクイッカクニ コナグライニ、
ある、 それが まあ、 画一角に このぐらいに、

オクドサン ゴザイマフネー。 (A エー) ソシテ ワレ
おくどさん [が] ございますねえ。 (A ええ) そして ××

ワタクシラ ゴハン、 タイタリ マ オカズデスカ、
私たち [は] ご飯 [を]、 たいたり まあ おかげですか、

(A ハー) ムカシワ、 ニワ マタ コチラニ ズット
(A はあ) 昔は、 ×× また こちらに ずっと

フットーサセテ。 (A ア、 ソレヨーノヤツガ?) ハー。
沸騰させて。 (A あ、 それ用のやつが?) はあ。

(A ンー) モ コチラノオッキーノンモ、
(A んー) もう こちらの大きいのも、

96B : ウッ、 ンー。 | Dに | アッ シカクイヤツカ? セイロ。
×× んー。 | Dに | あ 四角いやつか? 蒸籠。

97G : | Eに | アノー、 フダンノヒワ ツカワナイ ト ュー。
| Eに | あの、 普段の日は 使わない と いう。

98E : ハー ソーナンデス、 ハー。 (A ハー。 ハー)
はあ、 そうなんです、 ええ。 (A はあ。 はあ)

99D : | Bに | ン、 マルイ、
| Bに | ん、 丸い、

京都 06-3

100B : マルヤロ？ ホデ ソノ、 {咳払い} (D フン一)
丸だろう？ それで その、 {咳払い} (D ふん)

101E : ワタシ アソコエ、 アノー ワラヤラ イレテ シー
私 あそこへ、 あの、 薫やなんか [を] 入れて んー

タイタ、 アノー ヒー ツケテ。
焚いた、 あの 火 [を] つけて。

102G : アノー。 ソノ オカマサンオ、 ナンカ、
あのー。 その、 お釜さんを、 何か、

ヨンデラッシャイマシタデスカ?
[特別な名前で] 呼んでおられましたですか。

103E : オカマ。 (G ソノ ト、 トクベツ) マ オユダケシカ
お釜。 (G その × 特別) まあ お湯だけしか

ワカサヘン ソコワ。
沸かさない そこは。

104B : | Dに | ナ ナベノー、 カマノー、 フチニ アワシタ セイロー
| Dに | × 鍋の 釜の 縁に 合わせた 蒸籠を

コシラエテタンヤロナ。 (D ソーネッ。 ソレヨーニ コシラエテ)
作っていたんだろうね。 (D そうね。 それ用に 作って)

ン一、 ソレヨーニネ。 (D フン) シー。
んー、 それ用にね。 (D ふん) んー。

京都 06-4

105G : | Eに | ソレ ナンテ オッシャッタ?
| Eに | それ [を] なんて おっしゃった [んですか] ?

106E : サー ソコワ {笑} モー イマ ワスレ、 (A フーン)
さあ そこは {笑} もう 今 [は] 忘れ [て] (A ふーん)

ワタシ モ スエッコデゴザイマスサカイナー アンマリー アノ
私 もう 末っ子でございますからねえ、 あんまり あの

オボエテマ**。

覚えていま [せん]。

107G : ヤッパリ コージンサンノマツリ [21] ナンカワ ソノオカマサンデ、
やはり 荒神さんの祭なんかは そのお釜さんで、

108E : ソーデス、 モー カンゼ、 (G ヤル****) ハイ。
そうです。 もう 完 [全]、 (G やる****) はい。

ツネ ツカワナインデス。 デ モー、 ツネワ ホンデ
日頃 [は] 使わないんです。 で もう、 日頃は それで

ホコリダラケデスヨネー。 (A フーン) ソノシタガ チョード
埃だらけですよねえ。 (A ふーん) その下が ちょうど

タキギーレヤラトカネ、 (A ア) (B ウン ウン)
薪入れだとかね、 (A あ) (B うん うん)

ソーユーナンニ、 ハー ナッテマシタデスワ。
そういう形に はあ なっていましたですよ。

京都 06-5

109A : D サントコデモ ヤッパリ アレデスカ？ モチ ツカレタ、
Dさん [の] 所でも やはり あれですか？ 餅 [を] つかれた、

ムカシワ、 ココロミノモチ [22] ヤ シハリマシタカ。
昔は、「試みの餅」とか されましたか。

110D : ソーデスネ。 チッサイトキヤシ ソノー、 コー (A エー エー)
そうですね。 小さい時だから その、 こう (A ええ ええ)

ム ム ムツカシー (B ミナ ヤリマスワナー) アレワ
× × 難しい (B みんな やりますよねえ) あれは

ワカリマセンケド、 (A ハー) マー アノー タノシーナー ッテ
わかりませんけど、 (A はあ) まあ あの 楽しいな って

オモイナガラ、 (A エー。 エー) イツモ サイゴニ ナッタラ
思いながら、 (A ええ。 ええ) いつも 最後に なつたら

アノー センリョー マンリョー ユーテネ、 (A フン) アノ
あの 「千両」 「万両」 [と] いってね、 (A ふん) あの

オモチ ツケタ、 オモチオ チッソ一 チギッテ、 (A ハー)
お餅 [を] つけた お餅を 小さく ちぎって (A はあ)

サイゴノ、 アノー、 ウスノナカエ、 (A ハ) ホリコンデ
最後の、 あの、 白の中へ (A は) ほうりこんで

(A ハ) ホンデ アノー ミンナデ テー
(A は) それで あの みんなで 手 [を]

タタイテネ、 {手を叩く音} (A アー) オメデトーサン
叩いてね、 {手を叩く音} (A あー) 「おめでとうさん」 [と]

ユーテ？

いって？

111A : ハー。 (D ウン) ソーデシタカ。 ソレワ ワタシ
はあ。 (D うん) そうでしたか。 それは 私 [は]

シランナー。 ウーン。 ワタシラントキワー ソ
知らないなあ。 うーん。 私たちの時は ×

サイゴノモチノトキワー ミズドリ チュイマシテネー。 (D ハイ)
最後の餅の時は 「水取り」 といいましてねえ。 (D はい)

(C フン) モー コンドワ ソレコソ モー キナコニ、 ノ ヤー
(C ふん) もう 今度は それこそ もう 黄粉に、 × × ×

アノー、 トリコ チュンデスカナー アレ。 (D ハイ) トリコニ
あの、 取り粉 というんですかねえ あれ。 (D はい) 取り粉に

ツケズニ (E エー エー) チッチャイ チッチャイ ソレコソ
つけずに (E ええ ええ) 小さい 小さい それこそ

コンナヤツオ、 トッタヤツオ アノー、 イッポ コンナー
こんなものを、 取ったものを あのー、 一方 こんな

ドンブリニ、 ダイコオロシ スッタルン (D ハイ)
丼に、 大根おろし [を] すってあるの [で] (D はい)

{笑} ソコエ バーット ブチコンディイッタリ、 (D オロシモチネ)
{笑} そこへ ばあっと ぶちこんでいったり (D おろし餅ね)

オロシモチデスネー。 (D ハイ) ソレオー シテー。
おろし餅ですねえ。 (D はい) それを して。

[06↑07]

112E : オイシオスネ。
おいしいですね。

113A : オイシーデスネ アレ。 (E {笑})
おいしいですね。 あれ。 (E {笑})

114D : アンコノオモチ センド タベテネ。
あんこのお餅 [に] しないで 食べてね。

115A : アイツ、 ダイコオロシ チュノワ、 モチノショーカガ
あれは、 大根おろし というのは 餅の消化が
エーノカシリマセンケド アイツ ホンマニ ヨロシーデスネ。
よいのか知りませんけど あれ [は] 本当に よろしいですね。

(E ネー)
(E ねえ)

116D : ネー、 アト アッサリシテ。
ねえ、 後 [が] あっさりして。

117A : エー。 アッサリシテ。 エー。 ピリピリット カローテ。
ええ。 あっさりして。 ええ。 ぴりぴりっと 辛くて。

京都 07-2

(D ソーデスネ) エー。
(D そうですね) ええ。

118E : ワタシラノコドモシブンワ タノシュオシタネー モー。
私たちの子ども [の] 時分は 楽しゅうございましたねえ、もう。

(A アー ネ) ネンマツー ネッ (A フン)
(A ああ。 ねえ) 年末 ね、 (A ふん)

ネンシ ユート。
年始 [と] いうと。

119A : イカニモ モー (E ソシテー) ショーガツガ
いかにも もう (E そして) 正月が

クル ッチュナカンジデネー。
来る というような感じでねえ。

120E : ソーデフネー。 (B {咳}) デ ココ サンジュー
そうですねえ。 (B {咳}) で ここ 30

サンジューイチンチワ オニシメーネー。
31日は 煮物ねえ。

(A ソー ソー。 ソー ソー) オカーサンヤラガタ モー
(A そう そう。 そう そう) お母さんがたなんか [は] もう

ソレバッカリニ カカッテネー。 マー。
そればかりに かかってねえ。 まあ。

121A：モー ダイドコデ ャッテハリマスシナー。 エー。
もう 台所で やっておられますしねえ。 ええ。

ソノ、 モチツキノマエニ ススハライ テ アリマシタデスカ？
その 餅つきの前に すす払い って ありましたですか？

122E：アー ソーデスワ ソーデスワ。
ああ、 そうですよ、 そうですよ。

123A：ネー。 テッタイサン [23] ヤラ ミナ キテー。
ねえ。 お手伝いさんとか [が] みんな 来て。

デ ススハライガ オワッタラ コンドワ、 モチゴメ、
で すす払いが 終わったら 今度は、 餅米 [を]

カシテ。 (E **** * *** ネー) オケニ ミズニ
かして。 (E **** * *** ねえ) おけに 水に

ツケトイテー。
つけておいて。

124D：ネ。 カメニ コーネ。 ズーット。 (A ズーット コー、 ワケテ)
ね。 瓶に こうね。 ずうっと。 (A ずうっと こう、 分けて)

125E：コンナー アノ ザルデシタネ。 (A ソーデスワ) (B {笑})
こんな あの ザルでしたね。 (A そうですよ) (B {笑})

コー、 モチゴメ コー カシテアゲタンノ。 (A ソーデスワ)
こう、 餅米 [を] こう かして上げてあるの。 (A そうですよ)

シッテマスワ、 オイテアリマシタ。
知っていますよ、 置いてありました。

126A：ネー。 {間} ソーデスカ ワシトコワ イマダニ マー、 キボワ
ねえ。 {間} そうですか、 私の所では いまだに まあ 規模は

スクナイデスケド、 ニタヨーナコト
少ない [=小さい] んですけど、 似たようなこと [を]

ヤッテルンデッセ？ (D アー ソーデスカ) ハー。
やっているんですよ。 (D ああ そうですか) はあ。

127B：マー イマデモー アノ ココロミノオモチヤ ューテカラニ、
まあ 今でも あの 「試みのお餅だ」 [と] いって、

アノー チョーナイデモ ニサンゲン一 モッテキテクレハリマッセ。
あの 町内でも 2、3軒 持ってきてくださいますよ。

(A オ? オタク) ヘー。 (A ホー)
(A お? お宅 [の町内]) ええ。 (A ほう)

モチツキオ シタトキニ一、 (A ウン ウン)
餅つきを した時に (A うん うん)

モッテキテクレハルンデスワ。 (A ソーデスカ?) エー。
持ってきてくださるんですよ。 (A そうですか) ええ。

ココロミドス テ。 (A ウーン ソーデスニア) ウン。
「試みです」 って。 (A うーん そうですねえ) うん。

京都 07-5

ヤッテハルトコワ イマデモ ヤッテハン*****
やっておられる所は 今でも やっておられる [んですね] **

(A ソーデスカー) エー。
(A そうですか) ええ。

128A : マ ウチモ一 ヤッテマスケドネー。 (B フン) エー
まあ 私 [の家] も やっていますけどねえ。 (B ふん) ええ

チビノコロワ コノ イタズラシテ ソコラ
小さい頃は この いたずらして その辺 [を]

イッショーケンメーニ ナッタ ソノママノカッコーデ イツモ
一生懸命に なった そのままの恰好で いつも

モッティットイデー ッテ (B {笑}) イワレルンデスワ。
「持って行っておいで」 って (B {笑}) いわれるんですよ。

ホデ モッティキマンネ ソレー。 {笑} ココロミノモチデス
それで 持って行くんです それ [を]。 {笑} 「試みの餅です」

ッテ。 (C フーン) ホコデ グリコヤトカネー、
って。 (C ふうん) そこで グリコ [キャラメル] だとかねえ、

アノー ソンナン オタメ [24] ニ ハイットンネ。
あの そんなものが おために 入っているんだ。

(B ホー) ソレガ ウレ**
(B ほう) それが うれ [しい]

オダチンガ。 {笑}

お駄賀が。 {笑}

129D : オダチンガ タノシミデ。 {笑}

お駄賀が 楽しみで。 {笑}

130A : {間} エー イマワ シカシ、 ナクナリマシタナー。

{間} ええ、 今は しかし、 失くなりましたねえ。

131B : ハー シ、 シカシ ナンデスカイナ。 ナン ナンニモカモ、 イマワネ。

はあ × しかし なんですかね。 ×× なにもかも、 今はね。

132E : ンー。 オニシメタキモーネー ホントニ モー (A ンー)

んー。 煮物焚きもねえ 本当に もう (A んー)

オンナノネッ。 (B フーン)

女のね。 (B ふーん)

133D : ソレカラ (B ホンデ アノ) セーロノネ、 (A エー)

それから (B それで あの) 蒸籠のね、 (A ええ)

ムシタ サイゴノオユデ アノ、 カシライモー アノ、

蒸した 最後のお湯で あの、 頭芋を、 あの、

(A ハイ ハイ) ネー (A ウン) ユガカハリマスナー。

(A はい はい) ねえ (A うん) ゆがかれますねえ。

(E ア ハー ソードス ソードス) (A ハー。 ソーデスナ)

(E あ はあ そうです そうです) (A はあ。 そうですね)

134E : ジョーズニネー (D ネー) ノコッタソノオユオ、 オカマサンノオ
じょうずにねえ (D ねえ) 残ったそのお湯を、 お釜さんのを

(D フン) ノコシトクカシテネ ウチラモ、

(D ふん) 残しておくかしてね 私たちも、

ジョチューサンノトキ、 (B {咳}) デ ソコエ アノ
女中さんの時、 (B {咳}) で そこへ あの

オカシラネ ムイタン コンナンオ マタ。

頭芋 [を] ね むいたの [を] こんなのを また。

135A : ダイコント。 (E ネッ) イワイダイコン [25] ト。

大根と。 (E ねっ) 祝い大根と。

136E : へー。 * * * * オカシラ [26] ワ (B イマワ モー) イワ、
ええ。 * * * * 頭芋は (B 今は もう) ××

[07↑08]

アレワ キッタライケマヘンノヤネ、 カシライモワ。

あれは 切ってはいけないんですね、 頭芋は。

137D : ソーデス。 マルママデネ。 (E ソーデス)

そうです。 丸のままでね。 (E そうです)

138A : オーキナママデスナ。 (E ソヤサカ モー コンナン)

大きいままでね。 (E だから もう こんなの)

139D : オワンニ (E ソーデス) イレタ (E ソーデス。 {笑})

お碗に (E そうです) 入れたら (E そうです。 {笑})

京都 08-2

オツユガ ハイラヘンホド、 (B ン一) オッキーヤツオ。
おつゆが 入らないほど、 (B ん一) 大きいものを。

140A : ホンマ イモバッカリ ポコート。 {笑} ウエカラ
本当に 芋ばかり [が] ぼこんと。 {笑} 上から

カツオブシ ピピピット カケテ。 {笑}
鰹節 [を] ぴぴぴっと かけて。 {笑}

(E オイシー カ オイシオスモンネー) ナシクズシデ。
(E おいしい × おいしいですねえ) なしくずしで。

141E : スキドシタ ワタシモ アノ カシライモ。
好きでした 私も あの 頭芋。

142A : ワタシモ イマ アレー、 スキデスネ。
私も 今 あれ、 好きなんです。

143E : キョートノオゾーニワネット。
京都のお雑煮はね。

144A : オイシーデスナー、 アレ。
おいしいですねえ、 あれ。

145E : ホントニ オイシオスネ。 (A エー) シロミソデ。
ほんとに おいしいですね。 (A ええ) 白味噌で。

146A : ソノ ミソモネー、 エート キノー ツケヨリマシタナー。
その 味噌もねえ、 えーと 昨日 つけましたねえ。

イエデ ツケマスネ。
家で つけるんです。

147E : ムカシワネー オミソカラネー。 (D ヘー)
昔はねえ お味噌からねえ。 (D ヘえ)

148C : ハー ミゾ。 イエデ?
はあ 味噌。 家で?

149A : ハイ。
はい。

150D : オミソマデ。
お味噌まで。

151A : ウン。 シロミソデスケドネ? (D イヤー スゴイ)
うん。 白味噌ですけどね。 (D いやあ すごい)

152C : モー ミゾモ ワルイデスサカイナー コノゴロワ。 (A ウン一)
もう 味噌も 悪いですからね、 この頃は。 (A うん一)
(B {笑}) ネー。
(B {笑}) ねえ。

153E : ネー。 ソーデスヨネー。
ねえ。 そうですよねえ。

154A : モー ナニガ ハイットル ワカラシマセンヤロ。
もう 何が 入っている [か] わかりやしませんでしょう。

(C ソー ソー) (E エー) ソレデネ アノー、 イエデ
(C そう そう) (E ええ) それでね あの、 家で

ツケルトネー、 ツボニ ツケル、 イチバン サイショニ ツケヨルノワ
つけるとねえ、 壺に つける、 一番 最初に つけるのは

シオガ チョット タクサン イル。 (C ハーツ) カライヤツ。
塩が ちょっと たくさん 要る。 (C はあ) 辛いもの。

デ ソノツギガ チョット ナカテグライノシオニ シテ。
で その次が ちょっと 中くらいの塩 [の量] に して。

デ ウエワ モー、 ウント アマジオノヤツ。 ウエカー
で 上は もう、 うんと 甘塩のもの。 上から

ジュンバンニ タベティキマスワナ。 (C ウーン)
順番に 食べていきますよね。 (C うーん)

(D アー ソードスカ) エエ、 デ ショーガツヨーノヤツワ
(D ああ そうですか) ええ、 で 正月用のものは

ソコノアマイヤツデスワネ、 (C フーン)
そこの甘いものですよね、 (C ふーん)

シオノスクナイヤツデスワ。 デ マー チョット ミソヅケシタリ
塩の少ないものですよ。 で まあ ちょっと 味噌づけ[に]したり

シテマスワナー。 アノー グジートカ アノー マナ、 マ、
していますよねえ。 あの 甘鯛とか あの ×× ×

(B・C・D マナガツオ) マナガツオトカネー。 (B {笑})
(B・C・D 真魚鰹) 真魚鰹とかねえ。 (B {笑})

アンナヤツ、 ヨ ヨシトカ。 (C フン) デ ヨ ツイデ
あんなもの、 × // /. (C ふん) で × 次いで

ダイタイ ショーヒシマストネー、 ツギガー チョット チューカラニ
だいたい 消費しますとねえ、 次が ちょっと 中辛に

ナル。 (C フン) コレガ モー、 ソー タベーシマヘンサカイニ
なる。 (C ふん) これが もう、 そう 食べはしませんから

(B {咳}) ニガツカ サンガツゴロデスカ。 (D ハ一)
(B {咳}) 2月か 3月頃ですか。 (D はあ)

デ セーモ ダイタイ タベテキテー、 ヒチ
で それも だいたい 食べてきて [=食べ終わって]、 7

ハチガ シタノカライヤツ。 (B フン) (C フーン)
8 [月] が 下の辛いもの。 (B ふん) (C ふうん)

コラー モー ホン、 ン、 コ、 コン、 コンナイロデモナイナー。
これは もう ×× × × ×× こんな色でもないなあ。

エーイロニ ナッテマスワ。 (B {笑}) (C アー
いい色に なっていますよ。 (B {笑}) (C ああ

サヨカ) エー。
そう [です] か) ええ。

京都 08-6

155B : ソコラワ セーカツノチエヤネ。 (C ウン一 ソーデスネ)
その辺は 生活の知恵だねえ。 (C うん そうですね)

156A : ウン ウン オフクロカラ ナロテ マタ イマ ウチノカナイガ
うん うん おふくろから 習って また 今 うちの家内が

ヤットルワケデスケドネー。 ン コージオ コーテキテネー。
やっているわけですけどねえ。 × こうじを 買ってきてねえ。

デ ソノ、 コージガ ノコシトイテ アマザケ
で その、 こうじが [使えるように] 残しておいて 甘酒 [を]

ツクリマスネン。 (C {舌を打って} ハー) デー、 アノ
作るんです。 (C {舌を打って} はあ) で あの

チョット ノコシトイテ アマザケ、 コタツンナカ
ちょっと 残しておいて 甘酒 [を] こたつの中 [へ]

ホリコムンデス。 (E ハー ソーデスカ) チョ、 チョード
放りこむんです。 (E はあ そうですか) ×× ちょうど

キヨーデ ミッカメー。 ア ソーカ。 オ、
今日で 3日目。 あ そうか。 ×

サキオトトイグライ ツケヨッタンカ、 キヨ キヨーデ
先おととい [=3日前] ぐらい [に] つけたのか、 ×× 今日で

ミッカメヤカラ イッチバン オイシーデスネ。 アマナッテ [27]。
3日目だから 一番 おいしいですね。 甘くなって。

- (C アー サヨカ一) アー。 (C シ一)
(C ああ そう [です] か) ああ。 (C ん一)

[08↑09]

157D : ネー マタ アノ アマザケト ショーガ ユーノワ ヨー
ねえ また あの 甘酒と 生姜 [と] いうのは よく

- (A ア) オーテネ。
(A あ) 合ってね。

158A : ソーデスネ。 (C ソーデスネ) (D ネッ) (B ウン)
そうですね。 (C そうですね) (D ね) (B うん)

ショーガー アイマシテネ。 (D ネ) アレ フシギニ ハシ
生姜 [が] 合いましてね。 (D ね) あれ 不思議に 箸 [が]

イッポンデスナー。 (D ソーデスナー。 {笑})
1本ですねえ。 (D そうですねえ。 {笑})

(E ソーデアンネー。 イマ、 アマザケ) アレ
(E そうですねえ。 今、 甘酒) あれ

ナンデデッシャロネー アレ ニホン一、 (E ソーデスナー)
なぜでしょうねえ。 あれ 2本、 (E そうですねえ)

ナイデッセー? (E エー) ワリバシ チョーント イッポン
ないですよ? (E ええ) 割り箸 [を] ちよんと 1本

ホリコンデ。 (D ウン)
放り込んで。 (D うん)

京都 09-2

159E : ソーデンネー クロモジネー イッポンー ツケテネー。
そうですねえ 黒文字ねえ 1本 つけてねえ。

160C : アレ マーナ、 カキマワスダケデスサカイナー ニホン
あれ まあね、 かき回すだけですからねえ 2本

イラシマヘンヤロナー。
いりはしないでしようねえ。

161A : {笑} ソレモ ソーデンナ。 {笑} アレワ ツカワシマセンワナ。
{笑} それも そうですね。 {笑} あれは 使いはしませんよね。

(D ソーヤネ) {笑} ソーカッ。 {笑} (D フーン)
(D そうだね) {笑} そうか。 {笑} (D ふうん)

(E {笑}) ナルホド。 フーン。
(E {笑}) なるほど。 ふーん。

162G : イマ カシライモノオハナシガ デマシタデスケド (A フン)
今 頭芋のお話が でましたんですけど (A ふん)

オショーガツニ ツキモンノ、 タベモノ ト イーマスカ
お正月に つきものの、 食べ物 と いいますか、

163A : ヤッパリ ワレワレー、 Dサントコ ド
やはり 我々、 Dさん [の] 所 [は] ×

ドーデシタ？ イマノ オ*
どうでした [か] ? 今の お*

京都 09-3

164D：ワタシトコワ タタキー ゴンボー (A ハイ) ニ、 カズノコ。
私 [の] 所は タタキ、 ごぼう、 (A はい) に、 数の子。

(A カズノコ) ゴマメ。 (A ゴマメデスネ) フン。
(A 数の子) 田作り。 (A 田作りですね) ふん。

(A サンシュー) イチオー ソレワ モ一 ネ マイニチ一
(A 3種 [類]) 一応 それは もう ね 毎日

(A カナラズ、 エ一)
(A 必ず、 ええ)

165B：コレア マー (D ツケアワシテ) サ サンシュ テ ューテ。
これは まあ (D つけ合せて) × 3種 [類] と いって。

ネッ (D ネッ) (A ウン) ヘー。
ねつ。 (D ねつ) (A うん) ええ。

166E：クロマメネ。 マイニチ クロマメ モーネー。
黒豆ね。 每日 黑豆 もうねえ。

167A：マー ソノホカ一 アノ一、 イマ オッシャッタノワ
まあ そのほか [に] あの、 今 おっしゃったのは
カナラズデスワナ?
必ず [作るもの] ですよね。

168E：ミンナー イエデ コシラエタハッタハカイネー ムカシワ。
みんな 家で 作っておられたからねえ 昔は。

(C ソーデスネー) {笑} ホント、
(C そうですねえ) {笑} ほんと、

169A : ソレカラ オープクチャ [28] デスカ。 (D ソーデスネ)
それから 大服 [=福] 茶ですか。 (D そうですね)

(E ソーデス一ネッ。 ソーデス) コンブト一 ウメボシ一ニ
(E そうですね。 そうです) 昆布と 梅干に

(D ウメボシ一) (E へ一) (D コウメトネ) バンチャガ
(D 梅干し) (E ええ) (D 小梅とね) 番茶が

ツイタヤツデスネ。
ついたものですね。

170E : アノ ウメワ ワタシー アノー、 ワタシトコワ
あの 梅は 私 あの、 私 [の] ところは

テンジンサンノウメオネ、 (A アッ) イタダイテ。 (A アレオネ)
天神さんの梅をね、 (A あ) いただいて。 (A あれをね)

へー。 (A ハー ハー) オープクノネー。
ええ。 (A はあ はあ) 大服 [=福] のねえ。

(C アー ソーデスカ) (A フン、 フン) ン一 モー。
(C ああ そうですか) (A ふん、 ふん) ん一 もう。

171A : エットー、 (E チチガ テンジンサンノ) オクモジー[29]デスカ。
えっと、 (E 父が 天神さんの) 茎漬ですか。

京都 09-5

ツケモノワ。 ナガダイコンノシオヅケ。 (C {笑})
漬物は。 長大根の塩漬。 (C {笑})

172D : ソーデスネッ。 (A エー ネッ) アレガ オイシーデスネ。
そうですね。 (A ええ。 ねつ) あれが おいしいですね。

173A : オイシーデスネ。 イカニ
おいしいですね。 いかに [=実際に]

シミユンダアジデネ。 (B {咳})
よく染み込んだ味でねえ。 (B {咳})

174D : オモチ タベタアトニ (A ソーデス) ネー (A ソーデス)
お餅 [を] 食べた後に (A そうです) ねえ (A そうです)

オダイコンノ ツ、 オツケモノワ。
お大根の × お漬物は。

175B : オクモジ ッテ一 ユーノワ アレ、 アレモ、 キヨーコトバノ、
「おくもじ」 って いうのは あれ、 あれも 京言葉の、

ナンデッシャロナー。
あれでしようねえ。

176A : モジコトバデスカー? オクモジ テ。
文字言葉ですか? 「おくもじ」 って。

177B : エー オクモジ テー ユーフーナコト ユータッテ
ええ 「おくもじ」と いうようなこと [を] いったって

京都 09-6

ヨソノヒト ワカラシマセンワ。
他の [地域の] 人 [には] わかりはしませんよ。

178A : {息を吸って} アレ ドンナジーデスカイナー。
{息を吸って} あれ どんな字ですかねえ。

(D ドンナジ ッテ アタシ ヨー シラン)
(D どんな字 って 私 [は] よく 知らない)

クーワ ソナエルデスカ? (G デショーネー) (B {笑})
「ク」は 「供える」ですか? (G でしようねえ) (B {笑})

ネー クモツノクー。
ねえ 「供物」の「供」。

179F : クキヅケノ クージャナインデスカ ウエダケ
「茎漬け」の 「ク」 じゃないんですか。 上 [の字] だけ [を]

トップ。
取って。

180A : ハー ハー。 ナガグキノ。
はあ はあ。 長茎の。

181F : エー。 クキ クキヅケ。 (A ン一) オツケモンノコトデスネー、
ええ。 ×× 茎漬。 (A ん一) お漬物のことですねえ、

(A ソーデス。 ソーデス。 ソーデス) ネー、 (B フン)
(A そうです。 そうです。 そうです) ねえ、 (B うん)

京都 09-7/10-1

クキヅケノ、 ウエダケ トッテルンデスヨ イチジダケ。
「茎漬け」の、 上だけ 取っているんですよ、 1字だけ。

182A：アーノーカ。ナルホドナルホド、デモジワモーゼーノ
ああ そうか。なるほど なるほど、で「モジ」は /////

モジナンデスナ、 (F アー ソー ソー ソー) シャモジト
「文字」なんですね。 (F ああ そう そう そう) 构文字と

イッショデ。 (F ハイ) ナルホドネー。 ゾーッスカー。
同じで。 (F はい) なるほどねえ。 そうですか。

09↑10

183E : モー サンジューイチンチワ、 オケラマイリ [30] ガ
もう 31日は、 おけら參りが

ゴザイマスヤロ？ ギオンサンノネー、ソノヒナワオ モロテキテ
ございますでしょう？ 祇園さんのねえ、その火縄を もらって来て

ソレデ、 オゾーニオネッ。 タキマス。 (A ソーデスネ) エー。
それで お雑煮をね。 炊きます。 (A そうですね) ええ。

コー マワシナガラネー。 (A ン一) キエナイヨーニネー。
こう まわしながらねえ。 (A ん一) 消えないようにねえ。

184B：ソラ マー、 ゲンザイモ ナカナカ サカンデスワナー。
それは まあ 現在も なかなか 盛んですよねえ。

185E：ソーデスネー。 (A フン) (B ヘー) ホンデ ソシテ、
そうですねえ。 (A ふん) (B へえ) それで そして、

京都 10-2

オハツノネー オミズ ワカシテ、 ノンデ。
お初のねえ お水 [を] 沸かして、 飲んで。

186A : ワタシ イッペンドケー、 (E フン) アレー、 イッペン ソノ、
私 一度だけ、 (E うん) あれ、 一度 その、

ヒナワオ モーテコー ト オモーテ イキマシテネー。 (B フン)
火縄を 貰ってこよう と 思って 行きましてねえ。 (B うん)

ソレデネー、 {笑} ソレオ ベツノヒニ ウツシトクノ
それでねえ、 {笑} それを 別の火に 移しておくの [を]

ワスレマシテー アノー、 トーミョーニ。 (E エー) ソノママ
忘れまして、あの、 燈明に。 (E ええ) そのまま

ダイドコ ブラサゲトイタンデスワ。 (C {笑}) アサ
台所 [に] ぶらさげておいたんですよ。 (C {笑}) 朝

イッタ ナンニモ アラヘン。 (C {笑})
行ったら なんにも ない。 (C {笑})

187D : {笑} タッテシモーテ。 {笑}
{笑} 絶ってしまって。 {笑}

188A : タッテシモーテ。 (C アー ソッカ) アレ ムカシワ ユオーニ
絶てしまって。 (C ああ そうか) あれ 昔は 硫黄に

ウツシテネ。 (D ハイ) ユオーギ テ アリマシタネ。
移してね。 (D はい) 硫黄木 って ありましたね。

京都 10-3

(E ソーデス。 イオーノネー) エー。

(E そうです。 硫黄のねえ) ええ。

(E コー、 ナニ、 ツイテネ) デ アノー

(E こう、 あれ [が]、 ついてね) で あの

カワラキノ アノ、 (E アオイノ) アレニ、

かわらけの あの、 (E 青いの) あれに、

ウツスンデスッテネ。 (E ソーデス) (D ハイ ソーデス)

移すんですってね。 (E そうです) (D はい、 そうです)

(C ハー) ヒーオ。 アノー、 トモシビ、 アブラデネ。 ソレデ

(C はあ) 火を。 あの、 灯、 油でね。 それで

コノ、 ソラ ソーヤナカッタラ ジカンガ ナガイデスマンネ。

この、 それは そうでなかつたら 時間が 長いですもんね。

(E ソーデス)

(E そうです)

189D : ソーデスワネ。 (A エー エー エー) モッテカエル、 アイダワ

そうですよね。 (A ええ ええ ええ) 持って帰る間は

(A ソーデスワー) アンデ マニアイマスケドー?

(A そうですよ) あれで 間に合いますけど。

190A : アリマスケドネ。 アサニ ナッタラ モー、 ナクナリマスワ。

ありますけどね。 朝に なつたら もう、 なくなりますよ。

京都 10-4

191C : ヘヤケド アノー ココデ ソノー アノ、 アノー、 ヒーオ モ
だけど あの ここで その あの、 あの、 火を ×

モロテカエッテネー、 (A フン) ナンニンガ
貰って帰ってねえ、 (A うん) [それを] 何人 [の人] が

ヤッテハリマッシャロナー。 ゲンザイワ。
やっておられるでしょうねえ。 現在は。

(A サー、 ホンマニネー) (B エ?) (A フン フン)
(A さあ、 本当にねえ) (B え?) (A ふん ふん)

(E ソーデフネー) ソノヒーデネ。 (E イマ)
(E そうですねえ) その火でね。 (E 今)

192D : ア ソノ、 ソノヒデネ。 (B フン)
あ その、 その火でね。 (B うん)

(C オケラマイリデネー ソノ)
(C おけら参りでねえ その)

193E : イマ、 オケラマイリシテ。 コノゴロワ。
今、 おけら参りして。 この頃は。

194B : モー コノゴロネー (E ヘー。 ソンナ) ワリニ
もう この頃ねえ (E ヘえ。 そんな) 割に

ミジコーナッテマッシャロ アレ。 (E ネ) ヘー。
短くなっていますでしょう あれ。 (E ね) ええ。

(A ホーン)

(A ほん)

195E : {笑} コノゴロ オケラマイリモ シマヘンネ。 (D ハアン)
{笑} この頃 おかげ参りも しませんね。 (D はーん)

196B : アレ ナガイ ナガイヤツデヤナカッタラ。
あれ 長い 長いやつで [するん] じゃなからたら。

197D : オゾーニ タクノニ モーテカエラハルシト ユーヨリモネッ、
お雑煮 [を] 炊くのに 貰って帰られる人 [と] いうよりもね、

(E ムカシワ コー ワーニ ナッテテネ) (C | Dに | イヤ)
(E 昔は こう 輪に なっていてね) (C | Dに | いや)

ワカイ、シトナンカワ (A | Eに | エー) (E ソイテ
若い人などは (A | Eに | ええ) (E そして

コイテ) (B | Eに | オー ワーニ ナッテ) (E ハー)
こうして) (B | Eに | おう 輪に なって) (E はあ)

モー、 (A ンー) ナンカ ソレガ タノシミデ、
もう、 (A んー) なんか それが 楽しみで、

ネッ。 (C タノシミデスナ)
ねえ。 (C 楽しみですね)

198A : ソレー、 ソレダケデッシャロネー。 (D ソーデスネ)
それー、 それだけでしょうねえ。 (D そうですね)

京都 10-6

(C ソーデスワナ) ダイブブンノヒトワ。 (C ウン)
(C そうですよね) 大部分の人は。 (C うん)

199B : アレ イマデモー (A マ、 ウン) デンシャニ ノセマヘンカ。
あれ 今でも (A ま、 うん) 電車に 乗せませんか。

200A : サ シランネ ソレー。 (B フン一) ソラー
さあ 知らないんだ それ [は]。 (B ふん) それは
ノセンヤロナー。 (B {笑} ミナ) アンナモン モ、 ヒー、
乗せないだろうなあ。 (B {笑} みんな) あんなもの もう、 火、

201B : イヤー バス、 バスヤナー ムロン バスヤ。 (A オー)
いや バス、 バスだなあ むろん バスだ。 (A おう)

イマー デンシャ アラヘンケド。 アノー、 バスニ
今 電車 [は] ないけど。 あの、 バスに

アンナモン ノッテ ミナー アンナモン
あんなもの [を] 乗せて みんな あんなもの

(A ソラー) ミ、 ミナー、 (A ソラー) キモノ
(A それは) × みんな、 (A それは) 着物 [を]

コガシテマウ。 (A フン コガシタリー) (B フーン)
焦がしてしまう。 (A うん 焦がしたり) (B ふうん)

202C : ソノジカン ア ス、 バスノウゴイテルジカン アルカイナ。
その時間 [は] × × バスの動いている時間 あるかな。

京都 10-7/11-1

203D : シー ソラ、 ハヤイコト モライニキハルシトヤッタラ (C アー)
ン一、 それは 早く 貰いに来られる人だったら (C ああ)

ソラー ドーヤ シランケド ワタシラ、
それは どうか 知らないけど 私たち [は]

ネー、 アルイテカエレルトコヤカラ。
ねえ、 歩いて帰れる所だから。

204B : イヤー ズイブンネー ムカシワ アノー カエリニー チョット アノー
いや ずいぶんね 昔は あの 帰りに ちょっと あの

ギオンマチ ヨッテネー (E ソーディスネー) (C ウーン)
祇園街 [に] 寄ってね (E そうですねえ) (C うーん)

チョット ア {笑} アズケトイテ (E {笑}) (D アズケトイテ?
ちょっと × {笑} 預けておいて (E {笑}) (D 預けておいて?

{笑}) (B・E {笑}) イッパイ ノンデルウチニ。
{笑}) (B・E {笑}) 1杯 飲んでいるうちに。

(B・E {笑}) (A ナクナッタ) (B・E {笑})
(B・E {笑}) (A 失くなった) (B・E {笑})

[10↑11]

ホイー ムコー コーテ [31] キテカラ モー、 (C フン) アノ
それで 向こう、 買ってきてから もう (C うん) あの

モー イッポン ツケトイテクレー ューテカラ。 (C {笑})
「もう 1本 つけておいてくれ」 [と] いって。 (C {笑})

京都 11-2

ソーユーフーナー アノー ナニワ、 (D フン) ホンマニ
そういう風な あの あれは、 (D ふん) 本当に

アッタンヤハカイナー (A フン) コレワ。 {笑}
あつたんだからねえ (A ふん) これは。 {笑}

205A : ナルホド。 {ライターの火をつける音} オショーガツニ ナッタラ
なるほど。 {ライターの火をつける音} お正月に なつたら

アレデスカ。ワリニ コンドワ モー シントシテシモテ。 ムカシ
あれですか。割に 今度は もう シーンとしてしまって。昔 [は]

ネショーガツヤナンテ ューテー。
「寝正月」だなんて いって。

206B : ヤー モー ミッカカンテナモン ホトンド ナンデスワネ。
いや もう 3日間というもん ほとんど あれですよね。

207A : ソノー トクニーネー モー シントシテマシタナー。 (B エー)
その 特にねえ もう シーンとしていましたねえ。 (B ええ)

コドモノジブンワ タイクツシマシタナー アレワー。 (B エー {咳})
子供の時分は 退屈しましたねえ あれは。 (B ええ {咳})

ボクワ フシギニ ソノ タコー [32] アゲータリネー、 コマオ
僕は 不思議に その 風を 上げたりねえ、 独楽を

マワシタリワ センカッタナー。 (B フン フン)
回したりは しなかったなあ。 (B ふん ふん)

(C アー サヨカ) Cハン シハリマシタカー。
(C ああ そう [です] か) Cさん なさいましたか。

208C : ワタシワ モー、 カモガワガ アリマスサカイネー。
私は もう、 鴨 [=賀茂] 川が ありますからねえ。

209A : ア、 チカイサカイナー。
あ、 近いからなあ。

210C : アー。 カモガワノー、 スグニ イッテネー。
ええ。 鴨 [=賀茂] 川の 近くに 行ってねえ。

211A : フン フン。 ナルホド。 アコ [33] ガ カゼモ キツイシネ。
ふん ふん。 なるほど。 あそこが 風も 強いしね。

212C : キツイデスワ。 (A フン) ボクラ タコガ コンナニ ナルマデ
強いですよ。 (A うん) 僕ら 凧が こんなに なるまで
アゲマシタナ。
あげましたね。

213A : アー ソーデシタカ。 フン。
ああ そうでしたか。 うん。

214B : ムコワ エーバショガ アリマスワナー。 (C エー) マー
向こうは いい場所が ありますよねえ。 (C ええ) まあ
シカシ モー アノー イエノナカデ ャッテンノンデワ アノー ウ、
しかし もう あの、 家の中で やっているのでは あの ×

京都 11-4

ウラエ デテネー (A ウン) アノ モノホシカラ ヨー、
裏へ 出てね (A うん) あの 物干 [台] から こう

(A ソー ソー) ア、 アゲテタジダイモ アリマスケド。
(A そう そう) × あげていた時代も ありますけど。

(C フン ウン)
(C うん うん)

215A : フン。 {息を吸って} ボク ソレ オボエテマスデー
ふん。 {息を吸って} 僕 それ [を] 覚えていますよ。

ヒノミ ヒノミ チューテ (B ウン) アノー ヒノミヤグラ。
火の見、 火の見 といって (B うん) あの 火の見櫓。

オーヤネノウエニネー。 (D フン、 フン) ソレカラモ、 ケッコー
大屋根の上にねえ。 (D ふん、 ふん) それからも けっこう

アガリマシタモンネー。 (C アー サヨ ソーデショ
上がりましたもんねえ。 (C ああ。 それは そうでしょう、

アー。 ウン) ソンナ ヒッカカルモン アンマリ
ああ。 うん) そんな、 ひつかかる [ような] もの [は] あまり

ナイシ。 (C フン-) フン。 ン アンマリ ヤッタオボエ
ないし。 (C ふん) ふん。 × あまり した覚え [が]

ナイナー。 ヘタクソヤッタンカナー。 (C・D {笑}) キット
ないなあ。 へたくそだったのかなあ。 (C・D {笑}) きっと

ソーデスワ。 (C イヤ {笑}) ショーガツワ タイクツヤッタコト
そうですよ。 (C いや、{笑}) 正月は 退屈だったこと [を]

オボエテマスナー。 ミセノシトヤラー ジョチューサンヤラー
覚えていますねえ。 店の人とか 女中さんとか

タイテー チョット サトエ カエッテ イーヒン [34]、
大方 [は] ちょっと 里へ 帰って [いて] いない、

(C ン一 ソーデス**ネー) イーシマセンシネー。 タイガイ
(C ん一 そうでしようねえ) いませんしねえ。 たいてい

イッショニ アソンデルヤツモ ヨラシマセンヤロ。
一緒に 遊んでいる仲間も 寄らない [=寄り集まらない] でしょう。

ト ユーテ、
[か] と いって、

216B : ャッパリ ソラー (A ウン) ショーガツ、
やはり それは (A うん) 正月 [は]

コドモノアイダノタノシミ ッタ ャッパリ アッチャヤ
子供の間の楽しみ [と] いったら やはり あっちや

コッチャヤ シンセキ アルイテ、
こっちや [と] 親戚 [を] 歩いて [=親戚周りをして]、

(A フーン) チョットズツ モラウ、 アノネー。
(A ふーん) 少しずつ もらう、 あのねえ。

(D オトシダマ モロテ) (A オトシーダマデスカ?) アー
(D お年玉 [を] もらって) (A お年玉ですか?) ああ

オトシダマー (A ン) アレガ モー、ナニヨリノ モー
お年玉、 (A ン) あれが もう、何よりの もう

ショーガツノ、 ン コドモノ、 マー ゲンザイデモ
正月の、 × 子供の、 まあ 現在でも

カワランヤロネー アレワ。 (A マ ソレワー、
変わらないだろうねえ あれは。 (A まあ それは

ソーデッシャロナ) ン。 (D ン) コドモノシンリワ
そうでしょうね) ん。 (D うん) 子供の心理は

イッショデスワナ。
同じですよね。

217A : ン。 ソノジブン (B イマ マー) Bサンーノジブンワ、
ん。 その時分 (B 今 まあ) Bさんの時分は、

モットモ、 タクサン クレハルトコデ ナンボグライデシタ。
最も たくさん 下さるところで いくらぐらいでした?

218B : モー イッヂエンガ モー イチバンウエデスワー。
もう 1円が もう 一番上ですよ。

(A イチエン) ゴジュッセン。
(A 1円?) 50銭。

219A : ソラ イチエンワ ソラ ゴーカバンヤナー。
それは 1円は それは 豪華版だな。

(B ニ、 ウン) ウン。 ボクラ、 ゴジュッセン モロタラ
(B × うん) うん。 僕ら [は] 50銭 貰ったら

[11↑12]

＊＊＊＊ ＊＊＊ オモイマスワネ。 (B {笑}) アレ
＊＊＊＊ ＊＊＊ 思いますよね。 (B {笑}) あれ

レーノ ゴジュッセンギンカ。
例の 50銭銀貨。

220B : {間} アノー ナニオー イチエンノ アノー、 コンナ、
{間} あれ 何を 1円の あの、 こんな

サツガ オシタヤロ。
お札が ありましたでしょう。

221A : アー。 シロイ ヤ、 イロ シタ。
あー。 白い × 色 した。

222B : シロイ、 シロヤ。 {笑} (A {笑})
白い。 白だ。 {笑} (A {笑})

223A : アレワ {笑} ミリョク アリマシタナー アノオサツワー。
あれは {笑} 魅力 [が] ありましたねえ。 あのお札は。

224B : ソラ デモ ン一、 ソラー、 ソラー アノー ヤッパリ、
それは でも ん一、 それは それは あの やはり

京都 12-2

ソノカンニ ヤッパリ、 タショ一、 アノ一、 ナンニヤロネー。
その間に やはり 少少、 あの、 なんだろうねえ。

カンカクガ オスヤロネー ソラ ニジュッセン
間隔が ございますでしょうねえ。 それは 20銭

サンジュッセン、 (A ウン) ゴジュッセン、 (A ウン)
30銭、 (A うん) 50銭。 (A うん)

ソラ モ一 ジュッセンデモ一 ソラ アノ一 アントキワ、
それは もう 10銭でも それは あの あの時は

(A ソー ソー) ナカナカ ツカイデガ アッタハカイニネー。
(A そう そう) なかなか 使い甲斐が あったからねえ。

(A ソーデス。 ソーデス。 ソーデス) エー。
(A そうです。 そうです。 そうです) ええ。

225A : ボクラ オヤジヤラノ アンマ スルト ゴセン モロテ
僕ら 親父なんかの あんま [を] すると 5銭 貰って

ヨロコンデマシタモンネ。 (B エー) (C フン) (D {笑})
喜んでいましたもんね。 (B ええ) (C うん) (D {笑})

ハ一。 カナリ ソレガ、 (B {咳}) コーハン チュート
はあ。 かなり それが、 (B {咳}) 後半 というと

オカシーケド、 カナリ サイキンマデ、 (C アー サヨカ)
おかしいけど かなり 最近まで (C ああ そう[です]か)

京都 12-3

アノ プチント アナノアイタネー？ (C シー) ゴエンダマ
あの ぶちんと 穴のあいたねえ？ (C んー) 5円玉 [が]

アリマシタヤロ。 (C シー) アレ ワリニー ウ
ありましたでしょう。 (C んー) あれ 割に ×

ウレシカッタデッセー？ ウン一 ソヤカラ ショーガッコーエ、
うれしかったですよ？ うん、 だから 小学校へ

イッタコロモ マダ ウレシカッタンチャウンカナー。 ショーワー、
行った頃も まだ うれしかったんじゃないのかなあ。 昭和、

シ一、 ジューネングライスカ。 エ一。 {間} シンセキガ
ん一、 10年くらい [で] すか。 ええ。 {間} 親戚が

スクノーテネー ワタシトコワ。 (B ハ) オヤジニ キヨーダイガ
少なくてねえ 私 [の] 所は。 (B は) 親父に 兄弟が

スクナカッタンデスワ。 (C フン) デ ソーナルト一
少なかつたんですよ。 (C ふん) で そうなると

オトシダマノモラエルカズガ スクナイインデスワー。 デ
お年玉のもらえる数が 少ないんですよ。 で

ソノテンワ
その点は

226B : ソラー アノー エ、 (C ソラ ソーデスナ) (A ハー)
それは あの × (C それは そうですね) (A はあ)

エーガカンエ ハイッテ ゴセンデネー。 (A ン一) ソシテ
映画館へ 入って 5 錢でねえ。 (A ん一) そして

アノー、 ジュッセン モロタラ モー エーガカン ハイッテー
あの、 10 錢 もらったら もう 映画館 [へ] 入って

(C ン一) ホシテ、 モー ソノー アイダニ クー カ、
(C ん一) そして、 もう その 間に 食う ×

カキモチヤトカ (A アー) ナンヤトカネー。 (A アー、 ウン)
かき餅だとか (A ああ) なんだとかねえ。 (A ああ、 うん)

ソユナモン コーテ、 マダ、 ウッカリシタラ
そういうようなもの [を] 買って、 まだ [さらに]、 どうかすると

カエリニ ウドン イッパイ、 (A {笑} ソーカ)
帰りに うどん [を] 1 杯、 (A {笑} ソーカ)

(D {笑}) ススッテ カエレタンヤハカイナー。 (A ナルホド、
(D {笑}) すすって 帰れたんだからなあ。 (A なるほど、

ウン-) アー。 ホラ モー、 カヘーカチワ モ ゼンゼン、
うーん) ああ。 それは もう、 貨幣価値は もう 全然、

イマトナー、 イマカラ オモエバ。
今とねえ、 今から 思えば。

京都府京都市1983注記

- [1] ホシツキサンノオモチは、丸餅の上に小さく丸めた餅をちょこんとのせた、簡易の鏡餅。これを幾つもこしらえて、便所・台所その他、家の中のあちらこちらにお供えした。
- [2] ドスは、丁寧な断定をあらわす助動詞。大阪のダスに対して京都のドスは、特色ある語とされる。オソナエシタンドフネのドフは、ドスのスの音がハ行音に訛った形。京都語においてサ行音をハ行音に訛る現象は、広く指摘できる。ただし、「ス→フ」は、音の関係で、あまり聞かれない。ドス、マスがドフ、マフと訛った形で現れる話者は限られており、この話者はそのひとりである。
- [3] ハルは、動詞の未然形に付いて、動作主を高めたり、あるいは、話の口調を丁寧にする助動詞。「来る」「見る」など語幹が1音節の動詞にはヤハルが接続するが、この場合にもハルが接続することもある。敬意の度合は、あまり高くない。
- [4] トシトクは、「歳徳神」のこと。陰陽家が年の初めに祭る神で、この神の
いえほうの方を恵方とする。
- [5] ザンスは、ゴザリマスの転。丁寧な存在をあらわす動詞で補助動詞としても用いられるが、京都で日常あまり耳にしない語。
- [6] C氏の家は、煮豆で有名な老舗。
- [7] カイチ（開智）・ユーリン（有隣）は、学区名。
- [8] ジキは、「すぐ」という意の語で、よく用いられる。
- [9] チャウは、「ちがう」をぞんざいにいったもの。
- [10] ワカザリ（輪飾り）は、しめなわの一種で簡単なもの。わらを編んで輪にし、下にたれるように数本のわらをつけたもの。正月の飾りつけに用いる。
- [11] ユズリハ（譲り葉）は、トウダイグサ科の常緑喬木。新葉が生長してから旧葉が落ちるので、この名があるという。葉は正月のしめなわなどの飾り物に用いる。
- [12] ウラジロ（裏白）は、ウラジロ科の常緑シダ類。葉を、正月の飾り物に用いる。
- [13] モローテの他に、モロテ、モーテという形も用いる。モーテは、モロテをぞ

んざいにいったもの。

- [14] オカガミサン、ホシツキサンなど、人名以外の語にもよく「さん」をつけるという点に、京都語の特色がある。
- [15] サンボーサン（三宝さん）は、「三宝荒神」のこと。民間では、かまどの神として祭られる。
- [16] アンニヤロは、アルノヤロをぞんざいにいったもの。
- [17] ゲンは「縁起」のこと。「ゲンガエー。」「ゲンガワルイ。」というふうに用いる。
- [18] ウルーモチ（粳餅）は、もち米にうるち米をまぜてついた餅。
- [19] イカレルは、調子が悪くなること。
- [20] オクドサンは、「かまど」のこと。クドとむき出しにいわなのは、そこに神が宿ると考えて大切にしている気持の現れ。
- [21] コージンサンは、「三宝荒神」のこと。コージンサンノマツリは、三宝荒神の祭礼。
- [22] ココロミノモチは、自家で餅つきをした時に、「ココロミドス。」といって隣近所に餅を配る風習のこと。
- [23] テッタイサンは、「手伝いさん」が転じた形。臨時に人手を頼んで補助的な仕事をしてもらう時に、来る人のことをいう。
- [24] オタメは、贈り物に対する返礼として入れ物に入れて返す品物や金。ここでは、オタメブクロの意で、オタメを用いている。
- [25] イワイダイコンは、正月の雑煮用の小ぶりで細い大根。
- [26] オカシラは、カシライモ（頭芋）のこと。人々の頭に立つような人間になるようにという縁起物で、正月の雑煮に入れる。特に男子は、これを食すようないわれた。
- [27] 形容詞に「なる」が続くときには、ウ音便が短音化して、「あもなる。」となる場合と、語幹に「なる」が続いて、「あまなる。」となる場合の2通りの形がある。
- [28] オープクチャ（大服茶・大福茶）は元日の祝儀のものとして飲む。1年中の悪気を払うために、昆布・梅ぼしなどを入れた番茶。
- [29] オクモジは、「茎漬」の意の「もじことば」。「もじことば」およびその他の

女房ことばを、民間に、他地域より多く保有しているのが、京都語の特色だといえる。

[30] オケラマイリ（白朮祭り）のオケラは、キク科の多年草。京都八坂神社で年末・年始にオケラ（朮）を焼いた煙の方向でその年の豊凶を占う。その火を火縄に移して持ち帰り、正月用の火種とするために、参拝客が訪れる。そのお参りを、オケラマイリという。

[31] 助詞「て」が接続するとき、^ヲウ→コーテ、^ヲル→カッテ、という形をとる。

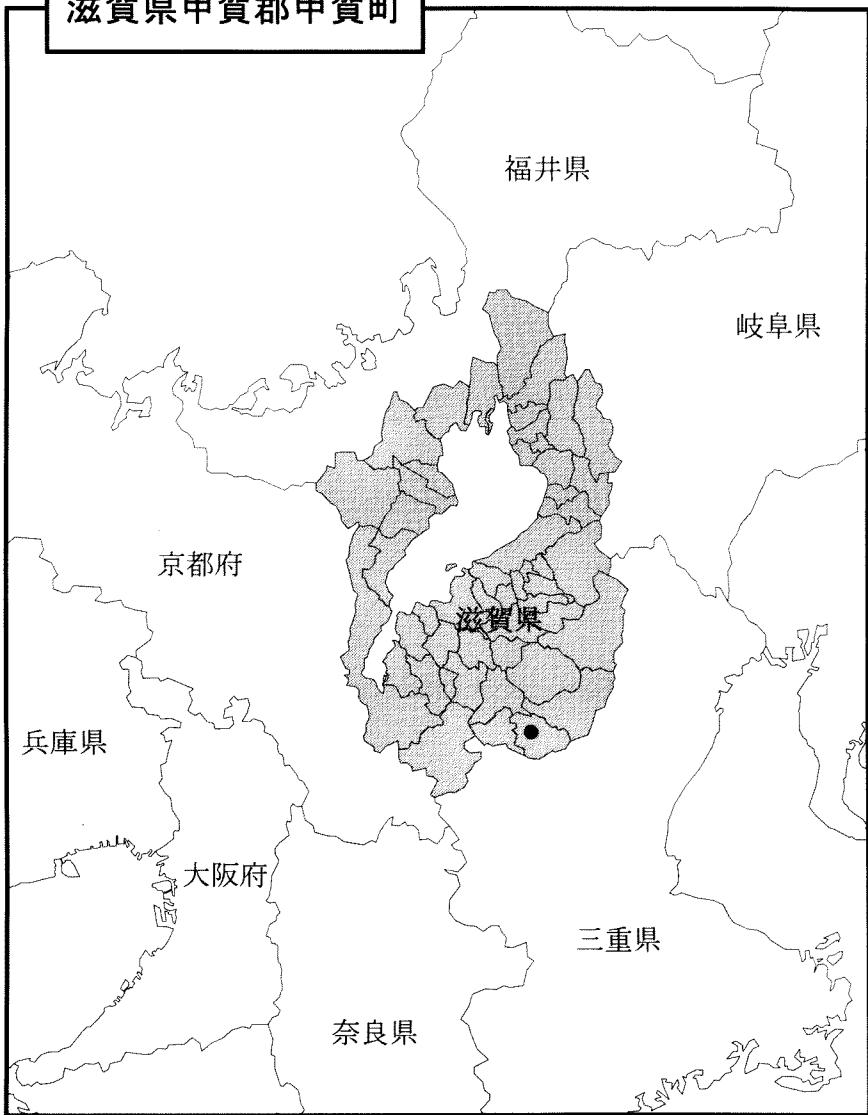
[32] タコは、京都のさらに年配の人はイカを用い、タコアゲをイカノボリといった。

[33] 「あそこ」を、アコ・アッコという。

[34] 「行ク」「コケル（ころぶ）」の打消形の「行カヘン」「コケヘン」に対して、「起キル」「見ル」など語幹が i 母音で終わる動詞は「起キヒン」「ミ見一ヒン」という形をとる。

**II. 滋賀県甲賀郡甲賀町
1981**

滋賀県甲賀郡甲賀町



滋賀県甲賀郡甲賀町1981話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	井原つよ 中本幸次郎 野口喜三治
収録担当者	杣庄章夫 増井金典 増井典夫
文字化担当者	杣庄章夫 増井金典 増井典夫
解説担当者	杣庄章夫 増井金典 増井典夫

(敬称略　項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤亮一 江川清 田原広史 井上文子
校正担当者	高木千恵

滋賀県甲賀郡甲賀町1981解説

収録地点名 滋賀県甲賀郡甲賀町神（俗称 神村）

収録地点の概観

位置

滋賀県の東南部、鈴鹿山脈の南端の西および南に拡がる台地と丘陵地。北東に土山町、北西に水口町、西に甲南町、南および南東に鈴鹿山脈を隔てて、三重県に接する。

交通

大津駅から国鉄東海道線・草津線で約60分、甲賀駅下車。甲賀駅からバスで東へ約4km約10分で、字神の入口、西の口に至る。別に、名神高速道路栗東ICから1号線土山経由で調査地に入ると約40分。また、大津から信楽経由307号線利用、約60分で、調査地に入る道もある。さらに、名阪国道伊賀ICからだと15分ほどで目的地に入れる。

地勢

琵琶湖に注ぐ、滋賀県最大の大河、野洲川をさかのぼった水口町からの支流、杣川の上流の大原川流域の小さな平野部と、それに続く丘陵地、さらに東南部一帯の山地を含む地が、調査地である。集落は、小さな平野部と丘陵地の一部に集中している。気候は、内陸性気候に近く、雨は少なく、積雪はほとんど見られないが、霜害、凍てなど、厳しい地である。土質はズリンコと呼ぶ特殊粘土層で、このズリンコは、古琵琶湖の堆積層だと言われている。ズリンコ中の淡水動物化石から、古代、この地は琵琶湖の東岸であったと推定される。

行政区画

古墳時代の遺跡がある。壬申の乱には戦場となった。奈良時代には墾田であったのが、平安時代には道長の荘園となったという。中世には、佐々木六角と主従関係を結び、戦国の争乱を通じ武士団として活躍したのがこの地である。近世には、遠国大名の在京用地、公卿用地、天領、旗本領、等々、細分化され、領主の庇護のない悲しさ、税負担の重さに加えて、土山宿の助郷高の2分の1をも負担させられるという重税にあえぐこととなり、いわゆる「天保義民」の

農民一揆をひきおこす因ともなったという。

御一新の後、1871(明治4)年大津県、翌年滋賀県となり、区制、連合戸長制を経て、1888(明治21)年市・町村制により、当地域は、油日村、大原村、佐山村となって、昭和に至る。

戦後、1955(昭和30)年4月1日、3か村合併により、甲賀町が成立。1956(昭和31)年字嵯峨和野が分離、水口町に編入した後、現在に至っている。調査地は、大字21字のうち、最大の字、神(俗称 神村)である。

戸数・人口

1980(昭和55)年10月1日現在、世帯数2,782戸、人口12,025人(うち、調査地字「神」戸数約300戸、人口約1,200人)

産業

町の産業として、製薬業、農業(米づくり)、林業が基幹産業である。神も同じような産業構成だが、農業林業が主。しかし、農業林業のみでは、生活は維持しにくく、副業として製薬工場、近隣の小工場に働く者も多い。神に製薬工場はないが、副業として、配置薬販売に従事し、各地に出向くものもある。

特に1961(昭和36)年、212万m³の大原ダムの完成により、米づくりが飛躍的に向上した。また、小規模の製茶を拡大し、パイロットプラントも作られているが、霜害など、問題も多いようだ。

収録地点の方言の特色

滋賀県の方言は、京都の言語圏に属するが、便宜上、湖北方言・湖東方言・湖西方言・湖南方言の4方言に区画する。

この区画は、地理的に、琵琶湖を中心として、東西南北に分けたものであるが、特にアクセントの面では、湖北方言が、いわゆる垂井式アクセントその他の中間アクセントをとるのに対し、湖南方言は純然たる京都的アクセントをとるところが、大きな相違である。

湖東方言は、湖南方言に比し、歴然たる差異は認められないが、彦根ことば(間投助詞ナーシ、強意の終助詞ホンなどを使う)を中心とする方言であり、湖西方言は、京都的だが、地理的に京都大津と隔たっているため、古形を残している地域の方言である。

調査地のある甲賀郡甲賀町は、上記のうちの湖南方言の東端に属する。アクセント・語彙、いずれも、ほぼ京都方言に近似している。通勤者のほとんどは、国鉄草津線を利用して大津京都方面に通い、通学生も相当数が、大津京都方面の高校・大学へ通い、ほとんど違和感なく、言語生活を送っている。

調査を実施した神地区は、甲賀町内でも、比較的純粋な方言を保存している地区で、伊賀方言（三重県）の影響も、この地区にはほとんど及ばず、日常生活に伊賀人との接触は皆無に近い。（わずかに1日に1、2名の魚行商人があるかないかの程度の地である。）

東端の鈴鹿山地を越えて三重県人ととの交流は全くなく、東南の拓殖方面との間には、旧油日村（現甲賀町）を隔てているため、地理的にも、姻戚関係も、ほとんどつながりがないわけである。

神地区に影響を及ぼしたものと考えられるのは、江戸時代の助郷による土山町の言葉の影響、戦中戦後の軍人としての外地滞留、教育の普及による水口町および甲南町の言葉の影響、さらに、テレビ・ラジオなどマスコミの影響が考えられる。

音韻

アクセントをも含め、一般的に京都方言の音韻の特色と大差はない。しかしながら、甲賀町神方言の特徴も、いくらか数えられる。

(1) ウ音便、u列長音の多用

〈形容詞〉	よく→ヨー
	うまくて→ウモーテ
	なくて→ノーテ
	ぬくとく→ヌクトー（ヌクトイは暖かいの意）
〈動詞〉	担って→ニノーテ
	もらって→モローテ
〈助動詞〉	食べたく→タベトー
〈名詞〉	一斗畳 <small>いつとねた</small> →イットーバタ

(2) ウ音便の短音化、u音の脱落

動詞・助動詞・副詞などにも、広く見られる傾向がある。

〈形容詞〉	早く→ハヨー→ハヨ
-------	-----------

〈動詞〉 食つたら→クータラ→クタラ
思つたら→オモータラ→オモタラ
食つていた→クーテイタ→クーテタ→クテタ
してもらつて→シテモローテ→シテモロテ
売ろうと思つて→ウロートオモーテ→ウロトオモテ
ホーリコム→ホリコム

〈副詞〉 ドーヤナ→ドヤナ

〈助動詞〉 ヤロ→ヤロ
　　というようなもの→チューヨーナモン→チューヨナモン

(3) o音の脱落 ([no] のとき)

イタノヤナ→イタンヤナ
ボタモチミタイナモノワヨ→ボタモチミタイナモンワヨ

(4) i音の脱落 ([ei] のとき)

センベー→センベ
センセー→センセ

(5) /s/と/h/のゆれ

ソンナー→ホンナ
ソシテ→ホイテ・ホイデ
ソレデ→ホレデ・ホテ
ソーカ→ホーカ
ソヤデ→ホヤデ

(6) 音韻変化

a → o ツマンデ→ツモンデ
u → e スクナイ→スケナイ
i → e デキル→デケル

(7) 1音節語の長音化

葉→ハ一
木→キ一
目→メ一
蚊→カ一

茶→チャー

語法

(1) 敬語表現

尊卑の敬語表現は、次の4段階である。そして、このうち使用頻度の高いヤル・ヨルは、正確には共通語に訳しにくい。

① 尊敬

ゴザル（いらっしゃる）	先生がゴザッた。
	おばあさんは朝から入ってゴザル。
サル（なさる）	書かっサル。
	帰らっサルがな。
シャル（なさる）	よう勉強さっシャル。
ヤス（なさる）	食べヤシた。
ス（なさる）	1日に10ぐらい食わシた。
ヤハル（なさる）	おばあさんは苗をようとらシた。
ハル（なさる）	書かハル。

② 軽い尊敬および親愛

ヤル（なさる ※正確な訳なし）	あそこの子よう勉強しヤル。
	毎日京都まで通てヤル。

③ 軽い卑称および謙譲

ヨル（しておる ※正確な訳なし）	買いに来ヨル。
	（軍では）麦を食わしショッた。
	おれの子もよう勉強しヨル。
	泣きヨル。

④ 卑称

クサル（やがる ※正確な訳なし）	泣いてクサル。
	怒ってクサル。
サラス（やがる ※正確な訳なし）	泣きサラス。
	怒りサラス。

ケツカル（やがる ※正確な訳なし） 泣いてケツカル。

怒ってケツカル。

なお、同じ湖南方言の尊敬には、瀬田・栗太で使用されるル・ラルがある。

(2) 助動詞

上記の敬語以外に、完了存続・断定・打消について、下記のように特殊な表現があって、多用されるようである。

① 完了存続

トッキヨル (ておく)	吊つトッキヨル。 ほつトッキヨル。
トッタ (ていた)	壳つトッタ。 困つトッタ。
タル (ている)	窓が開いタル。 麦がまざつタル。
タッタ (てあった)	作つタッタ。 植えタッタ。
テル (ている)	追いまわされテルとよ。

② 断定

ヤ (だ)	どこでもヤ。 食たもんヤ。 鍋いっぱいヤ。
ジャ (だ)	
ドス (です)	丁寧な断定
デス (です)	丁寧な断定

③ 打消

ン (ぬ、ない)	ようけ出ン。 窓が開かン。 わからン時は
ヘン (ない)	あらヘン。 しよらヘン。 でけヘン。 行かヘン。

知らっさらヘン。

ヒン (ない)

ナンダ (なかつた) あたら NANDA。

行か NANDA。

ヘナンダ (なかつた) しやヘ NANDA。

(3) 助詞

〈接続助詞〉

① 原因理由の接続助詞

デ (ので) 風邪をひいてるデ、行かん。

塩氣があるデ、わりにうまかった。

サカイニ (から) 下手やったサカイニ、見に行かなんだ。

風邪ひいてるサカイニ、きょうは休みやる。

② 逆接で、仮定条件・確定条件のいずれも示す接続助詞

カテ (ても) 3日ぐらい食べんカテ、どうもない。

先生におこられたカテ、少しも気にしとらん。

③ 逆接の確定条件を示す接続助詞

ケド (けれど) 店にならべたケド、少しも売れん。

ケンド (けれど) そやケンド、なんにもわからへん。

④ 順接の確定条件

ヤ (すると) 食べヤ胸が焼けるしよ。

食べてみヤうまい。

〈終助詞〉

この地特有の用法は、詠嘆・感動の助詞に多い。それぞれ繊細微妙な気持ちを表現して、この地のことばに独特の陰影を与えていくように思われる。

ケ (か) 疑問 そうケ。

もう出したケ。

ナ (ね) 詠嘆 うもうないしナ。

3日は休むしナ。

ワナ (ねえ) 詠嘆 戦争中はひどかったワナ。

後がええワナ。

ワ（よ） 詠嘆 甘味があるワ。
(男子用語。共通語の女子用語ではない。ワイに近い。)

ナー（ねえ） 詠嘆 焼いたり蒸したりしてナー。

ワサ（のよ・わよ） 詠嘆 餅を10臼もついたワサ。
(女子用語)

ノ（ねえ） 詠嘆 5厘玉ねぶってノ。

デ（よ） 詠嘆・余情 20メートルはあったデ。
団子はそんなにうまいことなかったデ。

ヨ（ね） 間投・詠嘆 あのヨ。

それにヨ。

塩味してヨ。

それでヨ。

〈副助詞〉

カテ（だって） あられカテ、うまかったわなあ。

ヤラ（など） お茶ヤラは、家でつくる。

〈その他の助詞〉

なお、格助詞に特異なものは見当たらないが、体言だけで主語や運用修飾語になることが、きわめて多いのも特徴と考えてよいであろう。

(以上の解説は、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。)

滋賀県甲賀郡甲賀町1981凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位に切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるよう、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「一」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者番号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X 1, X 2, X 3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X 1, X 2, X 3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名についても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うこととした。

記号

。 (句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないとこでも、意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーナンデス ヨソレデ ワタシガ イッタンデス

 そうなんですよ。 それで 私が 行ったんです。

、 (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないとこでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連續して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

* * * 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼー／＼ モジナンデスナ、

／＼／＼／ 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意訳であることを示す。

例：イマ ュー

今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して |

[] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある**再生**の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「滋賀13-1」はCD トラック番号が13で、その1ページ目ということである。「滋賀13-1」「滋賀13-2」……「滋賀13-4/14-1」……「滋賀32-6」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

[↑13], **[13↑14]**……**[31↑32]**, **[32↑]**のように表示される。

第11巻のCD(64分21秒)には、滋賀県甲賀郡甲賀町の談話【昔の食生活】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ, 行	終了ページ, 行	時間:分:秒
13	p.118,1.1	p.121,1.17	0:02:17
14	p.121,1.19	p.126,1.3	0:02:13
15	p.126,1.3	p.130,1.11	0:02:22
16	p.130,1.13	p.134,1.1	0:01:36
17	p.134,1.1	p.138,1.5	0:01:36
18	p.138,1.7	p.141,1.15	0:01:20
19	p.141,1.17	p.146,1.5	0:01:50
20	p.146,1.7	p.150,1.5	0:01:40
21	p.150,1.5	p.154,1.5	0:01:52
22	p.154,1.7	p.157,1.19	0:02:01
23	p.158,1.1	p.162,1.1	0:02:01
24	p.162,1.3	p.166,1.5	0:02:12
25	p.166,1.5	p.170,1.11	0:01:58
26	p.170,1.13	p.174,1.3	0:01:51
27	p.174,1.5	p.178,1.3	0:02:05
28	p.178,1.3	p.182,1.3	0:01:52
29	p.182,1.5	p.185,1.11	0:01:44
30	p.185,1.13	p.189,1.11	0:02:58
31	p.189,1.13	p.193,1.19	0:01:53
32	p.194,1.1	p.199,1.9	0:02:41
計			0:40:02

滋賀県甲賀郡甲賀町1981談話

収録地点

滋賀県甲賀郡甲賀町神こう か ぐんこう か ちょううかみ（俗称かむら）かむら（俗稱 神村）

収録日時

1981(昭和56)年7月30日

収録場所

滋賀県甲賀郡甲賀町菩提寺 延命寺庫裏

話題

昔の食生活

話者

- A 男 明治30年生（収録時84歳）農業
- B 女 明治40年生（収録時74歳）農業
- C 男 大正1年生（収録時69歳）農業

調査員

- D 男
- E 男

収録時間 (CD) 40分02秒

【昔の食生活】

話し手

A 男 明治30年生 (収録時84歳)

B 女 明治40年生 (収録時74歳)

C 男 大正1年生 (収録時69歳)

D 調査員

E 調査員

1A：ナー ソヤケド アーユー サトーン、 サトーケノ ナイトキニワ、
ねえ だけど ああいう ××× × 砂糖気の ない時には、

[↑13]

ホントニ ナンヤワー [1]、 ンマ アマイモン チューノワ ヤッパシ
本当に あれだよね、 まあ 甘い物 というのは やはり

サトイ、 サツマイモヤナ。 (C ウン) ソレトナー、
××× さつまいもだね。 (C うん) それとねえ、

2C：マー サツマイモノムシタンワー ナー (A・B ウン) アノ
まあ さつまいもの蒸したのは ねえ (A・B うん) あの

オヤツー エーワナー。 (A アマイワナー)
おやつに いいよねえ。 (A 甘いよねえ)

3A：ソレトナー ャッパリ、 アーユー サトーケノ ナイトキニワ、
それとねえ やはり、 ああいう 砂糖気の ない時には、

アズキニ ナンシタカテ アズキニ、 サトーナシデワ、
小豆を あれしたって [=煮たって] 小豆に、 砂糖なしでは、

滋賀県 13-2

アレモ シオダケデワ パ、 ウモナイシナー。 ヤッパリ アノー
あれも 塩だけでは × うまくないしねえ。 やはり あの

サツマイモガ イチバン、 アマミガ アルワ。
さつまいもが いちばん、 甘みが あるよ。

4C：センソーノナー、 (A ウン) シマイゴロヤラー、
戦争のね、 (A うん) 終わり頃や、

オワッタトキアタリデワ サトーガ ナカッタデ、
終わったときあたりでは 砂糖が なかつたので、

(A ナカッタンヤデー) アー ヒドカッタワナー。
(A なかつたんだよー) ああ ひどかつたよねえ。

(A アレワナー) アノー サツマイモガ {笑}
(A あれはねえ) あの さつまいもが {笑}

アマカッタンヤ {笑}
甘かつたんだ {笑}

5A：{笑} サツマイモガ アマカッテン。 ソシテ サツマイモー ネー?
{笑} さつまいもが 甘かつたんだ。 そして さつまいもを ×××

ネットナー、 (C シー) ソレニー シオアジ シテヨ?
練ってねえ、 (C んー) それに 塩味 [を] つけてね

ホイデー、 ダンゴ コシャエテ。 (C シー)
そして、 だんご [を] こしらえて。 (C んー)

滋賀県 13-3

(B * * * * *) ヤキダンゴヤ。 (B ウマイ**) ウマイ*。
(B * * * * *) 焼きだんごだ。 (B うまい**) うまい*。

(B ウン) ワリニ ウマイネナ。
(B うん) わりあい うまいんだよね。

6C：イモ ヤイテ クー、ノワ マー ムカシカラナー
いも [を] 焼いて 食うのは まあ 昔からねえ

(A ネー アノ) ソラ シテタケドモヨ。
(A ねえあの) それは していたけどね。

7A：ア一 ヤイタリ ムシリ、 シテナー。 (C ウン ウン ウン
ああ 焼いたり 蒸したり してねえ。 (C うん うん うん
ナー) ン一。
ねえ) ん一。

8C：ムカシ一 アノ一 ヨナベニ ウススリ [2] ヤラ ナヤカラ
昔 あの 夜なべに 白すりや なにやらかやら
シテルトヨ、 (A アー) アノ一 ハラ ヘッテクルシ、
しているとね、 (A ああ) あの 腹 [が] 減つてくるし、
(A ソーヨ) サツマイモノムシタヤツオ、 アノ一 {笑}
(A そう [だ] よ) さつまいもの蒸したのを、 あの {笑}

タベタリナー。
食べたりねえ。

9A : ソヤ ソヤ。 {笑} ソレデ オマエ、 アノー、 ナンヤワ、
そうだ そうだ。 {笑} それで あなた、 あの、 あれだよ、

ヨソエ タウチニ、 イッテナー。 (C ン一) タウチニ
よそ [の家] へ 田打ちに、 行ってねえ。 (C ん一) 田打ちに

イッテ マー オヤツニ、 アノー、 ボタモチ
行って まあ おやつに、 あの、 ぼたもち [を]

コシラエテモータリナー。 ホイデー、 イモダンゴ。 (C ン一)
こしらえてもらったりねえ。 それで、 いもだんご。 (C ん一)

ホーンナモン ヨバレテ タウチ シタラ サー ソガ
そんなもの [を] いただいて 田打ち [を] したら さあ ××

ムネガ ヤケテ モー {笑} (C {笑}) ソレコサ
胸が やけて [=苦しくて] もう {笑} (C {笑}) それこそ

モー タウチナンカ デケヘン。 (B タウチノ ソノジブンニナー
もう 田打ちなど できない。 (B 田打ちの その時分にねえ

ワカイトキ ムネ ヤケタカナ) ムネ ヤケター。
若い時 [に] 胸 [が] やけ [たりし] たかな) 胸 [が] やけた。

(B アー ソーカナー)

(B ああ そうかなあ)

[13↑14]

10C : ケド モー ムカシノヒトワヨ、 (A ン一) ミナー ソノ
だけど もう 昔の人はね、 (A ん一) みんな その

滋賀県 14-2

チカラシゴトバッカリ、 (A ハイ) エ、 キカイ
力仕事ばかり [で]、 (A はい) × 機械 [が]

アラヘンデー、 (A ハイ) オモニ マー チカラデー
ないので、 (A はい) 主に まあ 力で

スルシゴトバッカリヤデ、 (A ソヤ ソヤ) ソンデニー アノー
する仕事ばかりなので、 (A そうだ そうだ) それで あの

ワカイヒトヤッタラ、 ア、 オハギー、 ボタモチミタイモンワヨ、
若い人だったら、 × おはぎ、 ぼたもちみたいなものはね、

(A ホーエ) ヨーケ タベヤヒテンヤガナ。
(A そう [だ] よ) たくさん 食べなさったんだよ。

(A エー ヨーケヤッタ) ヒトリ ヒトッデー、 イツツヤ
(A ああ たくさんだった) 一人 一人で、 五つや

ムツツヤナイ トーグライ クワシタンヤロ。 {笑}
六つじゃない 十ぐらい 食べなさったんだろう。 {笑}

11A : {笑} ソーヤガナ ナンセ [3] ヒルナー (C シー) アノー、
{笑} そうですよ なんといっても 星ねえ (C んー) あの、

イチバメンパ [4] ナー (C ウン) アノ ムカシノ オマエ メ、
いちばめんぱね (C うん) あの 昔の あなた ×

メンパヤー。 (C アー) アノ イチバメンパー、 アレワ
めんぱだ [よ]。 (C ああ) あの いちばめんぱ、 あれは

滋賀県 14-3

アノー、 ヒチゴー [5] ハイル チューネンナ、 (C ウン)
あの、 7合 入る というんだね、 (C うん)

ゴハン ヒチゴーナ、 (B フーン)
ご飯 [が] 7合ね、 (B ふうん)

(C オーキーワサナー アレワ) オーキー。 アレ、 イッパイ
(C 大きいよねえ あれば) 大きい。 あれ [に]、 一杯

ツレント [6] クッテシマウネヤロー。 (C {笑}) ソデ
すっかり 食べてしまうんだろう。 (C {笑}) それで

イッパイ ツレント クッテ、 アー モー、 ホンデ、
一杯 すっかり 食べて [しまって]、 ああ もう、 それで、

ハラ ハッタッデ、 ホデ コンド、 コビリ [7] ニヨ?
腹が 張っているので、 それで 今度 [は]、 小昼にね

(C ン一) マタ ソノ、 リョーワ、 カワト ミート、 イレテ
(C ん一) また その、 ×××× ふたと 身と [に]、 入れて

オマエ、 (C ン一) ワラスペデ キュット {笑} ククトイテ
あなた、 (C ん一) わらしへで きゅっと {笑} 結んでおいて

{笑} (C ハジケンヨーニ {笑}) ベントー モッテキテ {笑}
{笑} (C はじけないように {笑}) 弁当 [を] 持ってきて {笑}

ソト、 ミーダケ ヒル クッテ、 ホシテ {笑} ナンヤー
×× 身だけ [を] 昼 [に] 食って、 そして {笑} 何だ

滋賀県 14-4

コビリニー、 ナ、 カワダケ [8] マタ カッ、 ト
小昼に、 × ふた [側の分] だけ また カッ、 と

クーネン。 ソンダケ ク、 クッテンナー。
食うんだよ。 それだけ [たくさん] × 食ったんだなあ。

(C シー) ホットナー アレ、 オーカタ イッショー アルワ。
(C んー) するとねえ あれ、 おおかた 1升 [は] あるよ。

(C ハー) コメ イッショー。 (C イッショーメシ
(C はあ) 米 1升。 (C 1升飯 [を])

クワシタッテナー) ソー ソレガ イッショーメシ
食べなさったってねえ) そう それが 1升飯 [を]

クッテ {笑} (C マー) ソンナケ クワナンダラ、
食って {笑} (C まあ) それだけ 食わなければ、

ナ、 ア、 ハラー、 トクシンショレヘンネン。
ね、 × 腹 [が]、 得心しないんだ。

12C : ソレグライヤサカイ アキヤトカヨ? (A アー)
それぐらいだから 秋だとかね (A ああ)

ゴガツヤトカナ、 (A ウン) ソーュー ハラノー
5月だとかねえ、 (A うん) そういう 腹の

ヘルトキワヨ? (A アー) アノ、 チカラシゴト ヨーケー
減る時はね (A ああ) あの、 力仕事 [を] たくさん

滋賀県 14-5

センナラントキワ、 (B {笑}) ソノ一、 オハギヤトカ一、
しなければならない時は、 (B {笑}) その、 おはぎだとか、

ボタモチヤトカ ア、 マー ボタモチト オハギト
ぼたもちだとか あ、 まあ ぼたもちと おはぎと [は]

イッショヤケド、 (A ヤー) ホデ一 ヨモギノハイッタ
同じだけれど、 (A いやあ) それで よもぎの入った

ダンゴヤトカ、 (A ダンゴナー) ナー。 (A ウーン)
団子だとか、 (A 団子ねえ) ねえ。 (A うーん)

ソヨナモンオ ソノ一、 アー コビリニヨ?
そう [いう] ようなものを その、 ああ 小昼にね

(A アー) アノ一 モッテキテモーテ、 (A ソーヨ)
(A ああ) あの、 持って来てもらって、 (A そう [だ] よ)

イップクニ タベタモンヤロ。
休憩時に 食べたものだろう。

13A : ソーヨ [9]。 (C ン一) イップクニナ。 ソレガ ナントモシレン
そう [だ] よ。 (C ん一) 休憩時にね。 それが なんとも知れず

オイシカッテン。 (C {笑} ウン)
おいしかったんだ。 (C {笑} うん)

14B : タベヤ [10] ムネガ ヤケルショ。 (C ン一) (A ナー) ナー、
食べれば 胸が やけるしね。 (C ん一) (A ねえ) ねえ、

タベント イラレヘンショ。
食べずに [は] いられないね。

15A : タベント イラレヘン。 (C シー) アー ソノトキニ、
食べずに [は] いられない。 (C んー) ああ その時に、

[14↑15]

チョット、 アトクチ、 ノーナニニ、
ちょっと、 後口のあれに [=後口のよいものとして]、

タクアンヅケノノ、 (C シー) アノー、 ナニオー、
沢庵漬けのね、 (C んー) あの、 あれを、

ツケモンオヨ、 (C ウン) タベットーナ? (C ウン) アレーワ
漬物をね、 (C うん) 食べるとね (C うん) あれは

ハラガ、 ヤッパリ スイット スルヤロ。 アトクチャ エーワナ。
腹が、 やはり すいっと するだろう。 後口が いいよね。

ナンセー アマイモン クーデナー。 ホンデ デ
なにせ 甘いもの [を] 食べるのでねえ。 それで で

チャー ノンデノー。 {笑}
茶 [を] 飲んでねえ。 {笑}

16B : ドコデデモ オナジコトヤ ホラーナ。 (A {笑}) ダンゴ
どこででも 同じことだ それはねえ。 (A {笑}) 団子 [を]

タベタリシテテ *ナ。 (A エー) ダンゴ タベタリヨ。
食べたりしていた [よ] ね。 (A ええ) 团子 [を] 食べたりね。

滋賀県 15-2

ナ。 (A ダンゴナー) ンー ダンゴワ モー カカサヘンダーワ。
ね。 (A 団子ねえ) んー 団子は もう 欠かさなかったよ。

(A ウン)

(A うん)

17C : アノ ユルゴ [11] オー コーニ スッテ、 (B フン フン)
あの 屑米を 粉に ひいて、 (B ふん ふん)

(A ンー) ホデ、 (B ホデ) ソレデナー (B ンー)

(A んー) それで、 (B それで) それでねえ (B んー)

アンマリ モチゴメノー マゼノ スクナイヤツ。

あまり 餅米の 混ぜ具合の 少ない団子。

(B ソーヤ ソヤ ソヤ) {笑} モチゴメガ ヨーケ

(B そうだ そうだ そうだ) {笑} 餅米が たくさん

マゼッタルト ウマイネケドヨ。 (A ソヤ ソヤ)

混ぜてあると うまいんだけどね。 (A そうだ そうだ)

(B ンマイネンケド ソエ アラヘンモン) ンー。 (B ナー)

(B うまいんだけど それ [が] ないもの) んー。 (B ねえ)

18A : ソデー ソレオナー、 アノー エーニ イル、 オバガヨー、
それで それをねえ、 あの、 家に いる、 婆がね、

(B ソヤ) イヒウスデ、 コロコロ コロ (B・C {笑})

(B そうだ) 石臼で、 ころころ ころ (B・C {笑})

滋賀県 15-3

コーヤッテ マワシテ、 {笑} ナー ホイデ、 イシウスカラ
こうやって 回して、 {笑} ねえ それで、 石臼から

チョロチョイ チョイ オチテ、 {笑} デ ソレオ、
ちょろちょろ ちょろ [ちょろ] 落ちて、 {笑} で それを、

コネテナ、 (B ン一) ホデー エー ナンヤ、 チョット、
こねてね、 (B ん一) それで ええ 何だ、 ちょっと、

ムシテー、 (C ン一) ホイデ、 ウスノナカデー、 グーッ グーッ
蒸して、 (C ん一) それで、 白の中で、 ぐつ ぐつ

ゲート イカナ [12]、 チカラマカセニナ、 オサエツケテナ、
ぐっと なんとまあ、 力まかせにね、 押さえつけてね、

ヒネリヤルネ。 (C ン一) ソレデ ヒネッタヤツオ、 チョット、
ひねるんだよ。 (C ん一) それで ひねった団子を、 少し[ずつ]、

アノ、 ワギリニシテ、 ホイデ、 アン イレテ。 ホレデ {笑}
あの、 輪切りにして、 それで、 餡 [を] 入れて。 それで {笑}

19C：アレ ナントカ ユー コボット [13] シタ コーユー、 ハチガ
あれ なんとか いう こっぽりとした [形の] こういう、 鉢が

アッタヤン、 ベニバチ ユーノ。 (B ン一 ベニバチ)
あつたじやない [か]、 紅鉢 [と] いうの。 (B うん 紅鉢)

(A オ、 オー) ベニバチ。 (B ウン、 ベニバチヤ)
(A あ、 ああ) 紅鉢。 (B うん、 紅鉢だ)

滋賀県 15-4

(A ベニバチ) ナ、 ベニバチデ コネンネヤロ。
(A 紅鉢) ね、 紅鉢で こねるんだろう。

(A セヤ セヤ、 アレデ コネル)
(A そうだ そうだ、 あれで こねる)

20B : セヤ セヤ セヤ セヤ。 ベニバチヤガナ。 (C ンー)
そうだ そうだ そうだ そうだ。 紅鉢だよ。 (C んー)

21A : ンー。 ホデナー、 ウチワ、 ワシノー、 ウ、 アノー
んー。 それでね、 家は、 私の、 × あの

ハハオヤナンカガ、 ソーユーコト ワリニー、
母親などが そういうこと [に] わりあい

コスカッタデナ [14] (C アー) コスイシ ホデ
関心があったからね (C ああ) 興味があるし それで

ソーユーコト、 ワリニ ジョーズニ シヤッテ。 (C ンー)
そういうこと [を]、 わりに 上手に 作って。 (C んー)

デ ウース シャート、 コロガシテキテヨー、
で 曰 [を] シャーッと [上手に]、 転がってきてねえ、

(C ウン) ウス ジョーズ、 ナニデ ホイデ、 キネデヨ、
(C うん) 曰、 上手 [に]、 あれで それで、 杣でね、

(C ウン) ダーンダーント ヨー {笑} ツイテ
(C うん) だんだんと よく {笑} ついて

(B エ ヨーケ オイシーワ、 ウン) ソラー テーデ
(B え、 よけい おいしいわ、 うん) それは 手で

コネルヨリ、 (C ソラー、 ナ、 ヨー ネレタール) ソラー
こねるより、 (C それは、 ねえ、 よく 練られてある) それは

ヨー ネレル。 (B ソラ ウマイワ。 ソノホーガ ウマイワナー)
よく 練られる。 (B それは うまいよ。 その方が うまいよねえ)

ア一。 (B フーン) ソレデナー、 (B ウン) チョット、
ああ。 (B ふうん) それでねえ、 (B うん) ちょっと、

アン イレテナ、 (B ウン) ナンシタラ ソラー
餡 [を] 入れてね、 (B うん) あれしたら [=作ったら] それは

オイシカッタ。

おいしかった。

[15↑16]

22C : トリゴノエサニ スルヨナユルゴオヨー、 {笑} (A {笑})
鳥の餌に するような屑米をねえ、 {笑} (A {笑})

ソリヤ ソヤサ {笑}) ナー。 {笑} アー ムカシワー
それは そうだよ {笑}) ねえ。 {笑} ああ 昔は

コメノツクリカタモ ヘタヤッタサカイニー ソノ ユルゴモ
米の作り方も 下手だったから その 屑米も

ヨーケ デケタンヤロナー イマトワ。

たくさん できたんだろうねえ 今とは [ちがって]。

滋賀県 16-2

23A：アリヤー ユルゴ ワリニ ヨーケ デキタナー。
あれは [=当時は] 脊米 [が] わりあい たくさん できたね。

24C：ユルゴマイヤサナー。 (A ン一) ソデー、マ ソレガ ヨーケ
脊米なんかねえ。 (A ん一) それで、まあ それが たくさん
デキルグライヤサカイヨー、 (A ン一) ホンマイ、
できるぐらいだからねえ、 (A ん一) 本米、
ジョーマイノホーモ スクナカッタデカ、マー ジョーマイ
上米の方も 少なかつたからか、まあ 上米 [は]
ウランナランサカイニ、 (A ヘ一) ソノ一、ヤクザゴメオ、
売らなければならないから、 (A ええ) その、 脊米を、
ヨケー ナントカシテ クーヨーニ、 (A ソーヤガナ)
よけい なんとかして 食うように、 (A そうだよ)

クフーシタモンヤガ。

工夫したもんだよ。

25A：ソレガナー、 (C ウン) ソラー アノー、 ホンライナラ、
それがねえ、 (C うん) それは あの、 本来なら、
イッタンニ、 ロッピョー トレルヤツガヨー、 (C ウン)
1反に、 6俵 取れるところがね、 (C うん)
ロッピョー トレカネタンノニヤナー、 ソレニ、 ナンヤー
6俵 取れかねているのにだねえ、 それに、 何だ

滋賀県 16-3

カイリョーマイ サンビヨー、 ネング [15] ハカラソナラン。
改良米 3俵 [の]、 年貢 [を] 計らねばならない。

(C ウン) ンデ カイリョーマイー、 サンビヨーノー、
(C うん) それで 改良米 3俵の、

ヨリスグッタヤツ、 ネング ハカラッタラー ノコルヤツ
よりすぐった改良米 [から] 年貢 [を] 計ったら、 残る米 [は]

チョイトシカ アラヘン。 (B ソラ ハンマイ アラヘンデ
ちょっとしか ない。 (B それは 飯米 [が] ないよ、

ソラ) ハンマイガヨー。 (B ナー ハンマイガ アラヘン) ナー
それは) 飯米が [だ] よ。 (B ねえ 飯米が ない) ねえ

(B ン一) ホンデニ、 ヤクザモンバッカリ、 アトヘ
(B ん一) それで、 屑米ばかり、 後へ

ノコンネヤガナ。 (C ヤクザモンガ モーケヤサ。 {笑}) {笑}
残るんだよ。 (C 屑米が 儲けだよ。 {笑}) {笑}

ヤクザモンガ モーケ {笑} (B ホナイ オモウト ダンゴ
屑米が 儲け。 {笑} (B そう 思つたら 団子 [を])

クワナ ショーナイワ) ホンデニ ダンゴデモ クーカ
食わなければ 仕方がないよ) それで 団子でも 食うか [と]

ユーテ。 ナー。 (B ナー) モッタイノーテ シャーナイ。
いって。 ねえ。 (B ねえ) もったいなくて しかたがない [から]。

滋賀県 16-4

26B : シー モッタイナイ ワシラ モー ガッコー カエッタラ
んー もったいない 私たち [が] もう 学校 [から] 帰ったら

オカユカ オジヤバッカリ デテタデー、 (A・C {笑})
おかげか おじや [=雑炊] ばかり 出ていたよ、 (A・C {笑})

* * サタレヘン。 (C {笑}) ソンナ
[出ないことは] ない。 (C {笑}) そんな [=それほどに]

コメ イッショーデモ ウロ ト オモテヤッテンナー オヤガヨ。
米 [を] 1升でも 売ろう と 思っていたんだね 親がね。

(A・C アー) ナー。 (C ウン) ホシテ モ オジヤヤ
(A・C ああ) ねえ。 (C うん) それで もう おじやだ、

オカズノ タイタラ オシ [16] ノノコリデ オジヤン タイタル
おかげの 炊いたら [その] お汁の残りで おじやが 炊いてある

ゲッソリ [17] シタナー。 (A {笑}) タベトーナカッタンナー。
がっかりしたなあ。 (A {笑}) 食べたくなかったなあ。

27A : ソラ、 イヤ Bサンモナー (B エ?) (C ウン) アノ、
それは、 いや Bさんもねえ (B え?) (C うん) あの、

キョーダイ オーカッタデヨ (B・C アー) ホイデ キョーダイガ
兄弟 [が] 多かったからね (B・C ああ) それで 兄弟が

デヤッタラ オトコボーズバッカリヤロ?
どうだといつたら [=兄弟といえば] 男の子どもばかりだろう?

滋賀県 16-5/17-1

(C ンー) ン {笑} オトコボーズデ オナゴ イ、 {笑}
(C んー) ん {笑} 男の子 [ばかり]で 女の子 [が] × {笑}

[16↑17]

イヤラヘンデスヨー。 (B ソーヤー) オンデニ ソラ、 ノー。
いないんですよー。 (B そうだ) それで それは、 ねえ。

28B：オジヤデ ウン ホンマニ ヒドカッタゾナ。 (A オジヤ) ウン、
おじやで うん 本当に ひどかったよ。 (A おじや) うん、

コメオ イ、 イッショーデモ ヨケニ ウロ ト オモテヨ。
米を × 1升でも よけいに 売ろう と 思ってね。

(A {笑}) (C ンー) ナー。 (C ソヤナー) ウンー、
(A {笑}) (C んー) ねえ。 (C そうだなあ) うんー、

ムカシワ ソヤッタ、 ガッコー カエッテキタ ドーント
昔は そうだった、 学校 [から] 帰って来た [ら] ドーンと

コンナ シショーナベニ オジ、 オジヤカ オカユ
こんな 4升鍋に ×× おじやか お粥 [が]

タイタンネン ゲッソリシタナー。 モー タベトナイ ト
炊いてあるんだよ。 がっかりしたなあ。 もう 食べたくない と

オモータナー。 (A {笑})
思ったなあ。 (A {笑})

29C：オカユワ エーケドー アノ アジオヨ、
お粥は いいけど、 あの、 味をね、

滋賀県 17-2

(B オジヤヨ。 オシノノコリデヨ) オー オ、 オジヤモ
(B おじや [だ] よ。 お汁の残りでね) ああ × おじやも

ソラー エ、 アノー、 (B {笑}) ヲ、 マゼガ エート
それは × あの、 (B {笑}) こう、 具が よいと

エーケドナー。

いいけどね。

30B : ソーヤガナ。 (C {笑}) ソラ オシノノコリヤナ ト
そうだよ。 (C {笑}) それは お汁の残りだな と

(C ウン) ワカッタルガナ。 ダー
(C ウン) わかっているじゃない。 だから

ゾブゾブノオシヤナ。

ぞぶぞぶ [=汁気の多い] のお汁だね。

31A : {笑} オジヤ チュータカテ オマイ、 (B ウン) アサー タイタ
{笑} おじや といったって あなた、 (B うん) 朝 炊いた

オマエ シルノノコリヤ {笑} (C {笑}) ソコエ、
あなた、 汁の残りだ {笑} (C {笑}) そこへ、

ナー。 (B ナー。 モー ***) ホーリコンダ、 ソレモ
ねえ。 (B ねえ。 もう ***) 放り込んだ、 それも

オマエ、 (B ンー) コメノメシナラ エーケド、 (B ソーヤ)
あなた (B んー) 米の飯なら いいけど、 (B そうだ)

滋賀県 17-3

ムギメシヤ。 {笑} (C {笑}) ソレオ イカナ、
麦飯だ。 {笑} (C {笑}) それを なんとまあ、

(B モー ソヤケド) ダー、
(B もう だけど) ××

(B タベトナカッタワ モー ホンーマニ) オー
(B 食べたくなかったよ もう 本当に) ××

オツユノ オマエ ノコリジルノトコエムケテ [18] ダント
おつゆ [=汁] の あなた 残り汁のところへ だんと

ブチマケテ、 ホイデ マダ、 ゾ、 ソレデ タライデヨー、
ぶちまけて、 それで まだ、 × それで 足りなくてね、

(B シーマニ ソヤッタ) アノー、 コーデ
(B 本当に そうだった)あの、 粉で

スッタ、 (C フン) ダンゴノー
すった [=ひいた粉で作った], (C うん) 団子の

イカナ {笑} (C {笑}) コシラエテヨ (C アー)
なんとまあ {笑} (C {笑}) [それを] こしらえてね (C ああ)

ソレオ チョイト ツモンデ [19] (C ウン) コー イッパイ {笑}
それを ちょっと つまんで (C うん) こう いっぱい {笑}

ホーリコンデ {笑} (B シーマニ ソヤッタナー) ホイデ
放り込んで {笑} (B 本当に そうだったなあ) それで

滋賀県 17-4

ソレ ドーット ヌクメテ、 (B *** スゴイ ハラガ
それ [を] どーっと 温めて、 (B *** すごく 腹が

ハッタ ヨカッタ オモウナー ***
張った [から] よかった [と] 思うねえ ***

ナベニ イーッパイヤ。 {笑}
鍋に いっぱい [のお粥のできあがり] だ。 {笑}

(B {笑})

(B {笑})

32C : ムカシワ ホンデ、 ダンゴワ ヨー タベタンヤナー。
昔は それで、 団子は よく 食べたんだねえ。

(B ウン、 ダンゴワ モー) ダンゴワ ナンボ
(B うん、 団子は もう) 団子は どれほど

タベタカ。 {笑}
食べた [こと] か。 {笑}

33B : モー ナー (C ウン) オシニ ウカシテ
もう ねえ (C うん) お汁に 浮かせて

タベタリナ。 (C ウン ウン) ホデ
[汁の実として] 食べたりね。 (C うん うん) そして

チッチャイヤロー?
小さいだろう?

34A : ホレデ ナンテ イエ、 イーヤル ト ュートナー、 (C ウン)
それで 何と ×× いう [か] と いうとね、 (C うん)

アノー シルダンゴー、 ヨル、 クワシトクトナー、 (B・C ウン)
あの、 汁団子を、 夜 食わせておくとねえ、 (B・C うん)

コドモガ ションベン コキヨラン チュテ。 {笑}
こどもが 小便 [=寝小便] [を] しない といって。 {笑}

[17↑18]

(B・C {笑}) ハ、 ハラガ、 {笑} ハランナカデ、 (C アー)
(B・C {笑}) × 腹が、 {笑} 腹の中で、 (C ああ)

アレ ヌ、 ヌクトーナンノカネー、 イヤ ションベ [20]
あれ × 温かくなるのかねえ、 いや 小便 [を]

コキヨラン テ。
しない って。

35C : ア ツクネモン [21] タベテ
あ こねてまるめたもの [=団子、 饅頭のたぐい] [を] 食べて

ネットー、 アノ ションベ ヨーケ デン チ
寝ると、 あの 小便 [が] たくさん [は] 出ない と

ユーワナー。 (B アー)
いうよねえ。 (B ああ)

36A : {笑} (B フーン) ソンナコト ユーテ ワシ
{笑} (B ふうん) そんなこと [を] いって 私 [の家は]

滋賀県 18-2

シルダンゴ {笑} ドント タイテノー。

汁団子 [を] {笑} たくさん 炊いてねえ。

(B ソンナトキヤッテン ムカシワナ) ホイデ、ダイコノ、

(B そんな時だったんだよ 昔はね) それで、大根の、

ソボロダンゴ チュテノー。 (C アー) ダイコ

「そぼろ団子」 といってねえ。 (C ああ) 大根 [を]

イカナ シャート、 ソボロニ キッテ。 ソイデ、

ほんとにまあ しゅーっと、 そぼろに 切って。 それで、

ダイコノアジヤサ。

大根の味だよ。

37C : ンー。 ソレオ ダンゴノナカ イレターンノ。

んー。 それを団子の中 [に] 入れてあるの [か]。

(A ソレオ ダンゴノナカニ {笑})

(A それを 団子の中に [入れてある]。 {笑})

{笑} ミズクサイヤナイカ {笑} (B ンー モ ナンカイモ)

{笑} 水っぽいじゃないか {笑} (B んー もう 何回も)

(A ソレデモ) (B カサオ ***シテ **エルワ、 ナ、

(A それでも) (B 嵩を ***して **えるよ、 ねえ、

38A : ソレデモ (B ンー) ミソシルノナカエ、 (C アー)

それでも (B んー) 味噌汁の中へ、 (C ああ)

滋賀県 18-3

ホリコムサカイニナ、(C シー) アノー シオケ アルワ。{笑}
放り込むからね、(C んー) あの 塩気 [は] あるよ。{笑}

39B：ホデ モー オヤツ チュータラ モ タダマメ [22] カ
それで もう おやつ というと もう 大豆か

ソラマメヤナー (C シー) ムカシワ。
そら豆だなあ (C んー) 昔は。

40A：アンナモン、ソヤケド、(B マダ) ヨー、クッタモンヤナー
あんなもの、だけど、(B まだ) よく、食ったものだねえ

ソヤケドヨー。
だけど [=それにしても] ねえ。

41B：ミンナ ドコデモ イッショヤ。(A {笑}) ナー。
みんな どこでも 同じだ。(A {笑}) ねえ。

42C：ソーヤナー。(B ウン) ソ アノ ソラマメノナー
そうだなあ。(B うん) X あの そら豆のねえ

カンカラカンオヨー。
かたいのをねえ。

43B：ソーヤガナ (C {笑}) ド、コノヘンデモ ソーヤッタナ、(C
そうだよ、(C {笑}) X この辺でも そうだったね、(C
ンー) ソデ タダマメヤラナ、モ ダンゴノアラレヤッタ
んー) それで 大豆などをね、もう 団子のあられだった [ら]

- (A ソラマメーデモナー) ウン ヨーケ
(A そら豆でもねえ) うん たくさん

ツクッテナー。 (A ヨーケ ツクッテ) ンー。
作ってねえ。 (A たくさん 作って) んー。

44C : ホデー カンノモチーオ、 アノ ショーガツノモチトヨ?
それで 寒の餅を、 あの 正月の餅とね?

- (B ウン) カンノモチトー ツイタワサ。
(B うん) 寒の餅とを ついたよ。

- (B ツイタ ツイタ ツイタ ツイタ) (A エー エー)
(B ついた ついた ついた ついた) (A ええ ええ)

デー カンノモチノトキニ ソノ アラリツキオ
で 寒の餅の時に その あられつきを

スンネヤッタナー。 (A ハー アラリツキスル) ウン。
するんだったねえ。 (A はあ あらりつきする) うん。

- (A ンー)
(A んー)

[18↑19]

45B : アレー ホデー、 コワー [23] チュー モン シタワサナー。
あれ それで、 こわ [餅] という もの [も] 作ったよねえ。

- (C アー アレー)
(C ああ あれ)

滋賀県 19-2

46A：コワモチナー。

こわ餅ね。

47B：ナー、 (C シー) アレ ワリニ ウマカッタナー。

ねえ、 (C んー) あれ [は] わりあい うまかったねえ。

(C シー)

(C んー)

48A：ア一 アレー アッサリトナー。 (C シー)

ああ あれ [は] あっさりと [して] ねえ。 (C んー)

49B：ナー アレオ アジ シオー イレテ ヨー、 (A エー)

ねえ、 あれを 味、 塩を 入れて よく、 (A ええ)

タイタナー。 イマワ ソンナン シヤヘン、 ナンニモ。 ナー。

たいたなあ。 今は そんなもの [は] しない、 なんにも。 ねえ。

50A：アノ、 コワモチワ、 ワリニ アッサリトノ。

あの、 こわ餅は、 わりあい あっさりと [して] ね。

(C ソヤナー) シー。

(C そうだねえ) んー。

51C：アノー、 モチニー オンデニー ウ、 ウルゴメガ一。

あの、 餅に それで × 粿米が。

52A：ウ、 ウルゴメ一 イレテナ。 (B ウン、 チョイト マゼターッテナ)

× 粿米 [を] 入れてね。 (B うん、 ちょっと 混ぜてあってね)

滋賀県 19-3

ホイデ ツイターンネン。 (B・C ウン) ソレニ アノー ホイデ
それで ついてあるんだ。 (B・C うん) それに あの それで

シオ、 シオアジー、 イレテナ。 (B ソヤ ソヤ ソヤ)
塩、 塩味 [を]、 つけてね。 (B そうだ そうだ そうだ)

ホデ チョット シオケガ アルサカイニ、 ワリニ アッサリトナ。
それで ちょっと 塩気が あるから、 わりあい あっさりとね。

(C ウン)

(C うん)

53B : ン一 モ ショーガツノモチモ ジューイクウスグライ
ん一 もう 正月の餅も 十幾臼ぐらい

ツイタヤロー ト オモウワ。 (C ン一) ナ。
ついただろう と 思うよ。 (C ん一) ネ。

54C : ショーガツノモチト ホイデー、 (B ナ) カンノモチノ一
正月の餅と そして、 (B ネ) 寒の餅の

ソノ アラリツキノトキーナ。
その、 あられつきの時ね。

55B : ソーヤガナ ***モ ツイテナー (C ウン) モ
そうだよ ***も ついてねえ (C うん) もう

ショーガツンデモヨ。
正月の [餅] でもね。

滋賀県 19-4

56A：ア一、 (B ナ) ヨ一ケ モチ ツイタヤローナ。
ああ、 (B ね) たくさん 餅 [を] ついただろうね。

57B：ヨ一ケ ツイタ、 ジュ一イクウス ツイタ ***。
たくさん ついた、 十幾臼 ついた ***。

(C フン) スキヤッタデ。 ホンナモン コドモガ ロクニンモ
(C ふん) 好きだったから。 そんなもの 子どもが 6人も

ヒチニンモ ナンボ クーヤラワカラヘンナ。
7人も [いたから] どれだけ 食うやらわからないね。

(C {笑}) ホンマニ ソヤッタ。 ヨー タベタワサ。
(C {笑}) 本当に そうだった。 よく 食べたよ。

58C：アラリデモー イチネンジュー ツクノー ソノトキ、 アノ
あられでも 一年中 つくのを その時、 あの
タベンノー ツ、 ツイトイタンヤロ？ (A ツイテ) ナー。
食べるのを × ついておいたんだろう？ (A ついて) ねえ。

59A：ソレデナ、 (C ウン-) ソノアラリヤカテヨ、
それでね、 (C うん) そのあられだってね、

(C カワカシトイテ) アオイーヤツヤラヤ、 (C アーン)
(C 乾かしておいて) 青いのやら、 (C ああ)
キーロイ ヤツヤラー (C ン- イロコ イレテ) イロコ
黄色いのやら、 (C ん- 色粉 [を] 入れて) 色粉 [を]

イレテナー アカニヨー、
入れてねえ 赤にねえ、

60C：ホデ ナンヤラ フクレル、 ザイリヨー イレルヤロ。
それで なにやら ふくれる、 材料 [を] 入れるだろう。

61A：ンー ソヤ ソヤ。 フクレル ザイリヨー イレテナ。
んー そうだ そうだ。 ふくれる 材料 [を] 入れてね。

62C：サトイモヤトカ、 (A ソヤ ソヤ) ナー。
里芋だとか、 (A そうだ そうだ) ねえ。

63A：ソイデー ソレオ、 アノー、 アノー ナン ア、 アミ、 アミノ、
それで それを、 あの、 あの 何 × × 網の、

(C ヌー) ナニデナ。 (C マメイリデ) マメイリデヨー?
(C んー) あれでね。 (C まめ煎りで) まめ煎りでね?

(C ヌー) アレ アレデ プクート フクレテナ。 アレー
(C んー) あれ あれで ぷくーと ふくれてね。 あれ

ソヤケド、 ミナ ワリニ ヨロコビヨッタナー。
だけど、 みんな [が] わりあい 喜んでいたなあ。

64C：ソヤナー。 (A ヌー) イマデモー オマエ アラリー
そうだなあ。 (A んー) 今でも あなた あられ [は]
(A アー) アノー、 ウッタンデヨ。 (A ウッタル) {笑}
(A ああ) あの、 売っているよ。 (A 売っている) {笑}

65A : {笑} ウッタルケド アラ ムカシ一、イエデ
{笑} 売っているけど あれは 昔、 家で

コッシャエタヨーナ、 アンナエアラリ アラヘンナ。
こしらえたような、 あんなよいあられ [は] ないね。

(C シー ソヤナー)
(C んー そうだなあ)

[19↑20]

66B : サトイモ ヨーケ イレヤ イレルホド ウマイネナー。
里芋 [を] たくさん 入れれば 入れるほど おいしいんだよねえ。

67A : アノー、 オーキナヤツー、 コノグライ アッタデ。
あの、 大きなの [は]、 このぐらい あったよ。

(C ソヤナー。 プクーット ヨー フクレテ) プクーット
(C そうだなあ。 ぷくーっと よく ふくれて) ぷくーっと

フクレテナー。
ふくれてねえ。

68C : ケド ダンゴノアラリワ アンマリ フクレナンダナ。 {笑}
だけど 団子のあらはれは あまり ふくれなかつたね。 {笑}

(A {笑})
(A {笑})

69B : カタイバッカシデ。
かたいばかりで。

滋賀県 20-2

70C：カタイバッカリ。 {笑} モチノアラレワ ヨーケ
かたいばかり。 {笑} 餅のあらはれ たくさん [は]

アタラナンダヤナイ。
あたらなかつたじやない [か]。

71B：ソーヤ**ナー、 (C ナー) モー ムカシワナー。
そうだ [った] ねえ、 (C ねえ) もう 昔はねえ。

ナンニモ、
なんにも、

72C：ダンゴノアラリバッカリ。 (A エライ、 *****) オキヤ、
団子のあらはばかり。 (A ずいぶん、 *****) ×××

オキヤクサンガ アッタラ ダンゴノ アノ モチノアラリデヨ、
お客様が あつたら 団子の あの 餅のあられでね、

(A ハイ) マー カナイバッカリノトキワ ダンゴノアラリ。
(A はい) まあ 家族ばかりの時は 団子のあられ。

73A：ナカナカナー モチノアラレ チュヨーナー アタラヘン。
なかなかねえ 餅のあられ というような [のは] あたらない。

74B：アタラヘン。 ヒトウスカ フタウスシカ ツカヘンダデナ。
あたらない。 1曰か 2曰しか つかなかつたのでね。

(A ン一) ドコデデモ ソヤッテンヤロ マタナー。
(A ん一) どこででも そうだったんだろう またねえ。

滋賀県 20-3

75A：ア一。 ャッパリ アレー ナンヤナー オヤツ ッチューノワ、
ああ。 やはり あれ あれだね おやつ というのは、

ヤッパリ、 イチンチノロードーガ キツイーガタメニ オヤツ、
やはり、 1日の労働が きついがために おやつ [を]、

ヤラナンダラ マー カラダガ モタン**ナー。
やらなかつたら まあ 体が もたない [だろう] ねえ。

76C：コーユー ハラノ ハルーナー、 (A アー アー) アノー、
このような、 腹の はるねえ、 (A ああ ああ) あの、

モンオ タベンコトニワ、 (A ン一) モタンデ、 {笑}
ものを 食べないことには、 (A ん一) もたないから、 {笑}

パンマデ、 ヒノグレマデ モタンヨ。 {笑}
晩まで、 日暮れまで もたないよ。 {笑}

(A ハラガ シンボーデキン) ハラガ、 シンボーデキン。
(A 腹が 辛抱できない) 腹が、 辛抱できない。

77B：ホイデ アノ イリコ [24] ウマカッタナ。 (C ン一)
それから あの 炒り粉 [は] うまかったね。 (C ん一)

コネテヨ。
こねてね。

78C：ア一 イリコ。 (B ナー) ン一。 (A イリコナー)
ああ 炒り粉。 (B ねえ) ん一。 (A 炒り粉ねえ)

滋賀県 20-4

79B：アレモ ウマカッタヤナイカ。
あれも うまかったじゃないか。

80C：アー イリコ、 アノ ユニ イレテ、 (B ナー ユニ) コ
ああ 炒り粉、 あの 湯に 入れて、 (B なあ 湯に) こう

カキマワシテ。
かき回して。

81B：ナー サト一 イレテ カキマワシテ ウマカッタガナ。
ねえ 砂糖 [を] 入れて かき回して うまかったよ。

(C ソヤ ソヤ) アレ ヨー タベタワ。 キヨービワ
(C そうだ そうだ) あれは よく 食べたよ。 この頃は

* * * * * タベモシェンデ * * * * *
[そんなものも] 食べもしないで * * * * *

82C：ン イリコワ アレ ナンデ コシラエタンネ。
ん 炒り粉は あれ [は] 何で こしらえてあるんだ？

83B：ムギヤ。 (C ムギカ)
麦だ。 (C 麦か)

84A：ムギヤ。 (B ウン) (C アー ムギ) (B ムギヤナー)
麦だ。 (B うん) (C ああ 麦) (B 麦だねえ)

ムギヤ。 (B ウン ムギ * * * テナー) ムギオー ホーライデ
麦だ。 (B うん 麦 * * * てねえ) 麦を 焙烙で

イッテヨ。 (B イッテヨ) (C フン) ホデ ソレオ一 イ、
炒ってね。 (B 炒ってね) (C ふん) それで それを ×

ヒータヤツ。 (C ン一) ンデ コーバシテ。
ひいたやつ。 (C ん一) それで 香ばしくて。

(C コーバシーテナー) ウン。 ンデ イマ ソノ、 ナニ、
(C 香ばしくてねえ) うん。 それで 今 その、 何、

[20↑21]

カワリニ ムギチャ ッチューノー、 (C ア一) コシラエテ
代わりに 麦茶 というものを、 (C ああ) こしらえて

ウットルワナー。 アノ ムギチャワー アノー、 ムカシワー エイ、
売っているよねえ。あの 麦茶はあの、 昔は ××

イリコバッカリデー、 トッタモンヤケド。 (C ン一) ソレガ
炒り麦ばかりで、 とったものだけど。 (C ん一) それが

オマエ一 バンチャヤラ ナンヤカラ マゼテナー。 ホデ
あなた 番茶やら 何やかや [を] 混せてね。 それで

アレー チャーニー *** ソラ コーバシーワ。
あれを 茶に *** それは 香ばしいよ。

85C : ソヤナー。 ホデ ムカシワ ホンデ ムギノモンワ ヨーケ
そうだねえ。 それで 昔は それで 麦のものは たくさん

タベテンナ。 (A ソリヤ モ一 ムギ {笑}) ム ムギメシ、
食べたんだな。 (A それは もう 麦 {笑}) × 麦飯、

滋賀県 21-2

ムギメシワ モー キマッタータショ。 {笑}
麦飯は もう 決まっていた [=定番だった] しね。 {笑}

86A : {笑} ムギメシワ キマッタ、 イッペンワ、 シロメシ
{笑} 麦飯は 決まって、 一度は、 白飯 [を]

クイタイナー テ ューテ。 (B {笑}) {笑}
食いたいなあ と いって。 (B {笑}) {笑}

87B : マツリノトキ アタラヘンネンナ。
祭の時 [しか] あたらんなんだよねえ。

88A : マツリニ {笑} (B ン ショ、 ショーガツヤナー) オー
祭に {笑} (B ん × 正月だねえ) うん

マツリニー ショーガツグライヤ。
祭りに 正月ぐらいだ。

89B : ナー。 ソンナモンヤッタンヤ。
ねえ。 そんなものだったんだ。

90A : アー。 {間} ソラ ソヤネー。 グンタイエ、
ああ。 {間} それは そうだねえ。 軍隊に、

ハイッティイッタカテ ソヤデナー。
入っていったって そうだよなあ。

91C : ソラー モ、 モノスゴイ ムギメシヤデナー。
それは もう、 ものすごい 麦飯だよねえ。

滋賀県 21-3

92A：ア一 アンナ モ一 ムギメシ オマエ、 ムギ一、 ムギ
ああ あんな [もの] もう 麦飯 あなた、 ×× 麦 [が]

ヒチブニ オマエ コメ サンブグライシカ アラヘン。 (B {笑})
7分に あなた 米 [が] 3分ぐらいしか ない。 (B {笑})

93C：エー？ ソラ ハンタイヤロ。 {笑}
ええ？ それは 反対だろう。 {笑}

94A：エ、 イヤー イヤー ソレグライ オマエ ムギ一、
え、 いや いや それぐらい あなた 麦、

(C オーカッタカラナ) ヨーケ ムギ一 クワショッタデー。
(C 多かったからね) たくさん 麦 [を] 食わされたよ。

95C：ホデ ムギワ フクレルデナ。 (A {笑} フクレル) ソー
それで 麦は ふくれるのでね。 (A {笑} フクレル) そう

ヨケー *** ***

よけい *** ***

96A：ホエデ ハラガ ハイ ヨケー、 ハ、 ハヨ ヘンネヤ。 (C ンー)
それで 腹が ×× よけい、 × 早く 減るんだ。 (C んー)

{笑} ホイデニ、 ヤー シ、 シオガ ヨー ハヤッテ。

{笑} それで、 ×× × 酒保が よく はやって。

(C ソヤ ソヤ) シオノ モチクイニ パンクイニ。 {笑}
(C そうだ そうだ) 酒保の 餅食いに パン食いに。 {笑}

滋賀県 21-4

97C : デー アノー、 ガイシュツシタリスルトヨ、 (A アー)
で あの、 外出したりするとね、 (A ああ)

ガイハクシタリスルト イッソーヨーノメシ クテキタ
外泊したりすると 一装用の饭 [を] 食ってきた

チューーテナ。 (A ア イッソーヨーノメシ) シ、 シロメシワ
といつてね。 (A あ 一装用の饭) × 白饭は

イッソーヨーノメシ テナ。 (A ハイ) {笑}
一装用の饭 ってね。 (A はい) {笑}

98A : アエワ マ イッソーヨーノゴハン クエル ユーノワ マ
あれは まあ 一装用のご饭 [が] 食える [と] いうのは まあ

グンキサイダケヨ。 (C {笑}) ナー。 グ、
軍旗祭 [の時] だけ [だ] ね。 (C {笑}) ねえ。 ×

(B コノゴロ ムギ タベテルイエワ ナイワナー)
(B この頃 麦 [を] 食べている家は ないよねえ)

(C モー) グンキサイニワ、 イッソーヨーノ、
(C もう) 軍旗祭には、 一装用の、

コメ クバリ**。
米 配り [ます]。

99B : ケド ***ケドナー、 カラダニワ エーネンナー。
だけど ***けどねえ、 身体には いいんだよねえ。

100C : ソラー ムギ タベタラ エーネケドナー。
それは 麦 [を] 食べたら いいんだけどねえ。

101B : ソヤ。 * * * * シテナー、 (A ン一)
そうだ。 * * * * してねえ、 (A ん一)

* * * * * ケドナー。
* * * * * けどねえ。

[21↑22]

102A : イマ チョイチョイ、 アノー、 ムギメシ クーヨーナ、
今 ちょいちょい、 あの、 麦飯 [を] 食うような、
(C ン一) クエルラシーナ。 (C アー ソーカナ) ン一。
(C ん一) 食えるらしいね。 (C ああ そうかな) ん一。

カラダノタメニ エーシ、
体のために いいし、

103C : ソラ、 カラダノタメニ エーネンワナー。 (A ン一)
それは、 体のために よいんだよねえ。 (A ん一)

アー ムカシワー イエデ ムギ ツクッテタデナー。
ああ 昔は 家で 麦 [を] 作っていたのでね。

(A ソヤ ソヤ) コノゴロ マタ テンサクデー
(A そうだ そうだ) このごろ また 転作で

ムギ ヤカマシコト ュー {笑} (A {笑})
麦 [を] やかましいこと [を] いう {笑} (A {笑})

滋賀県 22-2

(B * * * * *)

(B * * * * *)

104A : {笑} ムカシワ オマイ、 コメ カウノカテ オマエ
{笑} 昔は あなた、 米 [を] 買うのだって あなた

コメ カウノワ タカイサカイニ、 コメ カウドコロカ
米 [を] 買うのは 高いから、 米 [を] 買うどころか

ムギ {笑} コーテ、 ムギ ドント [25] イレテ
麦 [を] {笑} 買って、 麦 [を] うんと 入れて

ムギメシ クワシテ。 アー、 ソレデ ダンゴ。 {笑}
麦飯 [を] 食べさせて。 ああ、 それで 団子。 {笑}

105B : {間} ムギ タベテナ、 オーキナッテン、 オカユ タベテ
{間} 麦 [を] 食べてね、 大きくなつたんだ、 お粥 [を] 食べて

オジヤ タベタ ユテ オーキナッテンガナ、
おじや [を] 食べた [と] いって 大きくなつたんだよ、

ソレモ、
それも、

106C : ホラー、 イマノコト オモタラ ダイブン
それは、 今の [暮らしの] こと [を] 思つたら 大分

ソショクヤナ。
粗食だね。

滋賀県 22-3

107A：ソショクヤ。

粗食だ。

108C：ヒトイ ソショクヤナー。 (A アー) コノゴロワ モー アー。

ひどい 粗食だねえ。 (A ああ) この頃は もう ああ。

109A：ソ、 ソノクセー、 タベルモノ トッティナガラ、 ナ。

× そのくせ、 食べる物 [を] 取っていながら、 ね。

110C：カネニ センナラン。 {笑} (A {笑})

金に しなければならない。 {笑} (A {笑})

111B：カサヤノカサボネ [26] ヤ。 (A {笑}) アー カサボネカ。

傘屋の傘骨だ。 (A {笑}) ああ 傘骨か。

ソンナコッチャ一) ヒヤクショーダケデ セーカツシテタモン。

そんなことだ) 百姓だけで 生活していたもの。

(A エー) ナ。 ソナイナモン ヤイ ヤイ

(A ええ) ね。 そんなもの [生活が苦しいなど] やい やい

イワンコトワ イワン。

いわぬことは いわぬ。 [=愚痴をいうことはなかった]

112C：ギューニク チュナモンワ オマエ ネンニ ナンベン

牛肉 というようなものは あなた 年に 何べん

チューホドカ アタラヘンダヤロ。

というぐらいしか あたらなかつただろう。

(B シーナン アタラヘン) (A ソラー アタラヘン)
(B そんなの あたらない) (A それは あたらない)

ナー、コノゴロワ モー ニク チュナモン、 {笑}
ねえ、このごろは もう 肉 というようなもの、 {笑}

マイニチホド タベテ。 {笑} (B タベテナー)
毎日ほど 食べて。 {笑} (B 食べてねえ)

(A モー ニクミタイ クイトナイ チュ)
(A もう 肉みたい [なものは] 食いたくない という [くらい])

ホンマヤ。 {間} ウシノジュンジュン [27] タラ ューテナ。
本当だ。 {間} 牛のじゅんじゅん [=すきやき] とか いってね。

(A {笑}) スッキャキノコトーヨ。 (A ソヤ ソヤ {笑})
(A {笑}) すき焼きのことをね。 (A そうだ そうだ {笑})

{笑} ジュンジュンヤタラ ューテ {笑} (B {笑})
{笑} じゅんじゅんだなど [と] いって {笑} (B {笑})

113A：ジュンジュンナベ ッチュネンナ。 (C ナー。 {笑})
じゅんじゅん鍋 というんだよね。 (C ねえ。 {笑})

(B {笑}) {笑} ニクナベ ッチヤー エーノニ
(B {笑}) {笑} 肉鍋 っていえば いいのに

ジュンジュンナベ。 {笑}
じゅんじゅんなべ。 {笑}

滋賀県 23-2

- 114B : シーマニ ナー イマワ ソノコト オモウト ドコネヤカテ
本当に ねえ 今は そのこと [を] 思うと どこの家でも

ソンナ、 {咳} (C エー) セーカツワ シテゴザレヘンワナ。
そんな、 {咳} (C ええ) 生活は しておいでじゃないよね。
- 115C : ソヤナー。 (B ン一) マ、 ダンゴ ト ユーナコト
そうだなあ。 (B ん一) まあ、 団子 と いうようなこと [を]

ユータカテ イマノヒト シラッサラヘンワ。
いっても 今の人 [は] ご存知じゃないよ。
- 116B : シラッサラヘン。 (C ン一) タベテミヤ ウマイネンケドナ。
ご存知じゃない。 (C ん一) 食べてみれば うまいんだけどね。
- 117C : {笑} アンマリ ソヤカテ ウマイコト ナカッタゾ。
{笑} あんまり だけど うまいこと [は] なかったよ。

{笑} ユルゴノダンゴワ。 {笑}
{笑} 屑米の団子は。 {笑}
- 118B : サ、 ン一、 ソレデモ サトー ツケテナ アレ、 (C ソヤー)
× ん一、 それでも 砂糖 [を] つけてね あれ、 (C そうだ)

コドモワナ、 (C ン一) サトーデ タベテンナ。
子どもはね、 (C ん一) 砂糖で 食べたんだね。
- 119C : アレデモ ソラナー、 アノー、 カシゴメーノダンゴヤラヨ?
あれでも それはねえ、 あの、 研いだ米の団子だとかよ?

滋賀県 23-3

120B : ソラ ソレヤッタラ ジョートーヤサー。
それは それだったら 上等だよー。

121C : トカ ソユーノヤッタラ ウマイネンケドナー。
とか そういうのだったら うまいんだけどねえ。

122A : アノ ソヤケド センソーチューニ アノー、 アノー ナニ
あの だけど 戰争中に あの、 あの なに

マメ クレヨッタ マメシワ アレワ クエナンダナー。
豆 [を] くれた。 豆飯は あれは 食えなかつたなあ。

(C コーリャンメシ) コーリャンメシワ マダ エー、 マシヤデ。
(C 高梁飯) 高梁飯は まだ いい、 ましたよ。

アノー、 ダイズノヨー、 (C アー ダイズノナー) アー
あの、 大豆のね、 (C ああ 大豆のねえ) ああ

ダイズノー、 メシワ アレワ、 ドーニモ クエナンダナー。
大豆の、 飯は あれは、 どうにも 食えなかつたなあ。

123C : ダイズノ ソヤケド マダ マメカスノメシヤロ。
大豆の だけど まだ [さらに悪いのは] 豆粕の飯だろう。

{笑} (A マメ {笑})
{笑} (A 豆 {笑})

124B : ムカシノマメカスヤロ? ナー。 (C {笑})
昔の豆粕だろう? ねえ。 (C {笑})

滋賀県 23-4

(A {笑} ソヤ ソヤ、 マメカス***) ン一、 マメー、
(A {笑} そうだ そうだ、 豆粕***) ん一、 豆 [を]、
シボッタカスヤロ？ (A アー アレ カスヤ) ナ。
絞った粕だろう？ (A ああ あれ [は] 粕だ) ね。

ホンデニ タベラレヘンネナー。
それで 食べられないんだねえ。

125C : {間} ムカシワー ギョーサン カイコ コータサカイ ソコラニ
{間} 昔は たくさん 蚕 [を] 飼ったから そこらに
クワガ ヨーヶ ツクッタッタガヨー。 (A ハイ ソヤ)
桑が たくさん 作ってあつたがねえ。 (A はい そうだ)
ガッコーカラ カエリニ クワバタケノナカエ ハイッテヨー。
学校から [の] 帰りに 桑畠の中へ 入ってね。
(A {笑}) (B イチゴ タベタ) イチゴ タベテー
(A {笑}) (B 莓 [を] 食べた) 莓 [を] 食べて
クチ マ、 マッサオニ。 {笑}
口 [のまわり] [を] × 真青に。 {笑}
(A {笑} マ、 クワゲ) (B {笑})
(A {笑} × 桑×) (B {笑})
ナー。 (A クワイチゴナー) クワイチゴ。 (A ン一) ワリ
ねえ。 (A 桑莓ねえ) 桑莓。 (A ん一) わりあい

アレ、 オーキナイチゴヤッタデ。
あれ、 大きな苺だったよ。

126A : ワリニー ウマカッタ***ナー。 (C アー)

わりあい うまかった***ねえ。 (C ああ)

ソノカワリ クチ {笑} イチゴデ (B・C {笑})
そのかわり 口 [が] {笑} 莓で (B・C {笑})

{笑} ムラサキガカッテ {笑} (B {笑})

{笑} 紫がかつて {笑} (B {笑})

127C : {笑} アレワ ウソワ ツケナンダワ。 (A・B {笑})

{笑} あれは 嘘は つけなかったよ。 (A・B {笑})

ヨ一ケ、 クワン ウエターッタデナ。
たくさん、 桑 [が] 植えてあったからね。

128A : アー。 (C アー) クワバタケガ オーカッタデナー。

ああ。 (C ああ) 桑畠が 多かったからねえ。

129C : ンー。 モー イチジワ、 ドコノウチデモ ミナー、 (A ウン)

んー。 もう 一時は、 どこの家でも みんな、 (A うん)

アノー カイコー、 コーテー、 *** ャッテルジダイガ
あの 蚕を、 飼って、 *** やっている時代が

アッタデナー。
あったからね。

130A : アー ヨーザンオ、 ヨーケ ヤッタデナー。
ああ 養蚕を、 たくさん したからね。

[23↑24]

{間} アレ、 アノジブンニワ、 ソヤ ヨーザンデモ一
{間} あれ、 あの時分には、 それは 養蚕でも

セナンダラ、 カネノ ハイル、 (C ア ソヤナ)
しなかったら、 金の 入る、 (C あ そうだね)

ナニガ ナカッタデナー。
あれ [=手段] が なかったからね。

131C : アー コメト マユト。 (A アー) ナー。
ああ 米と 蘭と。 (A ああ) ねえ。

132A : チャー [28] ニ、 (C チャー) ニ、 ヨーザンナー。 (C ンー)
茶に、 (C 茶) に、 養蚕ねえ。 (C んー)

ンー。 {間} アノジブンニワ ヤッパリ ヒヤクショーノコメダケデワ
んー。 {間} あの時分には やはり 百姓の米だけでは

イケナンダデ、 ヤッパリ チャートカー、 カイ、
[やって] いけなかつたので、 やはり 茶とか、 ××

カイコトカナー、 (C カイコトカナー) モー ソレ
蚕とかね、 (C 蚕とかねえ) もう それ [を]

セナンダラ、 シゴトガ ナカッテンヤ。
しなかつたら、 仕事が なかつたんだ。

滋賀県 24-2

133C : ソヤナー、 (A ン一) カネニー カエルシゴトガ
そうだねえ、 (A ん一) 金に 換える仕事が

ナカッテン。 (A ナカッテン)
なかつたんだ。 (A なかつたんだ)

134A : {間} ナー ハタケモンデワー モー、 カネン ナルモン テ
{間} ねえ 畑ものでは もう、 金に なるもの って

ソンナコッチャッタナー。 (C ナー、 ソヤナー)
そんなことだったねえ。 (C ねえ、 そうだねえ)

135B : ン一 コンニヤクダマカナー。 (A ン一) ナ、 アノ
ん一 茄蔔玉かねえ。 (A ん一) ね、 あの

136C : ウン、 コンニヤクガ アッタナー。 (A アー、 コンニヤクガ)
うん、 茄蔔が あつたねえ。 (A ああ、 茄蔔が)

137B : ナ、 ホンデ ユリ、 ユリネナー、 (C ン一) ヨー
ね、 それで ××、 百合根ねえ、 (C ン一) よく

ウラシタワナー。
売りなさつたよねえ。

138A : カムラノー、 ノナカアタリワ (C ウン カムラノコンニヤク
神村の 野中辺りは (C うん 神村 [=氏神] の茄蔔
ウン) コンニヤクガナー。 アー イチバン、 ジメンニ
うん) 茄蔔がねえ。 ああ 一番、 地面に

滋賀県 24-3

テキトーシタッテ。 (B ナー、 ヨー ユリオ ヨー ***)
適當していて。 (B ねえ、 よく 百合 [根] を よく ***)

139C : イチジワ ニサンビヤッカングライ ウチラデモ トッタコト
一時は 二、三百貫ぐらい 私たちでも 取ったこと [が]

アル。

ある。

140A : ソヤロー。 アー ヨー ウエハッタワナー。 ノナカンホーメンワ。
そうだろう。 ああ よく 植えられたよねえ。 野中の方面は。

(C アノー) コンニヤクノホンバヤッテンナー。
(C あの) 茄藪の本場だったんだなあ。

141C : ソノー、 ツチニ ヨー オータッテンナ。
その、 土に よく 合っていたのだな。

(A ヨー、 ア、 オータナ) デー ノ、 ノリケガ
(A よく × 合ったね) でー × 糊気が
多い チュテナ。 (A ノリケガ オーイネン) コンニヤクヤガ
多い といってね。 (A 糊気が 多いんだ) 茄藪屋が
ヨロコンデ カイニキヨッタ。
喜んで 買いに来ていた。

142A : ソヤ ソヤ。 ンデ ヤッパリ イマデモー、 ノナカホーメンワ、
そうだ そうだ。 で やはり 今でも、 野中方面は、

滋賀県 24-4

エー イモルイガ一、 ウマイヤロー。 (C ソヤナー) ホデ
ええ 芋類が、 うまいだろう。 (C そうだなあ) それで

ヨー トレルヤロ。
よく 取れるだろう。

143C : ソー。 マダ コンニヤク一ノ、 キガ アイマニ ノコッタルケドナ。
ん一。 まだ 茹藪の木が ときたま 残っているけどね。

(A アー アイマニ ノコッタル) アー イッペソ
(A ああ ときたま 残っている) ああ 一度 [に]

スルダケノコンニヤクモ アリカネルワ。 {笑}
する [=作る] だけの茹藪も ありかねるよ。 {笑}

(A ソー、 アー モー ソナイ ナ、 ノーナッテ)
(A そう、 ああ もう それほど × なくなって)

ノーナッテモタ。
なくなってしまった。

144E : コンニヤクヤラワ ジブンノイエデ ツクッテハッタンデスカ。
茹藪やらは 自分の家で 作っておられたんですか。

145C : ソー ソー、 ジブンノ (A エー) アノ ホンデ、
そう そう、 自分の (A ええ) あの それで、

(B ムカシワ *** *ナ) ムカシワー クワバタケガ ヨーケ
(B 昔は *** *ね) 昔は 桑畠が たくさん

アリマシタヤロ？ ホンデ クワバタケノ ナ、 カンサクーヤラナ。
ありましたでしょう。 それで 桑烟の × 間作だとかね。

(A カンサクヤラ) ホンデ チャバタケノカンサクヤラニ
(A 間作だとか) それで 茶烟の間作なんかに

(A ソヤ ソヤ) アー、
(A そうだ そうだ) あー、

[24↑25]

146A：モ、 カンサクニワ モー、 タイガイ コンニヤク ウワッタッタ。
もう、 間作には もう、 たいてい 茚蒻 [が] 植わっていた。

147C：チョット ソノ一 ハンカゲノトコニ、 ワリニ ヨー¹
ちょっと その 半分日陰のところに、 わりあい よく

ソダツネンナ。 (A ヨー ソダツ) エー、 ツ、
育つんだね。 (A よく 育つ) ええ、 ×

ツチガ コー ボーナンニ、 アノ ウッテー、
土が こう 膨軟に、 あの [土を] 耕して、

ナカウチ シテ コー、 ポロボロシテクットー、
中打ち [を] して こう、 ぼろぼろになると、

ソーユートコニワ ソノ一、 ヨー フエテナ、 (A フン)
そういう所には その、 よく 増えてね、 (A ふん)

(E ン一) ンデー ヨー マー ソダツワケ。
(E ん一) それで よく まあ 育つわけ [や]。

滋賀県 25-2

148A：ホイデ、 ヤッパリ アノ コンニヤクデモ、 ノリガ オーイ。
それで、 やはり あの 菊蒻でも、 糊が 多い。

(C ン-) ホデ、 ウチラ、 ウチノートコアタリワ、
(C ん-) それで、 うちら、 うちのところ [の]あたりは、

コンニヤクダマ、 (B アカン) アカンネン。
菊蒻玉、 (B だめ) だめなんだ [=作れない]。

(B ウン) アノー ジメンガ ヨスギテナ。 ホデ
(B うん) あの 地面が よすぎてね。 それで

コンニヤクニ、 ショー ト オモッテモ ノリガ スケナイ。
菊蒻にしよう と 思っても 糊が 少ない。

(C ノリガ スクナイ {咳}) ホデ コンニヤクニ
(C 糊が 少ない {咳}) それで 菊蒻に

カタマラヘン、 カタマリニクイネン。
固まらない、 固まりにくいんだ。

149C：カムラデモー シモノホーワヨ？ (A アカンネン)
神村でも、 下の方はね。 (A だめなんだ)

アノー、 イ、 イットーバタヤトカ、 (A {笑}) ナ、
あの、 × 一斗畠だとか、 (A {笑}) ね、

(A オー) アニー、 マンナカゴロ [29] エ クルト
(A ああ) あのー、 中ほどへ 来ると

滋賀県 25-3

ハッショーバタヤトカ、 (A アー ソヤー) カミノホーエ クルト
八升畠だとか、 (A ああ そうだ) 上の方へ 来ると

ロクショーバタヤトカ、 (A ウン ソヤ) アー
六升畠だとか、 (A うん そうだ) ああ

ロクショーバタノトコニー ソノ コンニヤクガ ヨー ソダツネン。
六升畠のところに その 茹蕎が よく 育つんだ。

(A {笑} ヨーケ デル。 ジメンガ ワルイ)
(A {笑} たくさん 出る。 地面が 悪い)

ジメンガ ワルイデ、 ネングモ ソンダケノネング
地面が 悪いので、 年貢も それだけの年貢 [だ]

チュコトニ ナッタンネヤナ。 (E アー) ンー。
ということに なっているのだね。 (E ああ) んー。

(A ネングデモ ソヤッタナー) カタイッポワ
(A 年貢でも そうだったねえ) 片一方は

イットノネング ハラワンナランシ、 (A エー)
1斗の年貢 [を] 払わなければならないし、 (A ええ)

カタイッポワ ロクショーガ ネング ハラウコトニナル、
片一方は 6升の 年貢 払うことになる、

デ ソーヨートコワ ソノー、 クロボコ [30] デ、
で そういう所は その、 くろぼこ [=火山灰系の土] で、

アノー、 マ ジシツガ ワルカッテ。
あの、 ま 地質が 悪くて。

(A エー ジシツガ ワルカッタ) フン。
(A ええ 地質が 悪かった) フン。

(A デ マー コメデ) デー、 ホカノ ソノ ムギヤトカ、
(A で まあ 米で) デー、 ほかの その 麦だとか、

ヤサイヤトカ、 (A フン) ソーユーフーナモンワ、 アノー ソノ、
野菜だとか、 (A ふん) そういうふうなものは、あの その、

ヤクザナトコワ ヨーケ トレヘンダワケヤ。
悪い [地質の] ところは たくさん [は] 取れなかつたわけだ。

ホーデ イットーバタノトコワ、 ソーユーモンワ ヨーケ
それで 一斗畑のところは、 そういうものは たくさん

ソレ シューカクガ ナカッタワケヤカラナー。 (A エー)
×× 収穫が なかつたわけだからなあ。 (A ええ)

150B : ン、 タマダケカ ヨカッタンワ。
ん、 [蒟蒻] 玉だけか よかったのは。

151C : ン。 コンニヤクダマダケヨ。 マ ホデー オチャーヤラワナー、
ン。 蒹蒻玉だけ [だ] よ。 ま それで お茶やらはねえ、

ドーニカ ソダッタワナー。 (A ソヤ ソヤ) ケド
どうにか 育つたよねえ。 (A そうだ そうだ) けど

滋賀県 25-5/26-1

オチャデモ サー ヤッパリ ソノ スイショートカナ、
お茶でも それは やはり その 水晶とかね、

(A エー) ソーユーナン ナッテクルト ソノ
(A ええ) そういうようなものに なってくると その

イットーバタノトコノホーガ ダイブ、
一斗畠のところの方が だいぶ、

152A : ソヤー。 ヤッパリー、 (C アジヤトカ) ウジノー
そうだ。 やはり、 (C 味だとか) 宇治の

アタリワ、 (C ウン) オチャデモナ、 (C エー オチャ)
あたりは、 (C うん) お茶でもね、 (C いい お茶)

コロット エー、 チャーガ チャウ。 ウン。
すっかり いい、 茶が 違う。 うん。

[25↑26]

153C : カミノホーノーチャーワ (A {笑}) イロガナ、
上方の茶は (A {笑}) 色がね、

154A : アー。 (C {笑}) イロガ ワルイ。
ああ。 (C {笑}) 色が 悪い。

155C : イロガ ワルイ。
色が 悪い。

156A : ソレダケ ドシツデ チャウンヤ。
それだけ 土質で [作物のできが] 違うんだ。

157C : セヤ。

そうだ。

158A : {間} ナー。

{間} ねえ。

159C : {間} ホンデー、 ン、 ムカシデモ ホンデ、 アノ カウ、 ヲ
{間} それで、 × 昔でも それで、あの 買う、 ×

コーテタベル、 オヤツモ、 アッタ、ワケヤワナー
買って食べる、おやつも、 あつたわけだよね。

チットグライワ。 マー センベートカー ボーロトカヨ?
ちょっとぐらいは。まあ 煎餅とか ぼうろとかね。

(A フン) ソンナモンワ ムカシデモ、 アッタワサナー、
(A ふん) そんなものは 昔でも、 あつたよねえ、

アメダマトカ。

飴玉とか。

160A : アー ソヤ。 ポー、 ポーロ。 (B {笑})
ああ そうだ。 ×× ぼうろ。 (B {笑})

{笑} ポーロ チュータナ アレ。 {笑}
{笑} ぼうろ といったね あれ。 {笑}

161C : アー。 ポー、 ポーロ テ アレヤ ダンゴー、 ウドンコデ
ああ。 ×× ぼうろ って あれは 団子、 うどん粉で

コシラエタ、
こしらえた、

滋賀県 26-3

162A : {笑} ウドンコヤデ アレ ボーロ テー。 (B {笑}) オー、
{笑} うどん粉だよ あれ ぼうろ って。 (B {笑}) おう、

コンナノー。 (B ソーダッカ) {笑} アレー
こんなねえ。 (B そうですか) {笑} あれ [は]

ウドンコヤデー。 アレー ダンゴミタイナモンヤー。 (C {笑})
うどん粉だよ。 あれは 団子みたいなものだ。 (C {笑})

ホンマニナー。

本当にねえ。

163B : フーン、 センベニナ。 (C ンー) ソンナモンヤッタヤロカ。
んー、 煎餅にね。 (C んー) そんなものだっただろうか。

164A : コンペートーガ アッタデ。
金平糖が あつたよ。

165C : コンペートーガ アッタ、 (B コンペ) コンペートーガ アッタ。
金平糖が あつた、 (B ×××) 金平糖が あつた。

166A : コンペートーワ アレ ジョートーヤサ。
金平糖は あれ [は] 上等だよ。

167C : ゴリンダマワ ドヤナ。 (A {笑}) ゴリンダマ)
5厘玉は どうかね。 (A {笑}) 5厘玉)

(B * * * * * ムカシワ) タマノカシ。 (B ナ)
(B [こんなんだよ] 昔は) 玉の菓子。 (B ね)

滋賀県 26-4

ウン。 (B * * * * *) オーキナオカシヤナー。
うん。 (B * * * * *) 大きなお菓子だねえ。

168A : アー アレ アメノナー、 (C ウン) ジョーセンデ。
ああ あれ 餅のねえ、 (C うん) じょうせんで。

169C : シロト アカトニ、 ヌリワケテヨ。
白と 赤とに、 塗りわけてね。

170A : シ、 エー、 エー ゴリンダマ オマイ ヒツブ、 ヒツブ
× ええ、 ええ 5厘玉 [を] あなた 1粒、 1粒

クチンナカ イレタラ モ ヨダレ バー {笑}
口の中 [に] 入れたら もう 涎 [が] ばー [っと] {笑}

(B・C {笑}) ココラ * * * * {笑}
(B・C {笑}) この辺 * * * * {笑}

171C : ヒツブ イレタラ コドモヤッタラ クチ イッパイニ
1粒 入れたら 子どもだったら 口 いっぱいに

ナッタンヤ。
なったんだ。

172A : ホーヤ [31] クチ一 ハイラヘン。 (B・C {笑}) ホッデモー、
そうだ 口 [に] 入らない。 (B・C {笑}) それでも、

クチ一 ハイランヤツオ オマエ、 ネブ** ネブレ
口 [に] 入らないのを あなた、 ねぶ** ねぶれ [と]

ユーサカイニ、 (B・{笑}) ムリカラ クチンナカ イレテヨ
いうから、 (B・{笑}) 無理をして 口の中 [に] 入れてね

モゴモゴモゴ (B・C・{笑}) ココ ヨダレダラケヤ {笑}
もぐもぐもぐ (B・C・{笑}) ここ [が] 涎だらけだ {笑}

[26↑27]

173C : エー ソンナモンワ メッタニ アタラヘンノヤロケド。 {笑}
ええ そんなものは めったに あたらないんだろうけど。 {笑}

174A : {笑} アタラヘン。 ソラ {笑} ナカナカ。 マー、 ナンヤナ、
{笑} あたらない。 それは {笑} なかなか。 まあ、 何だね、

アノー、 コノー、 サンガツミッカノ、 ナンヤ、 ダイカグラノ、
あの この 3月3日の、 何だ、 大神楽の、

(B・{笑}) ヒグライヤナ {笑} (C・{笑}) ナー。
(B・{笑}) 日ぐらいだね {笑} (C・{笑}) ね。

(C・ンー) サンガツミッカノダイカグラ。 {笑}
(C・んー) 3月3日の大神楽。 {笑}

175C : ソヤ ソヤー。 ダイカグラノシリニ ツイテナー、 (A・B・{笑})
そうだ そうだ。 大神楽の後尾に ついてねえ、 (A・B・{笑})

アノー、 (A・ ダイカグラノシリニ ツイテヨー) アー、
あのー、 (A・ 大神楽の後尾に ついてねえ) ああ、

ホシミセヤ [32] ガ、 アー ナンヤラ イノーテ、 ウ、 ウリニ
露店が ああ なにやら 担って × 売りに

アルカシタワ。
歩きなさったよ。

176A：ソヤ ソヤー。 エー。 ワシトコワ、 イッセン モッティクト
そうだ そうだ。 ええ。 私 [の] 所は、 1 錢 持っていくと

(C ウン) ゴリンダマー フタツー {笑} カエルデヨ。
(C うん) 5 厘玉が 二つ {笑} 買えるのでね。

(C アタマタタキノ。 アメヤラ。 {笑})
(C あたまたたき [型] の。 餅やら。 {笑})

アメヤラ。 エー。 ンー アノー ネブッテノ。
餅やら。 ええ。 んー あの ねぶってねえ。

177C：カルメトーヤラナ。 (A エー カルメト一) フン。
カルメ焼きやらね。 (A ああ カルメ焼き) うん。

178B：{間} ンー ンー ソヤケド アラヘン**ナー オカシ ッテ
{間} んー んー だけど なか [ったんだ] ねえ お菓子 って

ソンナモンヤッテンヤロカ。 (C エ?) オカシ ッテ
そんなものだったんだろうか。 (C え?) お菓子 って

ソンナモンヤッテンヤロカ。
そんなものだったんだろうか。

179C：キャラメルヤタラ ユーノワ モー チョット。
キャラメルだとか [そう] いうのは もう ちょっと。

滋賀県 27-3

(A ア チョット コーショーナンヤナ) マー コーショーデ
(A あ ちょっと 高尚なものだね) まあ 高尚で

(A {笑}) ア、 アトノホーカラ デケテキテン。
(A {笑}) × あの時代に できてきたんだ。

(A {笑}) ソヤ ソヤ モリナガノキャラメル チューノ
(A {笑}) そうだ そうだ 森永のキャラメル というの [が]

アッタワサ。 (A エ ソーヤ) {笑}
あったよね。 (A あ そうだ) {笑}

180E : ヨー ボクラワ アノネー、 シンヤクトカユーヤツオヨ、
よく ぼくらは あのね 新薬とかいうものをね

(A・C ウン) オヤツガワリニ クテマシタワ。
(A・C うん) おやつがわりに 食っていましたよ。

(C アー) センソー、 チューカ、
(C ああ) 戦争中か

センソーゴーグライヤッタカナー。 (A アー)
戦争後ぐらいだったかなあ。 (A ああ)

コーカチョーノクスリヤサンガ、 カイガラノ、 ハマグリノアレニ
甲賀町の薬屋さんが、 貝殻の、 蛤のあれ [=貝殻] に

(C アー) ハイッタヤツオ。 (C アー ハマグリノウラニ)
(C ああ) 入ったやつを。 (C ああ 蛤の裏に)

- (A アー) (B アー アレヤ)
(A ああ) (B ああ あれだ)

181E : テリアカカナ、 アレワ。
テリアカ [=薬の名] かな、 あれは。

182C : テリアカ。 (B アー) (A アー {笑}) テ、 テリアカヤ)
テリアカ。 (B ああ) (A ああ {笑}) × テリアカだ)

ンー。 テリアカ ッテ テノアカヤゾ タラ ユーテ。 (B {笑})
んー。 テリアカ って 手の垢だぞ とか いって。 (B {笑})

183A : アノ カイニ オマエ、 アノ、 アカイヤツラ アオイヤツノ、
あの 貝に あなた、 あの、 青い貝や 赤い貝の、

アメガ チョイ、 ットーナ。 (C アー カイノナカニヤロ)
飴が ちょっとね。 (C ああ 貝の中にだろう)

カイノナカニ アノ、 (C ア、 アメガ ヘバツケテ [33])
貝の中に、 あの (C × 飴が ひつづけて)

ホー ヘバツケテヨー、 (C {笑}) ホイデ ヨー、
そう ひつづけてねえ、 (C {笑}) それで よく、

(C ソーユーナンガ アッタナ) ナー、 (C ウン)
(C そういうのが あったね) ねえ、 (C うん)

ホシミセヤー、 (C ンー) ヨー ウットッタヤ。
露店 [で] (C んー) よく 売っていただろう。

(E アー ハ) アレ ニー、 ニッキ。 (C アー ニッキ) ナ。
(E ああ は) あれ ×× ニッキ。 (C ああ ニッキ) ね。

184C : ウン。 ニッキガ チョット タバネテナー。
うん。 ニッキが ちょっと たばねてねえ。

[27↑28]

185A : ウン カサネテヤ。 (C ウン) アカイ、 カミデ キュット、
うん 重ねてだ。 (C うん) 赤い 紙で、 きゅっと、

(C ア チョット ツツンデ) (B {笑}) {笑} ツツンデヨ。
(C あ ちょっと 包んで) (B {笑}) {笑} 包んでね。

186C : {間} (E オタヤンノアメトカワ)
{間} (E おたやん飴 [=お多福飴] なんかは)

オタヤン [34] アメワー タムラサン一アタリヤナ。
おたやん飴は 田村さん [=土山町田村神社の祭礼] の頃だね。

(E アー アレー タムラサン) (A アー) アノー
(E ああ あれは 田村さん) (A ああ) あのー

*****ヤッテンケドモ、 (A ソーヤナー)
*****だったんだけれども、 (A そうだねえ)

(B *** カニガサカジョーセンナー) アレーワ モー
(B *** 蟹ヶ坂じょうせん [飴] ねえ) あれは もう

ダイブニー、 アタラシーワナー。 (E アー ソーデスカ)
大分と 新しいよねえ。 (E ああ そうですか)

滋賀県 28-2

(A アー。 ソー ソー)

(A ああ。 そう そう)

187B : カニガサカジョーセン チガウ*。
蟹が坂じょうせん [飴は] 違う*。

(C カニガサカジョーセンワ ムカシカラーナー)

(C 蟹ヶ坂じょうせんは 昔からねえ)

ムカシカラヤモンナー。

昔からだものねえ。

188A : ソヤ ソヤ。 アレワ モー、 カニガサカノー、
そうだ そうだ。 あれは もう、 蟹ヶ坂の

(B メーブツヤ) アノー メーブツヤ。 (B ナ) ン一。

(B 名物だ) あのー 名物だ。 (B ね) ん一。

189C : ジョー、 ジョーセン チュノワ ホンデ ムカシカラ
××× じょうせん [飴] というのは それで 昔から

アッタンヤロ。

あったんだろう。

190A : ジョーセンワ ムカシカラ アッタナー。
じょうせん [飴] は 昔から あつたね。

191C : ナー。 ギオンノマツリ [35] ワ ナンデモ ジョーセンーワナー、
ねえ。 祇園の祭は 何でも じょうせんはねえ、

滋賀県 28-3

- (A アー) ドコヤシランカラ ウリニキテ。
(A ああ) どこかから 売りに来て。

192A : アレ ジョーセンヤ チューノワ アレー、ナンヤ、(C シモダ)
あれ じょうせん屋 というのは あれ、何だ、(C 下田)

シモダヤ、シモダニー、アノー。シモダカラヤッタナー。
下田だ、下田に一、あの。下田からだったね。

- (C ウン) ウン。ジョーセン ウリニナー。
(C うん) うん。じょうせん [を] 売りにねえ。

(B ン一 ゴザッタナー) ウン。
(B ん一 来られたね) うん。

193C : アメノナイトキワ アノ、ムギヤラ タイテ ジョーセン
飴のない時は あの、麦など [を] たいて じょうせん [を]

コシラエタンヤナカッタンカ。(A コ、コシャエタ) ナー。
こしらえたんじやなかったのか。(A X こしらえた) ねえ。

194A : ン一。アレーモ ナカナカ、(C イモジョーセンヤトカ) アー
ん一。あれも なかなか、(C 芋じょうせんだとか) ああ

195B : タキモンガヨー、(A デキヘンナ) タキモンガ イクラ
たき物がねえ、(A できないね) たき物が どれほど

イルヤラ ワカレヘン。(C {笑})
いるやら わからない。(C {笑})

滋賀県 28-4

196A : アンナモン タイテ タイテナー。

あんなもの たいて たいてね。

197B : ナー。 エーノン デキルケドナー。 (A {笑}) アレ
ねえ。 よいのが できるけどね。 (A {笑}) あれ [は]

モヤシガー ナイト アカンワナ。 (A アー モヤシ) ウン。
もやしが ないと いけないよね。 (A ああ もやし) うん。

198A : ウン。 アレ モヤシ ッテ アレ、 ムギデ、 (B ムギノナ)
うん。 あれ もやし って あれ 麦で、 (B 麦のね)

ナ、 (B モヤシナ) アー、 ムギノモヤシデナ。
ね、 (B もやしね) ああ 麦のもやしでね。

アレ イレテ ガート ヨー オサエタラ ツ、
あれ [を] 入れて がーっと よく 押さえたら ×

ナカエ アノ ムギノモヤシ イレルト ソットー、
中に あの 麦のもやし [を] 入れると すると、

(B エーアメガ デキルケドナ) ウーン ア、 アメニナ
(B いい飴が できるけどね) うーん × 飴にね

トロトローット カタマッテキヨル。
とろとろっと 固まつてくる。

199B : アレ タキモン ナンボダカンナルカ ワカラヘン。
あれ [は] たき物 [が] いくらほどになるか わからない。

(A **** ナンボダカンナルカ ワカラヘン) ナー。
(A **** いくらほどになるか わからない) ねえ。

200C : カシノナイトキワ ソーユーモン コシラエタ。 (A エー)
菓子のない時は そういうもの [を] こしらえた。 (A ええ)

201B : コシラエタナー。 (C ン一)
こしらえたねえ。 (C ん一)

[28↑29]

202C : イモジョーセンモ ツクッテヤ。
芋あめも 作ったんだ。

(A ソヤ ソヤ イモジョーセンナー) {笑}
(A そうだ そうだ 芋あめねえ) {笑}

(B ムカシワ ***デナー) ウン。 (B ヨーケ シタワ)
(B 昔は ***でねえ) うん。 (B たくさん やったよ)

203A : マー ソヤケド ナンヤナー センソーチューニワ ソヤケドー、
まあ だけど あれだなあ 戰争中には しかし、

アマイモンワ チョットモ ナカッタデ、 アー
甘いものは すこしも なかつたので あれ [は]

フジュナモンヤッタナー アノトキワヨー? (C {笑})
不自由なものだったねえ あの時はね。 (C {笑})

204B : {笑} ゴハンモ ナイノニ アマイモン アルモンカ ナー。
{笑} ご飯も ないのに 甘い物 [が] あるものか、 ねえ。

(A アー) アノトキワヨ。
(A ああ) あの時はね。

205C : シオガ アッタデ マダ ヨカッタヤ。
塩が あったので まだ よかったよ。

206A : エー。 シ、 シオワナ。
ええ。 × 塩はね。

207C : ナー。 シオガ ナカッタラ ドーニモ コーニモ ショーガナイ。
ねえ。 塩が なかつたら どうにも こうにも 仕方がない。

(A ショーガナイ、 オデ シオ) ワシラー シナエ
(A 仕方がない、 それで 塩) 私たち [が] 中国へ

センソーニ イッテルトキナー。 (A アー) シオガー
戦争に 行っている時[に]ねえ。 (A ああ) 塩が

キレタトキガ アッタデ ソレワー モ ナンギ シタワー。
切れた時が あったので それは もう 難儀 [を] したよ。

(A ソヤロー?) ナー ホカノナー シゲキブツデワ
(A そうだろう?) ねえ ほかのねえ 刺激物では

シオノカワリン ナラヘンネン (A ハイ)
塩のかわりに ならないんだ。 (A はい)

トーガラシャトカナー ソンナモノデワ (A ナラヘン) ンナ
唐辛子だとかねえ そんなものでは (A ならない) そんな

シオケノナイモン テ タベラレタモンヤナイ。
塩氣のないもの って 食べられたものではない。

滋賀県 29-3

208A : アカンナー。 ン一、 ワシモ アノー、 ウラジオニ イタトキニー、
だめだねえ。 ん一、 私も あのー、 ウラジオに いた時に

アノー イー シオガ ナカッテヨ。 ホシタラ アノー、
あの ×× 塩が なくてね。 そしたら あの

ナンノーシオ、 エー ヤマジオノナー。
何の塩、 えー 山塩のねえ。

(C ウン) ガ、 (C ガンエン) ガンエンヤ。
(C うん) × (C 岩塩) 岩塩だ。

(C アー) ガンエンオー イカナー コレグライホドナー、
(C ああ) 岩塩を なんとまあ これぐらいほどねえ、

クレヨッタガ、 ソレオ ナイフデー、 (C ン一) シュー
くれたが それを ナイフで (C ん一) しゅう

シュー シュー シュー、 ケズッテヨ。 ホエデ、 アノー
しゅう しゅう しゅう 削ってね。 それで あのー

ケズッタヤツオ、 フッテ ソイデ ツケヤキシタリ**。
削った塩を ふって それで 付け焼きしたり**。

(C ン一) ホラー シオケ ナカッタラ ナンニモ
(C ん一) それは 塩気が なかつたら 何も

クエヘン。
食べられない。

(C シオケガ ナカッタラ ナンニモ タベラレヘンワ {笑})
(C 塩気が なかつたら 何にも 食べられないよ {笑})

ナンニモ クエヘン。
何も 食えない。

209C : ホンーマニ ドーニモ ショーガナイ。 (A ナー) サトーワ
本当に どうにも しかたがない。 (A ねえ) 砂糖は

ナイカテナー。 ナントカ イケルケド。
なくてもねえ。 なんとか いける [=生活できる] けど。

210A : ン一 サトーワ マー ナイカテ イケル。 (C ウン)
ん一 砂糖は まあ なくても いける [=生活できる]。 (C うん)

アノー シオガ ナカッタラ、 イケルモンヤナイワ。
あの 塩が なかつたら 生活できるものじゃないよ。

[29↑30]

{間} アノ シオノナイトキデモ、 ナンデ、 アノ、 イセノ、
{間} あの 塩のない時でも あれで、 あの 伊勢の

ワシ ナギリ、 ヨー イッタガ、 ナギリノハマニ イッタラ、
私 [は] 波切 [に] よく 行ったが 波切の浜に 行ったら

ホイータラ、 ナンア チョーイトシタ、 トコデ、
そしたら なんだ ちょっとした 場所で

コトコト コトコト コト ナニオ イゴイトルノヤシラン
ことこと ことこと ×× 何を 動いているのかしら [と]

滋賀県 30-2

オモータラ ホタラ クド [36] オ、 コシラエテナ。 (C ウン)
思ったら そしたら かまどを こしらえてね。 (C うん)

ホイデー、 アノー、 ソノクドニ、 アノ、 オガコ [37] オナー
そして あの そのかまどに あの、 鋸粉をねえ

(C ウン) ヒー ツケテヨ? (C アー)
(C うん) [鋸粉を入れて鋸粉に] 火を 付けてね? (C ああ)

ホイデ オガ オガコデ、 タキツメテナー、 (C ウン)
それで ×× 鋸粉で 焚きつめてね (C うん)

ホエデ イカナ、 アノ、 ナニ、 コシラエタリスル、 アノ、
それで なんと あの、 何、 作ったりする、 あの、

* * * * * (C ウン) ソコデ、 ウミノーミズ、 スクッテキテ
* * * * * (C うん) そこで、 海の水 [を] すぐってきて

(C アー) ダーット *** ソレオ タイテ アー ショッタ、
(C ああ) ダーッと *** それを 焚いて ああ していた、

ソデ ホア エーシオガ、 トレルゾナ。
それで それは よい塩が とれるよ。

211C : ウミノハタノヒトワナー ナントカ シオー ソラー {笑}
海のそばの人はねえ なんとか 塩を それは {笑}

シオミズ アルウエニ、 ア、
塩水 [が] あるうえに、 ×

滋賀県 30-3

212A : アー モー アノ、 ア リヨーシナンカデモナー、 (C シー)
ああ もう あの、 × 漁師などでもねえ、 (C んー)

アントキニヤー シオガ ナーテ コマットッテンワ。 アレ
あの時 [=時分] には 塩が なくて 困っていたんだよ。 あれ

リヨーシワ イカナ ソーヤッテ、 シオー、 タ、
漁師は なんとまあ そうやって 塩を ×

タキツメテナ。 (B フーン) タキツメタヤツオナー、
焼きつめてね。 (B ふうん) 烹きつめた塩をねえ、

(B ホー) アノー ワラノーツトー コシアエテ、 (C シー)
(B ほう) あの 薫の苞を こしらえて (C んー)

ソノワラーツトニー、 タキツメタシオー イレテ、 ホデ
その薫の苞に 烹きつめた塩を 入れて それで

アレ ャッパリ アノー ナニー、 トランアカンネンナー。
あれ やはり あの あれ [を] とらないといけないんだねえ。

シオ ツカエヘンネンナー。 アノ ニガリオ。
塩 [が] 使えないんだねえ。 あの にがりを [除去しないと]。

(C ウン ウン) ホエ ツト プラーント ツットイテ。
(C ウン ウン) それで 苞 [を] ぶらんと 吊っておいて。

スット チョク チョクー チョクン アノ、
[そう] すると ちよく ちよく ちよく [と] あの

滋賀県 30-4

シオカラ {笑} カンタンニー ニガリガ オチタールワエ。
塩から {笑} 簡単に にがりが 落ちているよ。

ソヤッテネー セナー アレ、 シオデモ アカンネンナ。
そうやってねえ しないと あれ、 塩でも だめなんだね。

アゲタナリデワ アカンネンナ。 (C ン一) {間} ヨーケ
炊きつめただけでは だめなんだね。 (C ん一) {間} たくさん

ソヤッテ シオー ツクッター。
そうやって 塩を 作った。

213D : {間} コビル ッテ ユーノワー、 ゴゼンモ ゴゴモ アルンデスカ。
{間} 小昼 と いうのは、 午前も 午後も あるんですか。

214A : エ? (D コビルワ、 ゴゼンモ ゴゴモ) (B イヤ ゴゴダケ)
え? (D 小昼は、 午前も 午後も) (B いや 午後だけ)

ア一 ゴゼン一ノ、 コビルワ ヨーケ ナイナー。
ああ 午前の 小昼は たくさん [は] ないねえ。

(D ア一) ア一 ゴゼ、 アノ一、 ナニ一 イクト、
(D ああ) あ一 ×× あの一、 あそこへ 行くと

ミエケン イクトナー、 (D ウン) ミエケンワー アノ マター
三重県 [へ] 行くとねえ (D うん) 三重県は あの また

ゴゼン一、 ノージュージハンゴロニナ。 コビル クイヨルワ。
午前の10時半ごろにね。 小昼 [を] 食うよ。

(C シー) (D シー) ソノカワリナ、 アサー オカユ
(C んー) (D んー) そのかわりね 朝 お粥 [を]

クッテー、 デヨル。 (D ア、 {笑} ソーデスカ) ナー、
食って、 出る。 (D あ、 {笑} そうですか) ねえ、

* * ガユ チュテヨー、 {笑} アサー オカユ クッテ
[朝] 粥 といってねえ、 {笑} 朝 お粥 [を] 食って

デヨルサカイニ、 モー ジュージゴロ ナッタ ハラ
出るから もう 10時ごろ [に] なつたら 腹 [が]

ヘンネン。 ホト、 タノ、 アゼー、 コシカケテナ、 ソシテ
減るんだ。 すると 田の 畦へ 腰かけてね そして

ソコデ、 アノ、 マタ、 ゴハン タベンネン。 (D アー)
そこで あの また ご飯 食べるんだ。 (D ああ)

[30↑31]

215C : ケドー ムカシー ソノ タウエーワ ドーヤッタカー アサガ
だけど 昔 その 田植えは どうだったか。 朝が

ハヤカッタデ、 ヤッパリー ジュージカ ソコラニ ナンカ
早かったので やはり 10時か そのくらいに 何か

チョット。 (A アラヘン) ハラノ ハルモン、 タベヘン、
ちょっと。 (A ない) 腹の 張るもの [を] 食べない

タベヘン。

食べない [かね]。

滋賀県 31-2

216A：ソレー シヤヘナンダナ。 (D ハー) ソレー タベヘンカテナー、
それは しなかったな。 (D はあ) それ 食べなくてもねえ

(C ンー) モーナー ジューアイチジニワ モー
(C んー) もうねえ 11時には もう

ヒルニ、 カエッテクル。
昼 [ごはんを食べ] に 帰ってくる。

217C：ア一 ヒルガ ハヤカッタデナー。

ああ 昼が 早かったのでねえ。

218A：ヒルワ ハヤイ。 (C ウン) ソノカワリ アサー ハヤイワ。
昼は 早い。 (C うん) そのかわり 朝が 早いよ。

(C ウン。 アサ ハヤイ) アサー モー ヨジハンカラ
(C うん。 朝 早い) 朝は もう 4時半から

デトルモンナー。 (D ンー) ゴジニワ モー タエ
出ているものねえ。 (D んー) 5時には もう 田へ

ハイツトルンヤナー。 ソレー ヒルワ マー ジュ、
入っているんだねえ。 それで 昼は まあ ××

(B ハヤイヤツワ ジューアイチジマデニ) ジューアイチジマデニ モー
(B 早い人は 11時までに) 11時までに もう

ヒル。 モー ハヤイヤツワ ジュージハンゴロニ モー
昼。 もう 早い人は 10時半ごろに もう

滋賀県 31-3

ヒルニ カエッテクル。 (D フン) ソレデ、
昼 [休みのため] に 帰ってくる。 (D ふん) それで

ヒルマデノシゴトナ、 オーカタ デケテシマウネン。 (D アー)
昼までの仕事 [は] ね おおかた できてしまうんだ。 (D ああ)

219C : モ タウエワ モー、 ヒルマデニ セン、 シトカント
もう 田植えは もう 昼までに ×× しておかないと

(A ヒルイ、 ヒルマデニ モー) ヒルカラワ モー イクラモ
(A ××× 昼までに もう) 昼からは もう いくらも

デケヘン。

できない。

220A : ハ ハチブグライ、 (D アー) シゴト シテシマイヨル。
× 8分ぐらい (D ああ) 仕事 [を] してしまう。

ホイデ ヒルカラワ モー ニブホド ャッ。 (D ン一)
それで 昼からは もう 2分ほど やつ [て]。 (D ん一)

モー サンジニワ モ カエッテキヨンネン。 ナ。
もう 3時には もう 帰ってくるんだ。 ねえ。

221C : モー サンジ、 (A {笑}) ヤ モー エ ヨジゴロ
もう 3時、 (A {笑}) いや もう × 4時ごろ [に]

ナッタラ アシタノ、 ナエトリ センナラン。
なつたら 明日の、 苗取り [を] しなくてはならない。

222A : ナエトリ センナランサカイニ。 デ マタ、

苗取り [を] しないといけないから。 で また

ヨソノウチ、 D ウン) イカンナランデ

よその家 [に] D うん) 行かなければならぬので。

デ ソレカラ マター、 ナンヤ ナエトリ。

で それから また 何だ、 苗取り [だ]。

モ一 ココノ、 ヒチー、 ヒチーカ、 ヒチジマデグライ

もう ここノ、 ××× 7時か、 7時ぐらいまで

オンデ ナエトリ センナランワノ一。

それで 苗取り [を] しなければならぬよねえ。

(B *** ソーナー) ナー ロクジマデニワ、

(B *** そう [だ] ねえ) ねえ 6時までには

ナエトリ デキヒンワナー。

苗取り [は] できない [=終わらない] よねえ。

(B デキヤヘンヤロ? ヨーケ トランナントナー)

(B できないだろう? たくさん 取らなければならぬよねえ)

ンーデ、 (B デケヘン) テーデノー、 (D {笑})

それで、 (B できない) 手でねえ、 (D {笑})

チャバチャバ チャバチャバ {笑} ューテ。

ちよぼちよぼ ちよぼちよぼ [と] {笑} いって [音を立てて]。

(B シー) {笑} ナエ トンネヤサカイニナ。
(B んー) {笑} 苗 [を] 取るんだからね。

223C : コシノ イタイシゴトデー。
腰の 痛い仕事で。

224A : アレア コシガ イタイノー。 テマ イルー シー、 トリニクイ、
あれは 腰が 痛いねえ。 手間[の] 要る んー、 取りにくい

ナワシロ アッタラ ンナモン、 (C ナー。
苗代 [が] あると そんなもの、 (C ねえ。

タイヘンヤ) ナカナカー トリエヘンネン アレー。 *****
大変だ) なかなか 取れないんだ あれは。 *****

225C : アレ ドーヤー アレ、 アノ、 オナゴノ
あれ [は] どうだ あれ、あの、 女性の、

オバーサンワ ヨー トライタワ。 {笑}
[とくに] おばあさんは よく とりなさったよ。 {笑}

(A {笑} ソーヤナー) オバーサンノシゴトデ。 (A オー)
(A {笑} そうだねえ) おばあさんの仕事で。 (A ああ)

226B : ンモ ヒヤクモ コエタデ ナカナカ
もう 100も [=100歳も] 越えたので なかなか

キバランナラン。 (C シー)
がんばらなければならない。 (C んー)

227A : エー ルスパン シテル オバーサン、 エ ナワシロエ
えー 留守番 [を] している おばあさん [は] × 苗代へ

アサカラ ハイッテヤデ。 (D ン一) ソヤナケリヤ オマイ
朝から 入ってだよ。 (D ん一) そうでなければ あなた

{笑} (B トリエヘンワナ) ウエテモラエヘンノヤデ。
{笑} (B 取れないよね) 植えてもらえないんだよ。

228C : マー サンニンモ ヨタリモ ゴニンモー、 イチニチニ
まあ 3人も 4人も 5人も、 1日に

タウエサン キテモラオー ト オモウトナー。
[たくさん] 田植えさん [に] 来てもらおう と 思うとね。

(A ソヤ ソヤー) ソノヒトラニ
(A そうだ そうだ) その人たちに

トッテモータンダケノナエデワ タランデヨ。
取ってもらっただけの苗では 足りないのでね。

(A タラン タラン) (B タラン タラン)
(A 足りない 足りない) (B 足りない 足りない)

229A : {間} マー ミンナ クローヤナー。 アーユートキワ。 {咳}
{間} まあ みんな 苦労だね。 ああいう時は。 {咳}

230C : ホト タウエサンガー アノ ターガリー [38] シテ、 アノ一、
それと 田植えさんが あの 田上がりして あの

滋賀県 32-2

カエラッサルワナー。 (A ウン) ソノトキワ ホンデ チョット
帰りなさるよねえ。 (A うん) その時は それで ちょっと
イップクシテー。 (A ソヤ ソヤ) アノー、
ひと休みして。 (A そうだ そうだ) あのー、

231A : イップクシテナ、 (C ウン-) チョットー、 アノー、
ひと休みしてね、 (C うん) ちょっと あの

(B **** タベテモロテナ) オヤツノ、 カワリニ、
(B **** 食べてもらってね) おやつの かわりに
(C ン-) ナ、 ナンナト、 チョット マー ハラ、
(C ん-) × なんなりと ちょっと まあ 腹 [の]

ハルモンカヨー (C ウン) ソーユーモンデモナ、 ダシテ。
張るものかね (C うん) そういうものでもね 出して。

タベテカエッテモラウネンナ。
食べて帰つてもらうんだよね。

232C : {間} ナカナカ タウエサンワー クライガー
{間} なかなか 田植え [をする人] は 位が

タカカッタデナ。 {笑}
高かったのでね。 {笑}

233A : ソー。 {笑} ソラ タウエサンヤデ。
そう。 {笑} それは [だって] 田植え「さん」だよ。

滋賀県 32-3

(C タウエサン {笑}) {笑} (B {笑}) ソリヤ
(C 田植え「さん」 {笑}) {笑} (B {笑}) それは
ナカナカ モー アノ、 タウエン ナッタラ ナカナカ
なかなか もうあの 田植に なつたら なかなか
オナゴー、 ナー (B クライ タカイネヤロ?) イヤ イヤ
女性 [は] ねえ (B 位 [が] 高いんだろう?) いや いや
ヤー エ、 エラソーニ シヤル。 {笑} (B・C {笑})
いや × 偉そうに する。 {笑} (B・C {笑})

234C : ウエテモラオー ト オモウト ダイジニシトカンナラン。
植えてもらおう と 思うと 大事にしておかなければならない。

235A : {笑} ダイジニセンナラン。 (C ウン) ホンマニ
{笑} 大事にしなければならない。 (C うん) 本当に
ダイジセンナラン。 エー ソレオ シルフミ [39] アノ、
大事にしなければならない。 えー それを 水田整地に あの、
オイマワサレテルトヨー、 アー ッテカラ、 アー ココ
追いまわされているとね、 あー それから、 あー ここ [に]
ナエ アラヘン ナイノカネー ナエ オクレー ト
苗 [が] ない ないのかねー 苗 [を] [早く] おくれ と
ユーテ。 アー テ マタ タンナカカラ、 デテ、
いって [催促される]。 ああ って また 田の中から 出て

滋賀県 32-4

ナー。 (B ソヤネンナー) アー タウエノマエー
ねえ。 (B そななんだよねえ) ああ 植え手の前へ

シリノシタエムケテ、 バーット (C {笑}) {笑}
後の方へ向けて ばあっと [放り投げる] (C {笑}) {笑}

236C : ソラ オーゼー、 キテモラオー ト オモウト オナゴデモー
それは 大勢[の植え手に] 来てもらおう と 思うと 女性でも

タイヘンヤッタヤロ ソノー オナリー [40]。
大変だっただろう その 台所仕事が。

237B : ナンゾ タベルヨーイ センナランナー。
何か 食べる用意 [を] しなければならないねえ。

238C : ナー タベルヨーニ (B ンー) ア ア、 アシタノタベルコシラエ、
ねえ 食べるように (B んー) × × 明日の食べるこしらえ、

(B ナー) ジブンノヤナシニ、 (B デ ヨサリ [41])
(B ねえ) 自分のじゃなくて、 (B で 夜

ネラレヘンヤロ?) ソノヒトラニ タベテ コ、
寝られないでしょう?) その人たちに 食べて ×

モラウ コシラエ センナラン。
もらう こしらえ [を] しなければならない。

(B ソーヤ ソヤ ソヤ) (A ソヤ) ソレガ タイヘンヤ。
(B そうだ そうだ そうだ) (A そうだ) それが たいへんだ。

滋賀県 32-5

(A ホーデ マ エーノ) ホーデ イッショニ
(A それで まあ 家の) それで 一緒に

デテコンナランシヤ。

出てこなければならないし、だ。

239A : ホヤデ、 エーノオナゴ オマエ ヨドーシヤ。 (C ナー)
そうだよ、 家の女性は あなた 夜通した。 (C ねえ)

(B ヨドーシヤワナー、 ネ、 ネテラレヘンナー) ナー
(B 夜通しだよねえ、 ね、 寝ていられないねえ) ねえ

ネテラレヘンヤ。 (B ネテラレヘン) アサワ イカナ ホン、
寝ていられないよ。 (B 寝ていられない) 朝は なんと まだ、

クライウチカラ オキンナラン。 ノー。
暗いうちから 起きなければならない。 ねえ。

240B : シーマニ ソーヤッタナー。 ヨー アンナコト シテ
本当に そうだったねえ。 よく あんなこと [を] して

コシテキタゾナー。

越してきたものだねえ。

241A : ヒトニ キテ、 * ヒトニ キテモラオ オモタ
人に 来て * 人に 来てもらおう [と] 思つたら
タイヘンヤデ。 ヨドーシ、 *** ナー。
大変だよ。 夜通し、 *** ねえ。

滋賀県 32-6

(C {笑} ヨドーシ) {笑} ナンドコヤアレヘン。
(C {笑} 夜通し) {笑} 何どころではない。

242C : オナリワ オンナノシゴトヤデナー。 (B ソーヤ)
台所仕事は 女性の仕事なのでねえ。 (B そうだ)

243D : {間} ジャ、 ドーモ アリガトーゴザイマシタ。 ダイタイ
{間} じゃ、 どうも ありがとうございました。 だいたい

ジカンニ、 ダ ト オモイマスノデ。 (A ア) (B オーキニ)
時間× だと 思いますので。 (A あ) (B ありがとう)

ドーモ オツカレサマデゴザイマシタ。 (A イヤ ドーモ {笑})
どうも お疲れさまでございました。 (A いや どうも {笑})

32个

滋賀県甲賀郡甲賀町1981注記

- [1] ナンヤワは、「何だねえ」がもとの形。「あのう」「あのねえ」「そうだねえ」の意。
- [2] ウススリは、脱穀のこと。
- [3] ナンセは、「なんといっても」の意。
- [4] メンパ（面桶）は、曲げ物で、飯盒型の弁当箱。山仕事の弁当箱としてよく使われた。『滋賀県方言語彙・用例辞典』（増井金典編著、サンライズ出版、2000年）
- [5] 7合をシチゴーとはいわない。ヒチゴーが正しいと信じているようである。
- [6] ツレント、ツレット、いずれも使う。副詞「すっかり」の意。
- [7] コビリ（小昼）は、10時ごろの食事のことだが、おやつの意で使っている。コビル、コビリ、などと発音されるが、神での一般的な発音はコビル。
- [8] カワは、蓋の意。ミに対してカワという。
- [9] ソーヨは、「そうだ」の意。
- [10] タベヤは、「食べりや」の意。「食べれば」「食べると」のように、順接の確定条件を示す用法であろう。
- [11] ユルゴは、屑米のこと。みのらぬ穂をミヨサといい、調整したあとの屑米をユルゴという。
- [12] イカナは、「なんとまあ」の意。「如何なることにか」が原形か。
- [13] コボットは、擬態語「こっぽりと」の意。
- [14] コスイは、ぬけめなく立ち回る意。落ち度なく、絶えず注意するの意のように、いい意味でも使うようだ。
- [15] ネング（年貢）は、「小作料」の意。神の一般田は、反収6俵・年貢3俵が、当時の小作料の標準だった。
- [16] オシ、オツユは、お汁の意。
- [17] ゲッソリは、「がっかり」の意。
- [18] ムケテは、「～に向けて」「～に対して」の意でよく使う。軍隊用語が影響したのか。女性の用語にはないようなので、本来の神のことばではないのであろう。

- [19] ツモンデは、「つまんで」の意。a→oの母音転化であろう。
- [20] ションベは、小便の意。
- [21] ツクネモンは、つくねたものの意。こねあげてまるめたもの。団子饅頭の類。
- [22] タダマメは、ただの豆の意。普通の豆、つまり大豆。
- [23] コワ、オコワは、こわ餅のこと。餅米に粳米を入れて、塩味をして搗いたもの。
- [24] イリコ（炒り粉）は、ふつう小麦を炒ってそれをひいた粉。麦こがし。はつたいの粉。大豆を炒ってひいた粉、きな粉に対していうことば。
- [25] ドントは、「うんと」「たくさん」「多量に」の意。
- [26] カサヤノカサボネ（傘屋の傘骨）は、ことわざであろうか。甲賀町内の他の地域では通じないので、狭い地域の古いことわざのように思われる。「傘屋は、よくない傘骨ばかりを自らが使って、良い傘骨は売り物に出す」の意か。
- [27] ウシノジュンジュンは、すきやきの意。
- [28] 茶は、チャーと伸ばす。1音節語を伸ばすのは関西方言の一般的特徴。ただし、個人差もあり、個人でも時によりゆれがある。
- [29] ゴロを「あたり」の意で使うのは珍しい。
- [30] クロボコ、クロボクは、黒いねばりけのない土。火山灰系の土か。
- [31] ホーヤの他に、ホイニともソイニとも。ホイニ、ソイニは、「そうだとも」の意で、同感の気持ちを強く表す。
- [32] ホシミセヤは、乾店屋の意。道路の側に出す臨時の店。露店。
- [33] ヘバツケテは、「ひっつけて」「くっつけて」の意。
- [34] オタヤンは、「お多福」の意。どこを折ってもお多福が出てくる長い飴。ヤンは、兄やん、お父やん、のヤンと同じか。
- [35] ギオンノマツリは、甲賀町大原地区氏神大鳥神社の祭礼。7月23日ごろ。
- [36] クド、カマドは使うが、ヘツツイは使わない。
- [37] オガコ（大鋸粉）は、鋸の切り粉のこと。
- [38] ターガリ（田上がり）は、田植作業を終えて、田から上がること。
- [39] シルフミは、水田整地のこと。田に水を張って、巾の広い鍬で、田面を平にして植えやすいようにする。しづかき代搔。
- [40] オナリは、台所仕事のこと。『広辞苑』によれば、田植時、食物を田へ運ぶ

人を「おなりど」という。

[41] ヨサリは、夜のこと。古語で、「夜さりつかた」の意。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次（昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話（1時間）

- ③老年層の女性 2 人の対話、または、老年層の女性 3 人の会話（1 時間）
 - ④老年層と若年層との対話、または、両者を含む 3 人の会話（1 時間）
 - ⑤老年層の男性 2 人の、目上の者と目下の者の対話（2 時間）
 - ⑥場面設定の対話（1 時間、各場面につき 1 ~ 3 分程度）
場面に応じて、老年層の男性 2 人の対話、または、老年層の男女各 1 人による対話
 - ⑦当該地域に伝わる民話（1 時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、
 - ⑧老年層の女性 2 人の、目上の者と目下の者の会話（1 時間）
または、
 - ⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2 人の対話（1 時間）
を収録する。
- ①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「子どもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「子どもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について 5 地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるよう、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道	山形県
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町	06a 新庄市
01b 十勝支庁中川郡豊頃町	06b 寒河江市
01c 渡島支庁亀田郡榎法華村	06c 東田川郡櫛引町
01d 渡島支庁松前郡松前町	06d 東田川郡朝日村
青森県	06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
02a 下北郡川内町	福島県
02b 北津軽郡市浦村	07a いわき市
02c 上北郡野辺地町	07b 大沼郡会津高田町
02d 三戸郡五戸町	07c 大沼郡昭和村
02e 弘前市	茨城県
岩手県	08a 高萩市
03a 久慈市	08b 久慈郡里美村
03b 宮古市	08c 水戸市
03c 遠野市	08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
03d 大船渡市	08e 古河市
03e 一関市	栃木県
宮城県	09a 大田原市
04a 本吉郡本吉町・歌津町	09b 日光市
04b 栗原郡築館町	09c 宇都宮市
04c 仙台市	09d 芳賀郡益子町
04d 亘理郡亘理町	09e 安蘇郡田沼町
04e 刈田郡七ヶ宿町	群馬県
秋田県	10a 利根郡片品村
05a 鹿角市	10b 吾妻郡六合村
05b 能代市	10c 前橋市
05c 仙北郡西木村	10d 邑楽郡大泉町
05d 河辺郡雄和町	10e 甘楽郡下仁田町
05e 湯沢市	

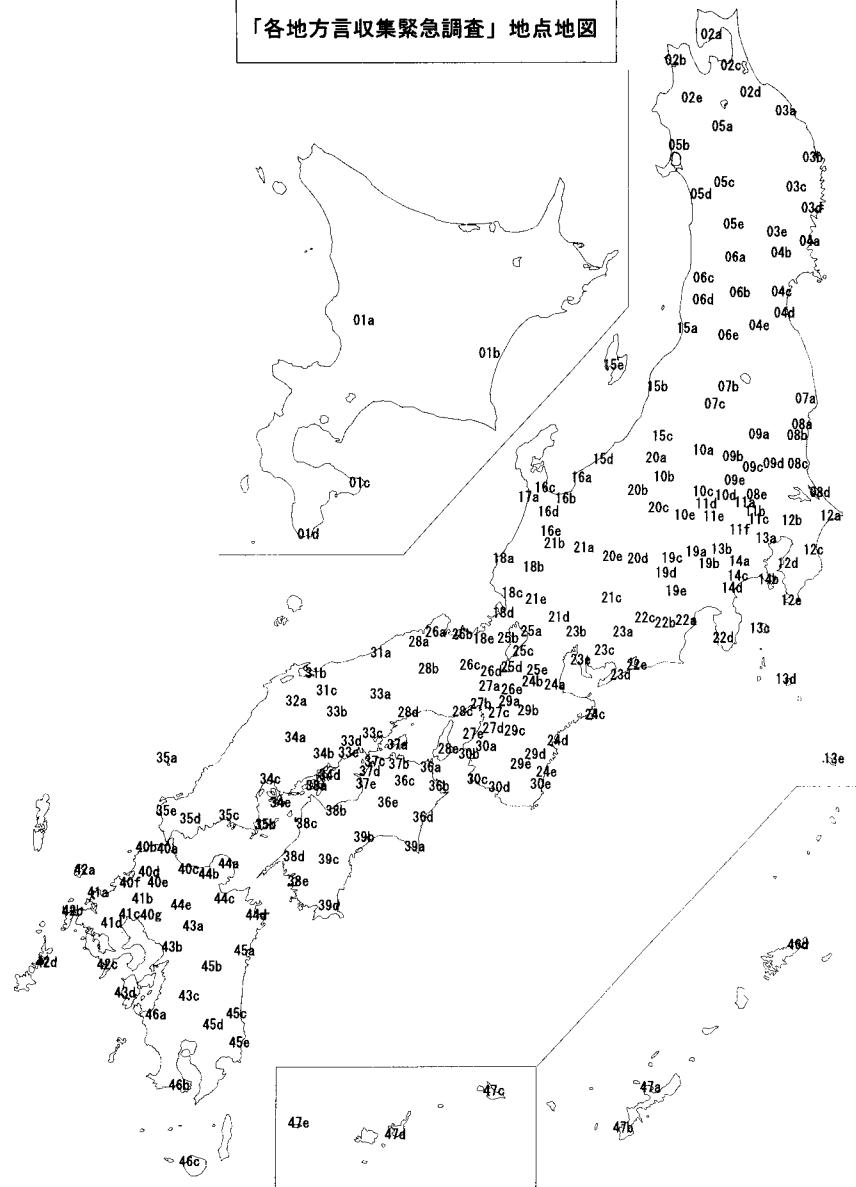
埼玉県	
11a 加須市	富山県
11b 南埼玉郡宮代町	16a 黒部市
11c 春日部市	16b 富山市
11d 児玉郡上里町	16c 氷見市
11e 秩父郡長瀞町	16d 砺波市
11f 入間郡大井町	16e 東礪波郡上平村
千葉県	石川県
12a 海上郡飯岡町	17a 羽咋郡押水町
12b 印旛郡印西町（→印西市）	福井県
12c 長生郡長生村	18a 坂井郡芦原町
12d 木更津市	18b 勝山市
12e 館山市	18c 南条郡南条町
東京都	18d 敦賀市
13a 台東区	18e 遠敷郡名田庄村
13b 西多摩郡檜原村	山梨県
13c 大島町	19a 塩山市
13d 三宅村	19b 大月市
13e 八丈町	19c 薩崎市
神奈川県	19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
14a 愛甲郡愛川町	19e 南巨摩郡身延町
14b 横須賀市	長野県
14c 秦野市	20a 下水内郡栄村
14d 小田原市	20b 長野市
新潟県	20c 小諸市
15a 村上市	20d 伊那市
15b 西蒲原郡分水町	20e 木曾郡開田村
15c 十日町市	
15d 糸魚川市	
15e 佐渡郡佐和田町	

岐阜県		京都府	
21a 高山市		26a 中郡峰山町	
21b 大野郡白川村		26b 舞鶴市	
21c 中津川市		26c 船井郡丹波町	
21d 岐阜市		26d 京都市	
21e 捱斐郡徳山村		26e 相楽郡山城町	
静岡県		大阪府	
22a 静岡市		27a 高槻市	
22b 榛原郡本川根町		27b 大阪市	
22c 磐田郡水窪町		27c 八尾市	
22d 賀茂郡松崎町		27d 河内長野市	
22e 浜名郡新居町		27e 泉佐野市	
愛知県		兵庫県	
23a 北設楽郡設楽町		28a 豊岡市	
23b 西春日井郡師勝町		28b 朝来郡生野町	
23c 岡崎市		28c 神戸市	
23d 豊橋市		28d 相生市	
23e 常滑市		28e 洲本市	
三重県		奈良県	
24a 安芸郡美里村		29a 大和郡山市	
24b 阿山郡阿山町		29b 宇陀郡榛原町	
24c 志摩郡阿児町		29c 五條市	
24d 北牟婁郡海山町		29d 吉野郡下北山村	
24e 南牟婁郡御浜町		29e 吉野郡十津川村	
滋賀県		和歌山県	
25a 長浜市		30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町	
25b 高島郡安曇川町		30b 和歌山市	
25c 神崎郡能登川町		30c 御坊市	
25d 大津市		30d 田辺市	
25e 甲賀郡甲賀町		30e 新宮市	

鳥取県	香川県
31a 鳥取市	37a 小豆郡土庄町
31b 米子市	37b 木田郡三木町
31c 日野郡日野町	37c 丸龜市
島根県	37d 仲多度郡多度津町
32a 仁多郡仁多町	37e 觀音寺市
岡山県	愛媛県
33a 勝田郡勝央町	38a 越智郡大三島町
33b 新見市	38b 西条市
33c 岡山市	38c 松山市
33d 小田郡矢掛町	38d 大洲市
33e 笠岡市	38e 宇和島市
広島県	高知県
34a 三次市	39a 室戸市
34b 府中市	39b 高知市
34c 広島市	39c 高岡郡橿原町
34d 因島市	39d 幡多郡三原村
34e 安芸郡倉橋町	福岡県
山口県	40a 北九州市
35a 萩市	40b 遠賀郡芦屋町
35b 大島郡大島町	40c 築上郡新吉富村
35c 徳山市	40d 飯塚市
35d 美祢市	40e 嘉穂郡稻築町
35e 豊浦郡豊北町	40f 福岡市
徳島県	40g 八女市
36a 鳴門市	佐賀県
36b 阿南市	41a 東松浦郡鎮西町
36c 美馬郡脇町	41b 鳥栖市
36d 海部郡海南町	41c 佐賀市
36e 三好郡東祖谷山村	41d 武雄市

- | | |
|--------------|--------------|
| 長崎県 | 沖縄県 |
| 42a 壱岐郡芦辺町 | 47a 国頭郡今帰仁村 |
| 42b 平戸市 | 47b 那霸市 |
| 42c 長崎市 | 47c 平良市 |
| 42d 南松浦郡奈良尾町 | 47d 石垣市 |
| 熊本県 | 47e 八重山郡与那国町 |
| 43a 阿蘇郡阿蘇町 | |
| 43b 熊本市 | |
| 43c 球磨郡錦町 | |
| 43d 天草郡天草町 | |
| 大分県 | |
| 44a 東国東郡国東町 | |
| 44b 宇佐市 | |
| 44c 大分郡挾間町 | |
| 44d 佐伯市 | |
| 44e 日田郡前津江村 | |
| 宮崎県 | |
| 45a 延岡市 | |
| 45b 東臼杵郡椎葉村 | |
| 45c 宮崎市 | |
| 45d 北諸県郡山田町 | |
| 45e 日南市 | |
| 鹿児島県 | |
| 46a 出水市 | |
| 46b 摺宿郡頴娃町 | |
| 46c 熊毛郡上屋久町 | |
| 46d 大島郡龍郷町 | |

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001.10.01作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日
文化庁長官裁定
(昭和62年6月1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分	項目	目	目の細分	説明
各地方言収集緊急調査事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金 ○○文字化謝金 ○○協力謝金	調査員、調査補助員等謝金 資料
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費	通信運搬費	郵便、電信電話料等
			使用料及び賃借料	会場借上料 器具借上料	
			委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

- (1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話
- (2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話
- (3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「子どものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「子どもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

　話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

　収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

　話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

　話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

　目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

　場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

　話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

　民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

　必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

　録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るために基本的な留意点は次のとおりである。

　① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

　② 内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないで、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

　③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があるので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

　録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

　④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

　⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

　文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画 (() は実施要領・文字化の時間数)

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

(注) 3年次の「③ 民話」の収録不能のときは、2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

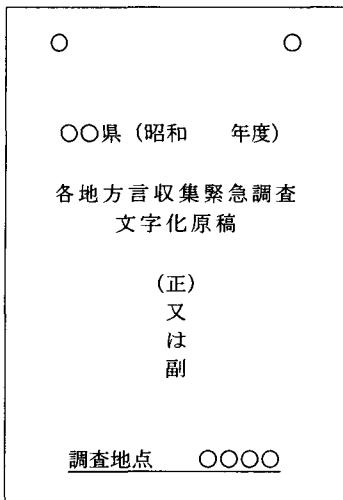
(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県		NO. <u>正</u> -○ (副)	補助要項 の記号
各地方言収集緊急調査録音記録票			
1	探録地点		
2	探録年月日		
3	話題・時間 A面	() 分	
	B面	() 分	
4	話者		
5	探録機種		

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文化化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特徴等解説（初年次のみ）、(3) 録音文化化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。



(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
 - ② 方言資料割付用紙
 - ③ 方言調査解説用紙
- } (別紙のとおり)

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（ア－(1)）	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（ア－(2)）		1
2年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（ア－(3)）		1
3年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
計	③ 民話（オ） (民話が収録できないときは、(注) 参照。)	30	1
			9

(注)

民話の適當な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ	1部
副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）	2部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿	1部
副……正のコピー	2部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県	NO. 正 - ○
各地方言収集緊急調査録音記録票	
1 採録地点	(副)
2 採録年月日	補助要項 の記号
3 話題・時間 A面	() 分
B面	() 分
4 話者	
5 採録機種	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴つてください。

○ ○
○○県（昭和 年度）
各地方言収集緊急調査 文字化原稿
(正) 又 は 副
調査地点 ○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)

- ② 割付用紙の左端の[]には話し手の略号を記入する。

- ③ カウンターフォードの録音機を使用した場合は、その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」「、」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮したことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次的方式によってほしい。

(ア) 長音には「一」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma^~do] (窓)

カンゴ [ka^~go] (籠) —高知方言など—

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwa3i] (火事) —九州方言など—

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) —九州方言など—

(カ) [ti] [di] はティ、ディ, [tu] [du] はトゥ, ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) —高知方言など—

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はフア, フイ, フエのように表わす。

例 フェンビ [ɸe^~bi] (蛇) —奥羽方言など—

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イエダ [jeda] (枝) —九州方言など—

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ, カエ, サエのように表す。

例 アカエー [akae:] (赤い) —岡山方言など—

(コ) [ɛ] [ke] [se] …はエア, ケア, セアのように表わす。

例 アゲア [age] (赤い) —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか, あるいは, 一般的な字母を使用しておき, そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ^(注)→^注 [kçimono]

オ アクセント, 文末イントネーションの記述の有無は, その表記法を含め, 担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には_____線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを_____線付きで記述し, 他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー^(注)→^注 「カステケロエ」または
「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし, 最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない, すなわち, 話者が主張するようにはどうしても聞き取れない場合もありうるが, このような場合には, 文字化担当者に「聞こえる音声」を_____線付きで記述し, 話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカ一^(注)→^注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聞き取り不能の箇所には, _____線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ, 言いかさなり, 言いなおし, 笑い声など。

ア 言いよどみは, その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には, 次のように()を利用し, 発言

が重複する部分に____線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ[°]トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレ[°]ー) アト スク[°]イ モッテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しあじめたような場合には、改行して、重複部分に____線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシ[°] マズ。 チョイット
ナカ[°]ス キター。

B イヤ イソカ[°]スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ×××××

ゴジューEngラエージャッタカナー。

オ 笑い声などは文字化本文中に()に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを()に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声的特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

- ① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
- ② 音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）
- ③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説、注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話しきかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）
なお、A、B、Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室（当時）、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成データベース名は、「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名は、「全国方言談話資料データベース」作成委員会である。作

成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度は交付の最終年度であり、『全国方言談話データベース』の公開を開始した。

なお、「全国方言談話資料データベース」の作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。

- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化のtextファイル、共通語訳のtextファイルを作成する。
- ⑬音声データは、デジタル化した後、サンプリングレート、音声ファイル形式などの調整を行い、音声waveファイルを作成する。そして、それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようとする。
- ⑮CDには、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地に赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声(waveファイル)、文字化(カタカナ表記、textファイル)、共通語訳(漢字かなまじり表記、textファイル)、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの(冊子、pdf)などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄(情報資料部門)、委員として、熊谷智子(研究開発部門第二領域)、三井はるみ(研究開発部門第二領域)、井上優(日本語教育部門第一領域)、井上文子(情報資料部門第一領域)が担当した。

なお、刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約200ページ、CD-ROM 1枚、CD 1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-11

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第11巻 京都・滋賀

2001年11月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

(平13-04)